

JAERI-Data/Code

2004-006



JP0450378



放射線管理用排気・排水データベース
システムの開発

2004年3月

菊地 正光・滝 光成・久米 悦雄・小林 秀雄
山田 稔穂*・山口 武憲

日本原子力研究所
Japan Atomic Energy Research Institute

本レポートは、日本原子力研究所が不定期に公刊している研究報告書です。

入手の問い合わせは、日本原子力研究所研究情報部研究情報課（〒319-1195 茨城県那珂郡東海村）あて、お申し越しください。なお、このほかに財団法人原子力弘済会資料センター（〒319-1195 茨城県那珂郡東海村日本原子力研究所内）で複写による実費領布をおこなっております。

This report is issued irregularly.

Inquiries about availability of the reports should be addressed to Research Information Division, Department of Intellectual Resources, Japan Atomic Energy Research Institute, Tokai-mura, Naka-gun, Ibaraki-ken, 319-1195, Japan.

© Japan Atomic Energy Research Institute, 2004

編集兼発行 日本原子力研究所

放射線管理用排気・排水データベースシステムの開発

日本原子力研究所東海研究所保健物理部

菊地 正光・滝 光成・久米 悦雄⁺・小林 秀雄^{*}・山田 稔穂^{*}・山口 武憲

(2004 年 1 月 30 日受理)

東海研究所においては、放射性物質の排気排水管理を必要とする約 40 の施設が存在している。これら施設における放射性物質の排気排水に係る管理は、法令等に基づき施設毎に実施しているが、国や県への報告では、施設毎に行われている測定結果を東海研究所として取りまとめ、報告を行う必要がある。そこで、施設毎に行われている放射線管理のデータから、施設外へ放出された放射性物質のデータを取りまとめるシステムを開発した。

本データベースには、放出された放射性物質に係る放射線管理データ、施設データ、被ばく評価用データ等が収録される。これらのデータから、東海研究所および施設毎における放射性物質の放出管理状況の把握並びに各種報告書に用いる放出放射性廃棄物関連の基礎資料作成が効率よく行えることになる。

東海研究所：〒319-1195 茨城県那珂郡東海村白方白根 2-4

+ 計算科学技術推進センター

※核燃料サイクル開発機構出向中

* 高度情報技術開発機構

A Development of a Database System for the Released Radioactive Gases and Liquid
from the Nuclear Facilities

Masamitsu KIKUCHI, Mitsumasa TAKI, Etsuo KUME⁺, Hideo KOBAYASHI ^{*},
Tosio YAMADA ^{*} and Takenori YAMAGUCHI

Department of Health Physics
Tokai Research Establishment
Japan Atomic Energy Research Institute
Tokai-mura, Naka-gun, Ibaraki-ken

(Received January 30, 2004)

The nuclear facilities, which are required to control the released radioactive gases and liquid, exist in Tokai research establishment as much as 40. These radioactive controls are carried out complying with the statutes in each facility. The released radioactivity data of each facility is reported to MEXT (Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology) and Ibaraki Prefecture Government from Tokai Research Establishment. So, the system that data on the radioactive substance that it was released by data on the control of a radiation being done in each facility to the outside of the facilities were put together was developed.

This database contains the radiation control data which affects released radioactive gases and liquid, facilities data, data for the exposure evaluation, and so on. The release control conditions of the radioactive materials in Tokai laboratory facilities are grasped by using these data. And, basic data preparation related to release radioactive waste to use for the report variously can be done efficiently.

Keywords : Database, Radiation Control, Released Radioactive Gases,
Released Radioactive Liquid

⁺ Center for Promotion of Computational Science and Engineering

[※] On loan to Japan Nuclear Cycle Development Institute

^{*} Research Organization for Information Science & Technology

目 次

1. はじめに	1
2. システム概要	3
2.1 アプリケーションの動作環境	3
2.2 データベース機能	4
3. データ生成規則	11
3.1 放出塵埃記録および放出ガス記録	11
3.2 放出廃液記録	13
3.3 放出塵埃中の Sr 分析結果	17
3.4 放出廃液中の Sr 分析結果	17
3.5 放出管理目標値との比較（気体廃棄物）	19
3.6 放出管理目標値との比較（液体廃棄物）	20
3.7 放射線管理等報告書（気体廃棄物）	21
3.8 放射線管理等報告書（液体廃棄物）	22
3.9 放射性廃棄物等管理報告書（気体廃棄物）	24
3.10 放射性廃棄物等管理報告書（液体廃棄物）	25
3.11 希ガスによる実効線量	26
3.12 液体廃棄物による実効線量	28
3.13 茨城県東海地区環境放射線監視委員会報告書（気体廃棄物）	29
3.14 茨城県東海地区環境放射線監視委員会報告書（液体廃棄物）	32
3.15 茨城県原子力安全協定に基づく報告（主な放射性廃棄物の処理処分状況）	33
4. まとめ	35
謝 辞	35
参考文献	35
付録 データベース仕様	37
1. データベースダイアグラム	39
2. テーブル仕様	53
3. ビュー	84
4. ストアドプロシージャ	86

Contents

1. Introduction	1
2. Outline of System	3
2.1 Condition of Personal Computer for Application Software	3
2.2 Function of Database	4
3. Data Formation Rule	11
3.1 Record of Released Radioactive Dust and Gases	11
3.2 Record of Released Radioactive Liquid	13
3.3 Result of Sr Analysis in the Released Radioactive Dust	17
3.4 Result of a Sr Analysis in the Released Radioactive Liquid	17
3.5 Comparison with Objective Dose (Released Radioactive Gases)	19
3.6 Comparison with Objective Dose (Released Radioactive Liquid)	20
3.7 Report of Radiation Control Data (Released Radioactive Gases)	21
3.8 Report of Radiation Control Data (Released Radioactive liquid)	22
3.9 Report of Radioactive Waste Control Data (Released Radioactive Gases)	24
3.10 Report of Radioactive Waste Control Data (Released Radioactive liquid)	25
3.11 Effective Dose by the Noble Gas	26
3.12 Effective Dose by the Released Radioactive Liquid	28
3.13 Ibaraki Prefecture Tokai Area Environment Radiation Monitoring Committee Report (Released Radioactive Gases)	29
3.14 Ibaraki Prefecture Tokai Area Environment Radiation Monitoring Committee Report (Released Radioactive Liquid)	32
3.15 Report on Ibaraki Prefecture Nuclear Safety Agreement (Disposal Conditions of Radioactive Waste)	33
4. Summary	35
Acknowledgement	35
References	35
Appendix Specification of Database	37
1. Diagram	39
2. Table	53
3. View	84
4. Stored Procedure	86

1. はじめに

日本原子力研究所東海研究所においては、核原料物質、核燃料物質および原子炉の規則に関する法律の適用を受ける原子炉施設や核燃料物質使用施設などが多数存在している。これらの施設は、関係法令、自治体との協定等により、放射線管理、廃棄物管理、放射線業務従事者の被ばく管理等の状況を、文部科学大臣、文部科学省原子力安全局長、茨城県および関係自治体へ報告している。排気・排水データは、廃棄物管理の項目として報告されている。各報告書は、それぞれ報告様式、頻度、項目等は異なっているが、基本データは同じである。

そこで、報告データの信頼性の向上、迅速化、業務手順の合理化、画一化を図るとともに、情報管理のOA化、公開、体系化の促進をねらいとし、東海研究所における排気・排水データを集約したデータベースシステムを構築した。

放射線管理用排気・排水データベースシステム（以下、排気・排水データベースという）は、区域放射線管理担当課にて管理している施設毎の排気・排水に関するデータを取りまとめ、報告用基礎資料の作成を行うものである。データベースの作成に当っては、①データの取り込みが容易であること、②入力データが特異な値（これまでの最大値、初めて検出された核種等）である場合は、入力時点で注意を喚起出来ること、③帳票の様式変更柔軟に対応できること、などを考慮した。データベースの仕様については、付録としてデータベースダイアグラム、テーブル仕様、ビュー、ストアドプロシージャを巻末に掲載した。

報告書作成の全体の流れを図1-1に示すとともに表1-1に排気・排水データベースにおいて取扱う主要データを示す。

なお、排気・排水データの自動転送基本プログラム⁽¹⁾は区域放射線管理担当課にて開発されている。今後、自動転送プログラムの各施設への適用およびデータ確認、転送ルール等の取り決めを行い、自動取り込みに移行することになる。

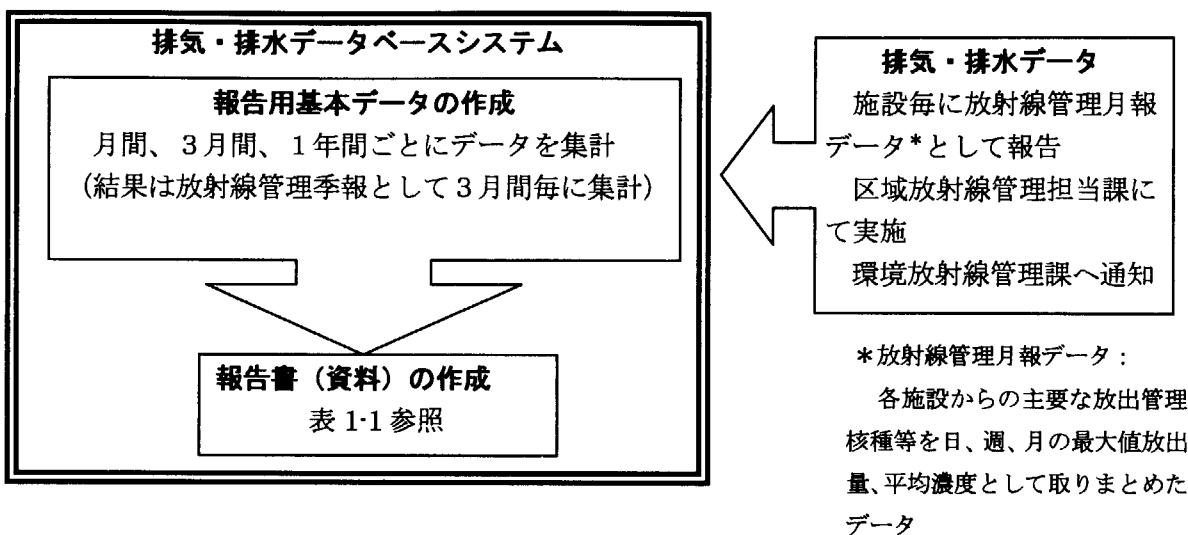


図 1-1 報告書作成の流れ

表 1-1 排気・排水データベースで扱う主要データ

主な入力データ	1.放射線管理月報データ 放射線管理月報として区域放射線管理担当課による取りまとめられる施設毎の排気・排水放射能関連データ 2.放射線管理月報以外のデータ (報告書を作成する上で必要となるその他のデータ) ①一般排水データ 一般排水データシートとして施設からの排水関連データを集計したもの ②排水溝毎の排水量 第1、第2、第3排水溝における日毎の排水量 ③排気中放射性核種の濃度算出用データ 主に排気風量に係る詳細データ ④線量換算用基準線量等 周辺監視区域境界外における被ばく評価に必要な係数で基準線量(CALDOS)⁽²⁾ および実効線量係数⁽³⁾
主な作成データ または 作成報告書	1.放射線管理等報告書 (炉規法に定められている報告 年2回報告) 2.放射性廃棄物等管理報告書 (文部科学省原子力安全局長への報告 年1回報告) 3.茨城県原子力安全協定に基づく関係報告書 (年4回報告) 4.茨城県放射線監視委員会報告書 (年4回報告) 5.保安規定に基づく報告書・通知書 (年4回報告・通知) 6.放射線管理季報 (報告書作成のための基礎データ集 年4回作成)

2. システム概要

排気・排水データベースは Microsoft Access データベース（以下 MDB）として 2000 年から開発を開始し、その後機能追加や処理改良などを随時行ってきた。2002 年 7 月からはデータの保守性の強化および所内 LAN を介してのデータ自動取り込みを目指し、環境放射線管理課に設置しているサーバマシンへ、放射線管理月報等のデータを、区域放射線管理担当課から直接デジタルデータとして取り込めるよう配慮した。

サーバ側には、MSDE 1.0 (Microsoft Data Engine) という Microsoft SQL Server 7.0 互換の RDBMS (リレーショナルデータベース管理ソフトウェア) が整備され、排気・排水データベースのテーブルやデータ定義およびデータ自体の管理を行っている。なお、データのバックアップについては、サーバにて自動的に月 1 回行うよう設定している。

一方、クライアント側は Access プロジェクト（以下 ADP）という Microsoft Access 2000 で拡張された新しいファイル形式を採用した。初期の排気・排水データベースは MDB 形式であったが、この形式ではデータベースを運用するのに必要な全てのオブジェクトを 1 つの MDB ファイルの中に保持しなければならなかった。それに対し ADP 形式では、自身のファイルにはフォームやレポートといったアプリケーション部分のみを保持するが、データに関する部分は、サーバ上で管理されているので Object Linking and Embedding DataBase (OLE DB) で接続して取得できる。

図 2-1 にこの ADP の構成を示す。サーバ上の放射線管理データは、ユーザが利用するアプリケーション部分から切り離され、MDB 形式に比べて PC のクラッシュ等に対して強固になっている。

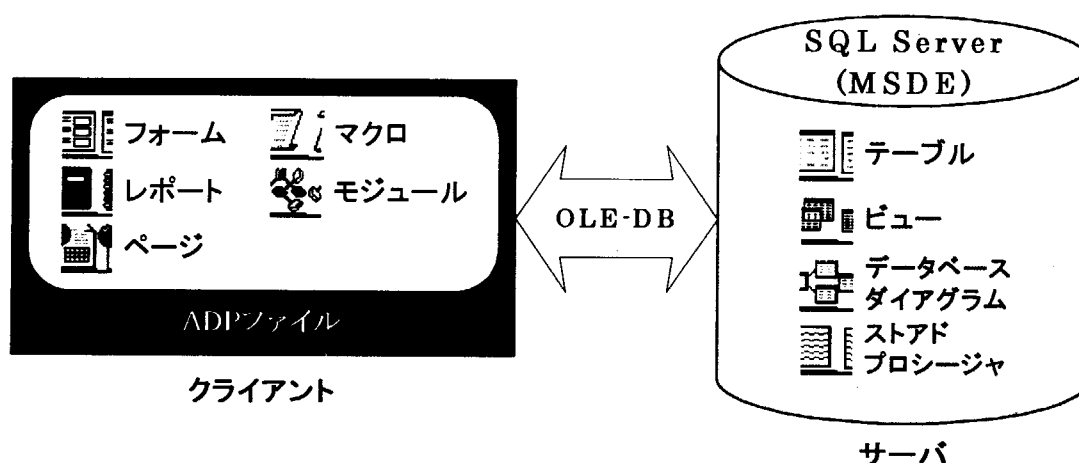


図 2-1 Access プロジェクト (ADP 形式) の構成

2.1 アプリケーションの動作環境

排気・排水データベースは、ネットワークを介してアクセスを行うため、利用しようとしているパソコンが、所内 LAN (TCP/IP 経由) に正しく接続できていることが第一条件となる。

次に、クライアントアプリケーションは Access プロジェクトで作成されているので、データベース管理ソフトウェア Microsoft Access 2000 がインストールされている必要がある。さらに、

Access により作成する報告書では、ヘッダー・フッター部分に Microsoft Word 2000 による文書データ（オブジェクト）が使われており、そのまま提出可能な帳票を Microsoft Excel 2000 を介して作成するため、これらもインストールされている必要がある。表 2-1 に Microsoft Access 2000 が動作するために必要なシステムを示す。

表 2-1 Microsoft Access 2000 動作に必要なシステム（抜粋）

日本語 オペレーティング システム	Microsoft Windows 95 Microsoft Windows 98 Microsoft Windows NT4.0 SP3 以上 Microsoft Windows 2000 Professional 以上 (Internet Explorer 5.01 以上を推奨)
コンピュータ本体	Pentium 75MHz 以上のプロセッサを搭載した パーソナルコンピュータ
メモリ	OS 使用分+Access 用 (8 MB)
ハードディスク	インストール領域 217MB 以上

本システムのソフトウェアは、Microsoft 株式会社製を使用しており、各アプリケーションソフトの詳細については各使用マニュアルを参考されたい。

2.2 データベース機能

本データベースの諸機能を起動メインパネルの表示を基に説明する。

2.2.1 排気・排水データベースの起動とメインパネル

Windows のエクスプローラなどから、排気・排水データベースの Access プロジェクトファイル（放射線管理.adp）をダブルクリックする。Microsoft Access が起動した後、排気・排水データベースのデータ管理作業を行うためのメインパネル（図 2-2）が表示される。

排気・排水データベースの各データ処理用フォームは、このメインパネルに設置されたコマンドボタンをクリックして表示する。メインパネルの概要については表 2-2 のとおりである。

放射線管理メインパネル

データ入力

① 放射線管理月報

② 一般排水データ

③ 排水溝流量

④ 日別排水流量

⑤ 放射線管理季報

⑥ 定期報告書

放射線管理
排気・排水
データベース
v2.20

日本原子力研究所 東海研究所
保健物理部 環境放射線管理課

データ保守

⑦ 管理施設

⑧ 核種

⑨ 季報データ

⑩ 廃液放出量比較

⑪ 一日平均濃度値

⑫ 最大値検索・グラフ

⑬ 常に表示するコメントなどを記入できます。サーバに保存されています。

⑭ 変更履歴を表示

⑮ 終了

図 2-2 排気・排水データベースのメインパネル

表 2-2 メインパネルの概要

項 目	概 要
①放射線管理月報	・放射線管理月報データの表示・入力
②一般排水データ	・一般排水データシート of データ（排水毎）表示・入力
③排水溝流量	・月毎、排水溝別の排水量を入力（廃液量、雑水量、希釈倍率なども表示）
④日別排水流量	・1日の排水溝流量を表示・入力
⑤放射線管理季報	・放射線管理季報の作成
⑥定期報告書	・定期的に報告する書類の作成
⑦管理施設	・排気・排水データベースで扱う放射線管理施設データの保守
⑧核種	・排気・排水データベースで扱う核種データの保守
⑨季報データ	・排気・排水データベースで作成した放射線管理季報データを表示及び値の修正
⑩廃液放出量比較	・放射線管理月報と一般排水データシート of それぞれで入力された放射性核種の放出量について比較レポートを作成
⑪一日平均濃度値	・放射線管理季報データ作成時に使用した排水溝別の一日平均濃度の値を表示
⑫最大値検索・グラフ	・放射線管理データベース内の報告データについて、最大値の検索やグラフの作成
⑬コメント欄	・任意の文字列を記述、文字列はサーバに保存され、起動時にメインパネルにて表示 ・利用者間でのお知らせ等の告知用に作成
⑭変更履歴	・放射線管理データベースの変更履歴の最新のものから3件を表示 ・変更履歴の追加や、履歴の全件表示
⑮終了	・排気排水データベースの終了

2.2.2 データ入力例

放射線管理月報を例に、データの入力と表示の例を示す。

排気・排水データベースのメインパネルより放射線管理月報ボタンをクリックし、放射線管理月報フォームを表示する（図 2-3 に放射線管理月報フォームへの表示例を示す）。このフォームを中心に放射線管理月報に関する全データを処理することができる。

放射線管理月報

平成15年5月

日本原子力研究所 東海研究所
保健物理部
環境放射線管理課

係名 研究施設管理係
施設名 第4研究棟

月報データ | Sr分析結果

排気口名
車道
西棟

排気率
[cm³/h]
6.9E+10

データ編集

核種	採取期間	濃度 [Bq/cm ³]		放 出 量 [Bq]			検出下限濃度 [Bq/cm ³]
		最大値	月平均濃度	最大値	月間放出量 検出下限以上 検出下限未満		
全α	W	< 4.9E-11	< 4.9E-11	—	—	—	4.9E-11
全β	W	< 7.2E-11	< 7.2E-11	—	—	—	7.2E-11
241Am	W	< 4.9E-11	< 4.9E-11	0	0	< 2.9E+03	4.9E-11
60Co	W	< 7.2E-11	< 7.2E-11	0	0	< 4.2E+03	7.2E-11
131I	W	< 7.1E-10	< 7.1E-10	0	0	< 3.6E+04	7.1E-10
HT	M	—	< 1.8E-06	—	0	< 9.5E+07	1.8E-06
HTO	M	—	< 1.9E-06	—	0	< 9.9E+07	1.9E-06

放出ダスト

放出ガス

核種	月平均濃度 [Bq/cm ³]	廃液量 [m ³]	放 出 量 [Bq]		検出下限濃度 [Bq/cm ³]	備考
			検出下限以上	検出下限未満		
241Am	< 2.6E-04	4.5E+03	0	< 1.2E+04	2.6E-04	▲
137Cs	< 2.2E-03		0	< 1.0E+05	2.2E-03	
90Sr(全β)	< 3.3E-03		—	—	3.3E-03	

一般排水

データ編集

(月濃度限度比)
0.19

閉じる

図 2-3 放射線管理月報（例：月報データページ）

2.2.3 定期報告書の作成と選択例

放射線管理データベースのメインパネルより定期報告書ボタンをクリックし、定期報告書作成パネルを表示し、ここから、表 2-3 に示す定期報告に用いる排気・排水関連書類（基礎資料）を作成する。

表 2-3 作成される定期報告用書類

定期報告書類
A. 放射線管理等報告書
B. 放射性廃棄物等管理報告書
C. 茨城県原子力安全協定に基づく関係報告書
D. 保安規定に基づく報告書・通知書

作成される報告書の例として放射線管理等報告書について示す。

放射線管理等報告書は、年度の上期・下期（年 2 回）に作成する。放射線管理等報告書を作成するには、作成する報告期に該当する表 2-4 に示したデータが必要である。これらのデータから計算処理により放射線管理等報告書用のデータを作成し、その後作成されたデータを使って報告書（表 2-5）並びに別添資料も作成する。この別添資料に関しては、排気筒と排水溝の両方の放射線管理等報告書用データが作成済みでなければ作成することができない。

表 2-4 放射線管理等報告書作成に必要なデータ

項 目	作成に必要なデータ	
排気筒	放出塵埃記録	放射線管理季報として まとめた値
	放出ガス記録	
	報告排気筒等の設定	
排水溝	放射線管理月報	
	放出廃液記録（排水溝計）	放射線管理季報として まとめた値
	排水溝主要核種の設定	

表 2-5 作成できる放射線管理等報告書

項 目	報告書の内容
排気筒	放射線管理等報告書の排気筒分
排水溝	放射線管理等報告書の排水溝分
別添(1)	通常の放射線管理等報告書 別添(1)
別添(1)用参考資料 (濃度限度比)	別添(1)の内容に加え、報告核種放出量の濃度限度比を記載

2.2.4 その他の機能

データベースの活用として、報告書の作成のほか異常値あるいは入力ミスの有無を確認するため、放射線管理季報で報告されている項目を対象に最大値等の検索及びデータのグラフ化を可能とした。表 2-6 に最大値検索・グラフ表示のコマンドボタン一覧を示す。

表 2-6 最大値検索・グラフ表示の選択パネルにおけるコマンドボタン一覧

コマンドボタン		データ処理の概要
最大値 の検索	塵埃・ガス	放出塵埃、放出ガス、Sr 分析データを対象に最大値の検索
	廃液	放出廃液、Sr 分析データを対象に最大値の検索
グラフ化	塵埃・ガス	放出塵埃、放出ガス、Sr 分析データを対象に値のグラフ表示
	廃液	放出廃液、Sr 分析データを対象に値のグラフ表示

また、入力中にこれまで確認されていない核種やこれまでの最大濃度（最大放出量）以上の値が入力された場合、入力画面に最大値であることのメッセージを表示し調査を促す機能を付加した。

2.2.5 帳票作成

排気・排水データベースにて作成する報告書については、Microsoft Access の機能を利用した帳票作成を行っている。しかし、核種、建家の変更を含めた様式の変更などが考えられるため、放射線管理季報と一部の定期報告書類については、様式の変更を考慮に入れ Microsoft Excel 文書を使用した帳票作成機能を整備した。以下に Microsoft Excel 文書を使用した帳票機能についての概要を示す。

この Excel 文書は、図 2-4 に示すように排気・排水データベースのクライアントアプリケーションになっている。その処理は、

- ① ユーザフォームによる作成報告書の指定
- ② 排気・排水データベースサーバへの接続
- ③ 報告書データの取得
- ④ 取得データをワークシート（セル）へ配置
- ⑤ 報告書のフォーマットへの整形

という一連の流れになっている。Access クライアントアプリケーション（放射線管理.adp）がすべてのデータベース操作を行うのに対して、この Excel 文書は帳票作成だけを行うアプリケーションという位置付けとした。単なる表計算ファイルにとどまらないので、ここでは Excel アプリケーションと呼ぶことにした。

Excel アプリケーションで作成した報告書と Access レポートとの大きな違いは、

- 表整形機能と文字表記の柔軟さにより、そのまま提出可能な報告書を作成できる。
- 作成する報告書の記入様式の変更への対応が容易である。
- 一部報告書については、東海研究所として報告するため他の報告データと組み合わせる必要がある。この場合の再編集が容易である。

という点にある。Access レポートは印刷イメージでの作成しかできないので、システムが予測していない例外的な報告が発生した場合の対応が困難である。この Excel アプリケーションが作成する報告書は基本的には Excel 文書であり、もしそのような問題が発生しても、後から利用者が自由

に編集することが出来る。

Excel アプリケーションにて作成する帳票の一覧を表 2-7 に示す。また帳票の作成例として、四半期報である放射線管理季報の排出塵埃及び放射性廃棄物等管理報告書の一部を図 2-5 及び 2-6 に示す。

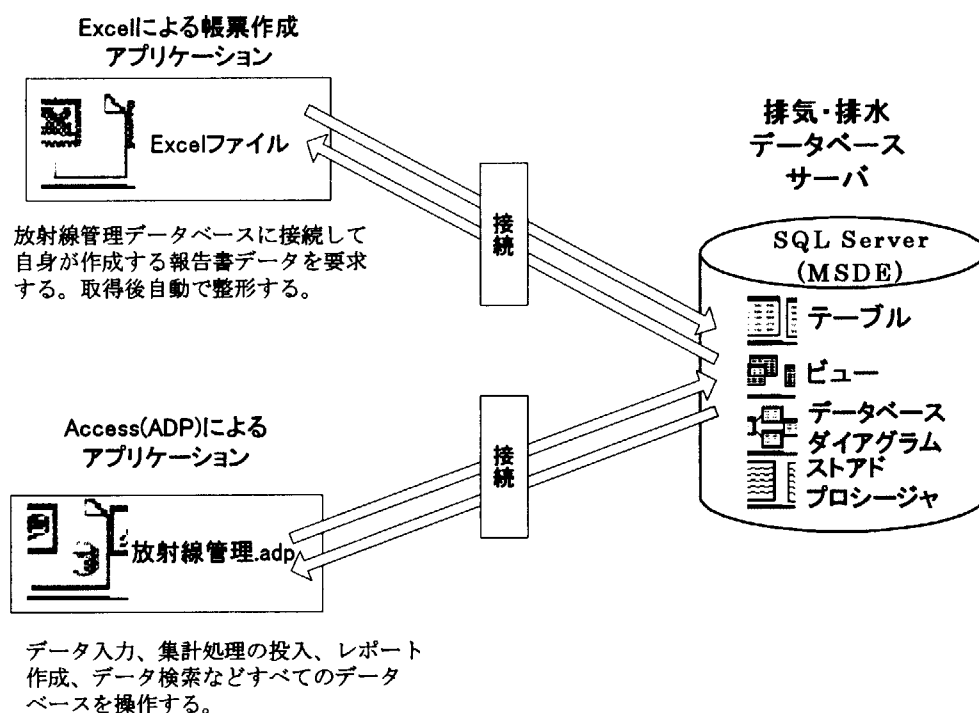


図 2-4 Access と同じようにサーバに接続する Excel アプリケーション

表 2-7 Excel アプリケーションが作成する帳票一覧

オリジナルのファイル名	作成する帳票	分類
放出塵埃記録.xls	放出塵埃記録	放射線管理季報
放出ガス記録.xls	放出ガス記録	
放出廃液記録_施設別集計.xls	放出廃液記録（施設別集計）	
放出廃液記録_排水溝計.xls	放出廃液記録（排水溝計）	
放出塵埃Sr分析結果.xls	放出塵埃中の ^{89}Sr , ^{90}Sr 分析結果	
放出廃液Sr分析結果.xls	放出廃液中の ^{89}Sr , ^{90}Sr 分析結果	
管理目標値気体.xls	放出管理目標値との比較（気体廃棄物）	
管理目標値液体.xls	放出管理目標値との比較（液体廃棄物）	
放射性気体廃棄物_原子炉施設.xls	放射性気体廃棄物の放出量（原子炉施設）	放射性廃棄物等管理報告書
放射性気体廃棄物_核燃料使用施設.xls	放射性気体廃棄物の放出量（核燃料使用施設）	
放射性液体廃棄物_原子炉施設.xls	放射性液体廃棄物の放出量（原子炉施設）	
放射性液体廃棄物_核燃料使用施設.xls	放射性液体廃棄物の放出量（核燃料使用施設）	
茨城県安全協定_気体.xls	放射性核種の処理処分状況 (1)気体	茨城県安全協定
茨城県安全協定_液体.xls	放射性核種の処理処分状況 (2)液体	

Microsoft Excel - 放射線管理季報

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 挿入(I) 書式(O) ツール(T) データ(D) ウインドウ(W) ヘルプ(H)

印刷 130% MS P 印刷 11 - B / U 標準 国 関 % , 日 月 年 日 - . *

O14

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
第9表 放出塵埃記録 (平成15年度)												
平成15年4月~6月												
建 家	核 種	区 分		月	4 月	5 月	6 月	3ヵ月				
第4研究棟	^{241}Am	濃 度	週平均最大		$< 4.9 \times 10^{-11}$	$< 4.9 \times 10^{-11}$	$< 4.9 \times 10^{-11}$	$< 4.9 \times 10^{-11}$				
		(Bq/cm ³)	平 均		$< 4.9 \times 10^{-11}$	$< 4.9 \times 10^{-11}$	$< 4.9 \times 10^{-11}$	$< 4.9 \times 10^{-11}$				
		放 出 量 (Bq)		0	0	0	0					
	^{60}Co	濃 度	週平均最大		$< 7.2 \times 10^{-11}$	$< 7.2 \times 10^{-11}$	$< 7.2 \times 10^{-11}$	$< 7.2 \times 10^{-11}$				
		(Bq/cm ³)	平 均		$< 7.2 \times 10^{-11}$	$< 7.2 \times 10^{-11}$	$< 7.2 \times 10^{-11}$	$< 7.2 \times 10^{-11}$				
		放 出 量 (Bq)		0	0	0	0					
	^{131}I	濃 度	週平均最大		$< 6.1 \times 10^{-10}$	$< 7.1 \times 10^{-10}$	$< 6.7 \times 10^{-10}$	$< 7.1 \times 10^{-10}$				
		(Bq/cm ³)	平 均		$< 6.1 \times 10^{-10}$	$< 7.1 \times 10^{-10}$	$< 6.7 \times 10^{-10}$	$< 7.1 \times 10^{-10}$				
		放 出 量 (Bq)		0	0	0	0					
	全 α	濃 度	週平均最大		$< 4.9 \times 10^{-11}$	$< 4.9 \times 10^{-11}$	$< 4.9 \times 10^{-11}$	$< 4.9 \times 10^{-11}$				
		(Bq/cm ³)	平 均		$< 4.9 \times 10^{-11}$	$< 4.9 \times 10^{-11}$	$< 4.9 \times 10^{-11}$	$< 4.9 \times 10^{-11}$				
	全 β	濃 度	週平均最大		$< 7.2 \times 10^{-11}$	$< 7.2 \times 10^{-11}$	$< 7.2 \times 10^{-11}$	$< 7.2 \times 10^{-11}$				
(Bq/cm ³)		平 均		$< 7.2 \times 10^{-11}$	$< 7.2 \times 10^{-11}$	$< 7.2 \times 10^{-11}$	$< 7.2 \times 10^{-11}$					
^{241}Am	濃 度	週平均最大		$< 4.9 \times 10^{-11}$	$< 4.9 \times 10^{-11}$	$< 4.9 \times 10^{-11}$	$< 4.9 \times 10^{-11}$					
	(Bq/cm ³)	平 均		$< 4.9 \times 10^{-11}$	$< 4.9 \times 10^{-11}$	$< 4.9 \times 10^{-11}$	$< 4.9 \times 10^{-11}$					
		放 出 量 (Bq)		0	0	0	0					

Microsoft Excel - 放...

シート1(Sheet1) シート2(Sheet2) シート3(Sheet3) 放出塵埃/

図形の書式設定(O) - 図 3 オートシェイプ(U) - \、□○図 4 図 5 図 6 図 7 図 8 図 9 図 10 図 11 図 12 図 13 図 14 図 15 図 16 図 17 図 18 図 19 図 20 図 21 図 22 図 23 図 24 図 25 図 26 図 27 図 28 図 29 図 30 図 31 図 32 図 33 図 34 図 35 図 36 図 37 図 38 図 39 図 40 図 41 図 42 図 43 図 44 図 45 図 46 図 47 図 48 図 49 図 50 図 51 図 52 図 53 図 54 図 55 図 56 図 57 図 58 図 59 図 60 図 61 図 62 図 63 図 64 図 65 図 66 図 67 図 68 図 69 図 70 図 71 図 72 図 73 図 74 図 75 図 76 図 77 図 78 図 79 図 80 図 81 図 82 図 83 図 84 図 85 図 86 図 87 図 88 図 89 図 90 図 91 図 92 図 93 図 94 図 95 図 96 図 97 図 98 図 99 図 100 図 101 図 102 図 103 図 104 図 105 図 106 図 107 図 108 図 109 図 110 図 111 図 112 図 113 図 114 図 115 図 116 図 117 図 118 図 119 図 120 図 121 図 122 図 123 図 124 図 125 図 126 図 127 図 128 図 129 図 130 図 131 図 132 図 133 図 134 図 135 図 136 図 137 図 138 図 139 図 140 図 141 図 142 図 143 図 144 図 145 図 146 図 147 図 148 図 149 図 150 図 151 図 152 図 153 図 154 図 155 図 156 図 157 図 158 図 159 図 160 図 161 図 162 図 163 図 164 図 165 図 166 図 167 図 168 図 169 図 170 図 171 図 172 図 173 図 174 図 175 図 176 図 177 図 178 図 179 図 180 図 181 図 182 図 183 図 184 図 185 図 186 図 187 図 188 図 189 図 190 図 191 図 192 図 193 図 194 図 195 図 196 図 197 図 198 図 199 図 200 図 201 図 202 図 203 図 204 図 205 図 206 図 207 図 208 図 209 図 210 図 211 図 212 図 213 図 214 図 215 図 216 図 217 図 218 図 219 図 220 図 221 図 222 図 223 図 224 図 225 図 226 図 227 図 228 図 229 図 230 図 231 図 232 図 233 図 234 図 235 図 236 図 237 図 238 図 239 図 240 図 241 図 242 図 243 図 244 図 245 図 246 図 247 図 248 図 249 図 250 図 251 図 252 図 253 図 254 図 255 図 256 図 257 図 258 図 259 図 260 図 261 図 262 図 263 図 264 図 265 図 266 図 267 図 268 図 269 図 270 図 271 図 272 図 273 図 274 図 275 図 276 図 277 図 278 図 279 図 280 図 281 図 282 図 283 図 284 図 285 図 286 図 287 図 288 図 289 図 290 図 291 図 292 図 293 図 294 図 295 図 296 図 297 図 298 図 299 図 300 図 301 図 302 図 303 図 304 図 305 図 306 図 307 図 308 図 309 図 310 図 311 図 312 図 313 図 314 図 315 図 316 図 317 図 318 図 319 図 320 図 321 図 322 図 323 図 324 図 325 図 326 図 327 図 328 図 329 図 330 図 331 図 332 図 333 図 334 図 335 図 336 図 337 図 338 図 339 図 340 図 341 図 342 図 343 図 344 図 345 図 346 図 347 図 348 図 349 図 350 図 351 図 352 図 353 図 354 図 355 図 356 図 357 図 358 図 359 図 360 図 361 図 362 図 363 図 364 図 365 図 366 図 367 図 368 図 369 図 370 図 371 図 372 図 373 図 374 図 375 図 376 図 377 図 378 図 379 図 380 図 381 図 382 図 383 図 384 図 385 図 386 図 387 図 388 図 389 図 390 図 391 図 392 図 393 図 394 図 395 図 396 図 397 図 398 図 399 図 400 図 401 図 402 図 403 図 404 図 405 図 406 図 407 図 408 図 409 図 410 図 411 図 412 図 413 図 414 図 415 図 416 図 417 図 418 図 419 図 420 図 421 図 422 図 423 図 424 図 425 図 426 図 427 図 428 図 429 図 430 図 431 図 432 図 433 図 434 図 435 図 436 図 437 図 438 図 439 図 440 図 441 図 442 図 443 図 444 図 445 図 446 図 447 図 448 図 449 図 450 図 451 図 452 図 453 図 454 図 455 図 456 図 457 図 458 図 459 図 460 図 461 図 462 図 463 図 464 図 465 図 466 図 467 図 468 図 469 図 470 図 471 図 472 図 473 図 474 図 475 図 476 図 477 図 478 図 479 図 480 図 481 図 482 図 483 図 484 図 485 図 486 図 487 図 488 図 489 図 490 図 491 図 492 図 493 図 494 図 495 図 496 図 497 図 498 図 499 図 500 図 501 図 502 図 503 図 504 図 505 図 506 図 507 図 508 図 509 図 510 図 511 図 512 図 513 図 514 図 515 図 516 図 517 図 518 図 519 図 520 図 521 図 522 図 523 図 524 図 525 図 526 図 527 図 528 図 529 図 530 図 531 図 532 図 533 図 534 図 535 図 536 図 537 図 538 図 539 図 540 図 541 図 542 図 543 図 544 図 545 図 546 図 547 図 548 図 549 図 550 図 551 図 552 図 553 図 554 図 555 図 556 図 557 図 558 図 559 図 560 図 561 図 562 図 563 図 564 図 565 図 566 図 567 図 568 図 569 図 570 図 571 図 572 図 573 図 574 図 575 図 576 図 577 図 578 図 579 図 580 図 581 図 582 図 583 図 584 図 585 図 586 図 587 図 588 図 589 図 590 図 591 図 592 図 593 図 594 図 595 図 596 図 597 図 598 図 599 図 600 図 601 図 602 図 603 図 604 図 605 図 606 図 607 図 608 図 609 図 610 図 611 図 612 図 613 図 614 図 615 図 616 図 617 図 618 図 619 図 620 図 621 図 622 図 623 図 624 図 625 図 626 図 627 図 628 図 629 図 630 図 631 図 632 図 633 図 634 図 635 図 636 図 637 図 638 図 639 図 640 図 641 図 642 図 643 図 644 図 645 図 646 図 647 図 648 図 649 図 650 図 651 図 652 図 653 図 654 図 655 図 656 図 657 図 658 図 659 図 660 図 661 図 662 図 663 図 664 図 665 図 666 図 667 図 668 図 669 図 670 図 671 図 672 図 673 図 674 図 675 図 676 図 677 図 678 図 679 図 680 図 681 図 682 図 683 図 684 図 685 図 686 図 687 図 688 図 689 図 690 図 691 図 692 図 693 図 694 図 695 図 696 図 697 図 698 図 699 図 700 図 701 図 702 図 703 図 704 図 705 図 706 図 707 図 708 図 709 図 710 図 711 図 712 図 713 図 714 図 715 図 716 図 717 図 718 図 719 図 720 図 721 図 722 図 723 図 724 図 725 図 726 図 727 図 728 図 729 図 730 図 731 図 732 図 733 図 734 図 735 図 736 図 737 図 738 図 739 図 740 図 741 図 742 図 743 図 744 図 745 図 746 図 747 図 748 図 749 図 750 図 751 図 752 図 753 図 754 図 755 図 756 図 757 図 758 図 759 図 760 図 761 図 762 図 763 図 764 図 765 図 766 図 767 図 768 図 769 図 770 図 771 図 772 図 773 図 774 図 775 図 776 図 777 図 778 図 779 図 780 図 781 図 782 図 783 図 784 図 785 図 786 図 787 図 788 図 789 図 790 図 791 図 792 図 793 図 794 図 795 図 796 図 797 図 798 図 799 図 800 図 801 図 802 図 803 図 804 図 805 図 806 図 807 図 808 図 809 図 810 図 811 図 812 図 813 図 814 図 815 図 816 図 817 図 818 図 819 図 820 図 821 図 822 図 823 図 824 図 825 図 826 図 827 図 828 図 829 図 830 図 831 図 832 図 833 図 834 図 835 図 836 図 837 図 838 図 839 図 840 図 841 図 842 図 843 図 844 図 845 図 846 図 847 図 848 図 849 図 850 図 851 図 852 図 853 図 854 図 855 図 856 図 857 図 858 図 859 図 860 図 861 図 862 図 863 図 864 図 865 図 866 図 867 図 868 図 869 図 870 図 871 図 872 図 873 図 874 図 875 図 876 図 877 図 878 図 879 図 880 図 881 図 882 図 883 図 884 図 885 図 886 図 887 図 888 図 889 図 890 図 891 図 892 図 893 図 894 図 895 図 896 図 897 図 898 図 899 図 900 図 901 図 902 図 903 図 904 図 905 図 906 図 907 図 908 図 909 図 910 図 911 図 912 図 913 図 914 図 915 図 916 図 917 図 918 図 919 図 920 図 921 図 922 図 923 図 924 図 925 図 926 図 927 図 928 図 929 図 930 図 931 図 932 図 933 図 934 図 935 図 936 図 937 図 938 図 939 図 940 図 941 図 942 図 943 図 944 図 945 図 946 図 947 図 948 図 949 図 950 図 951 図 952 図 953 図 954 図 955 図 956 図 957 図 958 図 959 図 960 図 961 図 962 図 963 図 964 図 965 図 966 図 967 図 968 図 969 図 970 図 971 図 972 図 973 図 974 図 975 図 976 図 977 図 978 図 979 図 980 図 981 図 982 図 983 図 984 図 985 図 986 図 987 図 988 図 989 図 990 図 991 図 992 図 993 図 994 図 995 図 996 図 997 図 998 図 999 図 1000 図 1001 図 1002 図 1003 図 1004 図 1005 図 1006 図 1007 図 1008 図 1009 図 1010 図 1011 図 1012 図 1013 図 1014 図 1015 図 1016 図 1017 図 1018 図 1019 図 1020 図 1021 図 1022 図 1023 図 1024 図 1025 図 1026 図 1027 図 1028 図 1029 図 1030 図 1031 図 1032 図 1033 図 1034 図 1035 図 1036 図 1037 図 1038 図 1039 図 1040 図 1041 図 1042 図 1043 図 1044 図 1045 図 1046 図 1047 図 1048 図 1049 図 1050 図 1051 図 1052 図 1053 図 1054 図 1055 図 1056 図 1057 図 1058 図 1059 図 1060 図 1061 図 1062 図 1063 図 1064 図 1065 図 1066 図 1067 図 1068 図 1069 図 1070 図 1071 図 1072 図 1073 図 1074 図 1075 図 1076 図 1077 図 1078 図 1079 図 1080 図 1081 図 1082 図 1083 図 1084 図 1085 図 1086 図 1087 図 1088 図 1089 図 1090 図 1091 図 1092 図 1093 図 1094 図 1095 図 1096 図 1097 図 1098 図 1099 図 1100 図 1101 図 1102 図 1103 図 1104 図 1105 図 1106 図 1107 図 1108 図 1109 図 1110 図 1111 図 1112 図 1113 図 1114 図 1115 図 1116 図 1117 図 1118 図 1119 図 1120 図 1121 図 1122 図 1123 図 1124 図 1125 図 1126 図 1127 図 1128 図 1129 図 1130 図 1131 図 1132 図 1133 図 1134 図 1135 図 1136 図 1137 図 1138 図 1139 図 1140 図 1141 図 1142 図 1143 図 1144 図 1145 図 1146 図 1147 図 1148 図 1149 図 1150 図 1151 図 1152 図 1153 図 1154 図 1155 図 1156 図 1157 図 1158 図 1159 図 1160 図 1161 図 1162 図 1163 図 1164 図 1165 図 1166 図 1167 図 1168 図 1169 図 1170 図 1171 図 1172 図 1173 図 1174 図 1175 図 1176 図 1177 図 1178 図 1179 図 1180 図 1181 図 1182 図 1183 図 1184 図 1185 図 1186 図 1187 図 1188 図 1189 図 1190 図 1191 図 1192 図 1193 図 1194 図 1195 図 1196 図 1197 図 1198 図 1199 図 1200 図 1201 図 1202 図 1203 図 1204 図 1205 図 1206 図 1207 図 1208 図 1209 図 1210 図 1211 図 1212 図 1213 図 1214 図 1215 図 1216 図 1217 図 1218 図 1219 図 1220 図 1221 図 1222 図 1223 図 1224 図 1225 図 1226 図 1227 図 1228 図 1229 図 1230 図 1231 図 1232 図 1233 図 1234 図 1235 図 1236 図 1237 図 1238 図 1239 図 1240 図 1241 図 1242 図 1243 図 1244 図 1245 図 1246 図 1247 図 1248 図 1249 図 1250 図 1251 図 1252 図 1253 図 1254 図 1255 図 1256 図 1257 図 1258 図 1259 図 1260 図 1261 図 1262 図 1263 図 1264 図 1265 図 1266 図 1267 図 1268 図 1269 図 1270 図 1271 図 1272 図 1273 図 1274 図 1275 図 1276 図 1277 図 1278 図 1279 図 1280 図 1281 図 1282 図 1283 図 1284 図 1285 図 1286 図 1287 図 1288 図 1289 図 1290 図 1291 図 1292 図 1293 図 1294 図 1295 図 1296 図 1297 図 1298 図 1299 図 1300 図 1301 図 1302 図 1303 図 1304 図 1305 図 1306 図 1307 図 1308 図 1309 図 1310 図 1311 図 1312 図 1313 図 1314 図 1315 図 1316 図 1317 図 1318 図 1319 図 1320 図 1321 図 1322 図 1323 図 1324 図 1325 図 1326 図 1327 図 1328 図 1329 図 1330 図 1331 図 1332 図 1333 図 1334 図 1335 図 1336 図 1337 図 1338 図 1339 図 1340 図 1341 図 1342 図 1343 図 1344 図 1345 図 1346 図 1347 図 1348 図 1349 図 1350 図 1351 図 1352 図 1353 図 1354 図 1355 図 1356 図 1357 図 1358 図 1359 図 1360 図 1361 図 1362 図 1363 図 1364 図 1365 図 1366 図 1367 図 1368 図 1369 図 1370 図 1371 図 1372 図 1373 図 1374 図 1375 図 1376 図 1377 図 1378 図 1379 図 1380 図 1381 図 1382 図 1383 図 1384 図 1385 図 1386 図 1387 図 1388 図 1389 図 1390 図 1391 図 1392 図 1393 図 1394 図 1395 図 1396 図 1397 図 1398 図 1399 図 1400 図 1401 図 1402 図 1403 図 1404 図 1405 図 1406 図 1407 図 1408 図 1409 図 1410 図 1411 図 1412 図 1413 図 1414 図 1415 図 1416 図 1417 図 1418 図 1419 図 1420 図 1421 図 1422 図 1423 図 1424 図 1425 図 1426 図 1427 図 1428 図 1429 図 1430 図 1431 図 1432 図 1433 図 1434 図 1435 図 1436 図 1437 図 1438 図 1439 図 1440 図 1441 図 1442 図 1443 図 1444 図 1445 図 1446 図 1447 図 1448 図 1449 図 1450 図 1451 図 1452 図 1453 図 1454 図 1455 図 1456 図 1457 図 1458 図 1459 図 1460 図 1461 図 1462 図 1463 図 1464 図 1465 図 1466 図 1467 図 1468 図 1469 図 1470 図 1471 図 1472 図 1473 図 1474 図 1475 図 1476 図 1477 図 1478 図 1479 図 1480 図 1481 図 1482 図 1483 図 1484 図 1485 図 1486 図 1487 図 1488 図 1489 図 1490 図 1491 図 1492 図 1493 図 1494 図 1495 図 1496 図 1497 図 1498 図 1499 図 1500 図 1501 図 1502 図 1503 図 1504 図 1505 図 1506 図 1507 図 1508 図 1509 図 1510 図 1511 図 1512 図 1513 図 1514 図 1515 図 1516 図 1517 図 1518 図 1519 図 1520 図 1521 図 1522 図 1523 図 1524 図 1525 図 1526 図 1527 図 1528 図 1529 図 1530 図 1531 図 1532 図 1533 図 1534 図 1535 図 1536 図 1537 図 1538 図 1539 図 1540 図 1541 図 1542 図 1543 図 1544 図 1545 図 1546 図 1547 図 1548 図 1549 図 1550 図 1551 図 1552 図 1553 図 1554 図 1555 図 1556 図 1557 図 1558 図 1559 図 1560 図 1561 図 1562 図 1563 図 1564 図 1565 図 1566 図 1567 図 1568 図 1569 図 1570 図 1571 図 1572 図 1573 図 1574 図 1575 図 1576 図 1577 図 1578 図 1579 図 1580 図 1581 図 1582 図 1583 図 1584 図 1585 図 1586 図 1587 図 1588 図 1589 図 1590 図 1591 図 1592 図 1593 図 1594 図 1595 図 1596 図 1597 図 1598 図 1599 図 1600 図 1601 図 1602 図 1603 図 1604 図 1605 図 1606 図 1607 図 1608 図 1609 図 1610 図 1611 図 1612 図 1613 図 1614 図 1615 図 1616 図 1617 図 1618 図 1619 図 1620 図 1621 図 1

図 2-5 放射線管理季報 排出塵埃の例

Microsoft Excel - 放射性気体廃棄物等管理報告書

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 挿入(I) 書式(O) ツール(T) データ(D) ウインドウ(W) ヘルプ(H)

130% MS P 印刷 10 - B / U 標準 国 関 % , 日 月 年 日 - . *

A1

1. 放射性気体廃棄物の放出量

		全希ガス	^{41}Ar	^{131}I	全粒子状物質	^3H	その他	備考
原子炉施設合計		4.2×10^{11} Bq	2.4×10^{10} Bq	8.3×10^5 Bq	$< 2.1 \times 10^{-2}$ Bq/sec	2.2×10^{11} Bq	4.7×10^5 Bq	
排 気	JRR-2 排気筒	$< 7.8 \times 10^4$ Bq/sec	$< 7.8 \times 10^4$ Bq/sec	$< 3.0 \times 10^{-2}$ Bq/sec	$< 2.1 \times 10^{-2}$ Bq/sec	2.0×10^{11} Bq	-	(注1)
	JRR-3 排気筒	1.9×10^{10} Bq	1.9×10^{10} Bq	$< 4.3 \times 10^{-2}$ Bq/sec	$< 1.4 \times 10^{-2}$ Bq/sec	2.1×10^{10} Bq	-	
	JRR-4 排気筒	1.0×10^8 Bq	1.0×10^8 Bq	$< 9.9 \times 10^{-2}$ Bq/sec	$< 2.0 \times 10^{-2}$ Bq/sec	-	-	
	N S R 原子炉棟 排気筒	3.7×10^9 Bq	3.7×10^9 Bq	$< 1.2 \times 10^{-1}$ Bq/sec	$< 9.7 \times 10^{-3}$ Bq/sec	-	-	
	燃料棟 排気筒	-	-	-	$< 1.8 \times 10^{-3}$ Bq/sec	-	-	
TCA 排気筒		-	-	$< 7.6 \times 10^{-3}$	$< 2.2 \times 10^{-3}$	-	-	

Microsoft Excel - 放...

図 2-6 放射性廃棄物等管理報告書 (気体廃棄物) の例

3. データ生成規則

排気・排水データベース内で処理されるデータについて、その生成方法についてまとめる。データ生成は、一部の単純な集計などを除きそのほとんどが放射線管理データベースサーバに用意されたストアドプロシージャで行われている。ここではそのデータ生成の規則についてのみ言及し、ストアドプロシージャの内容・利用方法については特に触れない。

なお、入力後計算された結果は、基本的に四捨五入され有効数値2桁で運用される。

表 3-1 にデータ生成規則本文中の略記号を示す。

表 3-1 データ生成規則本文中の略記号

DL	: 検出下限濃度
DL _{Qmax}	: 四半期内各月(3ヶ月)の検出下限濃度のうち、その最大値
DL _{Ymax}	: 年度内(1年間)各月の検出下限濃度のうち、その最大値

3.1 放出塵埃記録および放出ガス記録

放出塵埃記録及び放出ガス記録のデータ作成時の流れを図 3-1 に示す。

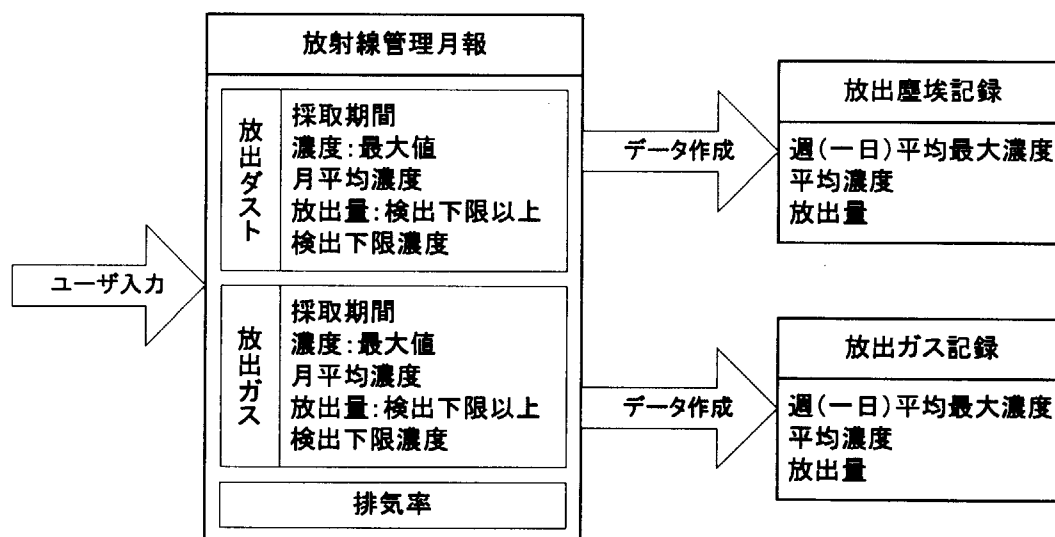


図 3-1 放出塵埃記録および放出ガス記録データ作成の流れ

3.1.1 週平均最大濃度の算出

(1) 各月処理

放出塵埃記録は、処理月の放射線管理月報・放出ダスト「濃度：最大値」の値を使用する。「採取期間」により一日平均最大濃度か週平均最大濃度かを区別する。

放出ガス記録は、処理月の放射線管理月報・放出ガス「濃度：最大値」の値を使用する。「採取期間」により一日平均最大濃度か週平均最大濃度かを区別する。

(2) 四半期処理

四半期内各月の週(一日)平均最大濃度の値により、次の①～③のように処理する。

- ① 四半期内 3 か月とも DL 以上の場合は、各月の週(一日)平均最大濃度値のうち、その最大値とする。
- ② 四半期内 3 か月とも DL 未満の場合は、 DL_{Qmax} に “<” をつけた値とする。
- ③ DL 以上と DL 未満が混在する場合は、DL 以上の週(一日)平均最大濃度値のうち、その最大値をとる。その値が DL_{Qmax} より小さい場合は、 DL_{Qmax} に “<” をつけた値とする。

(3) 年間処理

処理年度内各月の週(一日)平均最大濃度の値により、次の①～③のように処理する。

- ① 年間を通して DL 以上の場合は、各月の週(一日)平均最大濃度値のうち、その最大値とする。
- ② 年間を通して DL 未満の場合は、 DL_{Ymax} に “<” をつけた値とする。
- ③ DL 以上と DL 未満が混在する場合は、DL 以上の週(一日)平均最大濃度値のうち、その最大値とする。その値が DL_{Ymax} より小さい場合は、 DL_{Ymax} に “<” をつけた値とする。

3.1.2 平均濃度の算出

(1) 各月処理

放出塵埃記録は、処理月の放射線管理月報・放出ダストの「月平均濃度」の値を使用する。

放出ガス記録は、処理月の放射線管理月報・放出ガスの「月平均濃度」の値を使用する。

(2) 四半期処理

(a) 核種が「全 α 」「全 β 」の場合

四半期内各月の平均濃度の値により、次の①～③のように処理する。

- ① 四半期内 3 か月とも DL 以上の場合は、各月の三つの平均濃度から単純平均値を出す。その平均値と DL_{Qmax} を比較し、大きい値とする。 DL_{Qmax} の方が大きければ “<” をつけた値とする。
- ② 四半期内 3 か月とも DL 未満の場合は、 DL_{Qmax} に “<” をつけた値とする。
- ③ DL 以上と DL 未満が混在する場合は、DL 以上の月はその平均濃度値、DL 未満の月は DL 値とした四半期分の三つの単純平均値を出す。その平均値と DL_{Qmax} を比較し、大きい値とする。 DL_{Qmax} の方が大きければ “<” をつけた値とする。

(b) 核種が「全 α 」「全 β 」以外の場合は、式 (3-1) により算出する。

$$\text{平均濃度[Bq/cm}^3\text{]} = \frac{\text{四半期放出量[Bq]}}{\text{四半期排風量[cm}^3\text{]}^{(*)}} \dots\dots\dots (3-1)$$

ただし、この値より DL_{Qmax} の方が大きければ、 DL_{Qmax} に “<” をつけた値とする。

(※) 四半期内各月(30日換算)の排風量の総和である (式 (3-2))。

$$\text{四半期排風量[cm}^3\text{]} = \Sigma (\text{四半期内各月排気率[cm}^3\text{/h]} \times 30[\text{日}] \times 24[\text{h/日}]) \dots\dots\dots (3-2)$$

(3) 年間処理

(a) 核種が「全 α 」「全 β 」の場合

処理年度内各月の平均濃度の値により、次の①～③のように処理する。

- ① 年間を通して DL 以上の場合は、年間の 12 か月の平均濃度から単純平均値を出す。その平均値と DL_{Ymax} を比較し、大きい値とする。 DL_{Ymax} の方が大きければ“<”をつけた値とする。
- ② 年間を通して DL 未満の場合は、 DL_{Ymax} に“<”をつけた値とする。
- ③ DL 以上と DL 未満が混在する場合は、DL 以上の月はその平均濃度値、DL 未満の月は DL 値とした年間分の 12 の値から単純平均値を出す。その平均値と DL_{Ymax} を比較し、大きい値とする。 DL_{Ymax} の方が大きければ“<”をつけた値とする。

(b) 核種が「全 α 」「全 β 」以外の場合は、式 (3-3) により算出する。

$$\text{平均濃度[Bq/cm}^3\text{]} = \frac{\text{年間放出量[Bq]}}{\text{年間排風量[cm}^3\text{]}^{(*)}} \dots\dots\dots (3-3)$$

ただし、この値より DL_{Ymax} の方が大きければ、 DL_{Ymax} に“<”をつけた値とする。

(※) 年度内全月の排風量の総和である (式 (3-4))。

$$\text{年間排風量[cm}^3\text{]} = \Sigma (\text{各月排気率[cm}^3\text{/h]} \times 30[\text{日}] \times 24[\text{h/日}]) \dots\dots\dots (3-4)$$

3.1.3 放出量の算出

(1) 各月処理

放出塵埃記録は、処理月の放射線管理月報・放出ダストの「放出量：検出下限以上」の値を使用する。放出ガス記録は、処理月の放射線管理月報・放出ガスの「放出量：検出下限以上」の値を使用する。

(2) 四半期処理

四半期内各月の放出量の合計 (3 か月分)。

(3) 年間処理

処理年度の四半期放出量の合計 (4 四半期分)。

3.2 放出廃液記録

放出廃液記録のデータ作成の流れを図 3-2 に示す。

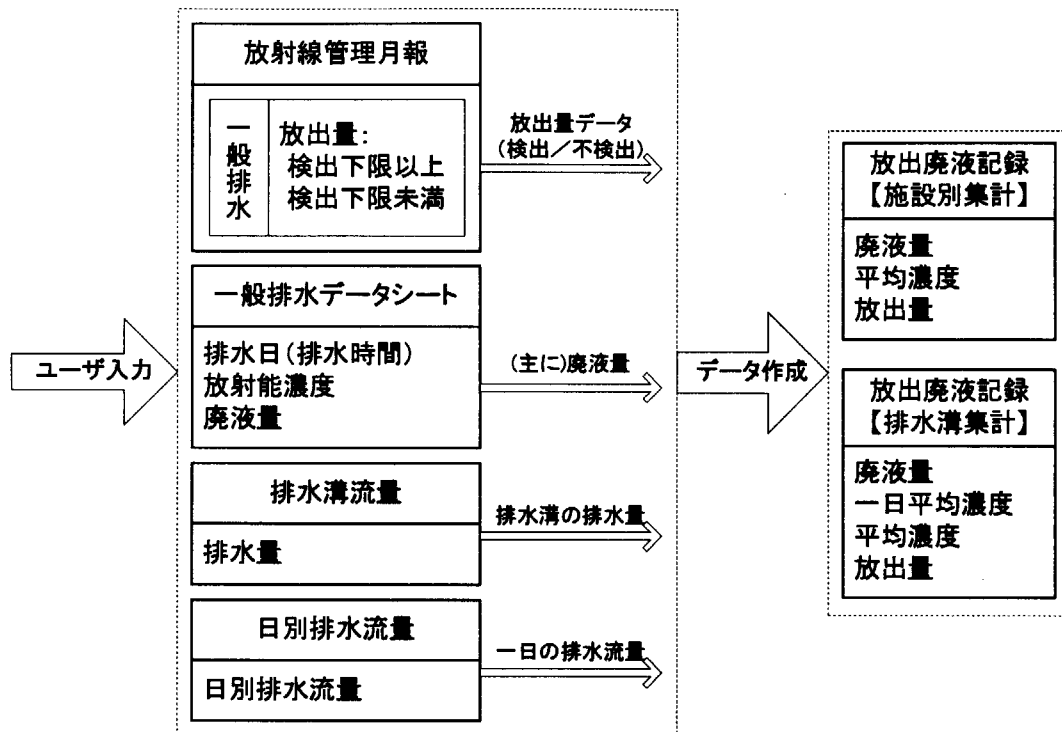


図 3-2 放出廃液記録データ作成の流れ

3.2.1 施設の廃液量の算出

(1) 各月処理

処理月の一般排水データシートの廃液量を施設別に合計する。

(2) 四半期処理

四半期内各月の廃液量（3 か月分）を合計する。

(3) 年間処理

処理年度の四半期廃液量（4 四半期分）を合計する。

3.2.2 施設の核種毎放出量の算出

(1) 各月処理

放出廃液記録での報告核種は、検出分量および不検出分量にわけて集計する。また、所内外施設の区別により、それぞれ以下の(a)(b)のように処理する。

(a) 所内施設の場合

放射線管理月報で報告されている核種毎に、

① 検出分放出量 ⇒ 放射線管理月報「放出量：検出下限以上」の値。

② 不検出分放出量 ⇒ 放射線管理月報「放出量：検出下限未満」の値。

(b) 所外施設の場合

当該施設の一般排水データシートから、式（3-5）により排水毎の放出量を算出する。

$$\text{放出量[Bq]} = \text{放射能濃度[Bq/cm}^3\text{]} \times \text{廃液量[m}^3\text{]} \times 10^6 \dots\dots\dots (3-5)$$

この放出量を核種毎に検出下限区分（検出分または不検出分）別に集計する。

(2) 四半期処理

四半期内各月の放出量を合計する（3 か月分）。

(3) 年間処理

処理年度の四半期放出量を合計する（4 四半期分）。

3.2.3 施設の核種毎平均濃度の算出

施設の核種毎平均濃度は次に示す式（3-6）（3-7）（3-8）によりそれぞれ計算する。

(1) 各月処理

$$\text{平均濃度[Bq/cm}^3] = \frac{\text{月間放出量[Bq]}}{\text{廃液量[m}^3] \times 10^6} \dots\dots\dots (3-6)$$

(2) 四半期処理

$$\text{平均濃度[Bq/cm}^3] = \frac{\text{四半期放出量[Bq]}}{\text{四半期廃液量[m}^3] \times 10^6} \dots\dots\dots (3-7)$$

(3) 年間処理

$$\text{平均濃度[Bq/cm}^3] = \frac{\text{年間放出量[Bq]}}{\text{年間廃液量[m}^3] \times 10^6} \dots\dots\dots (3-8)$$

3.2.4 排水溝の廃液量の算出

(1) 各月処理

処理月分の施設の廃液量を、その施設が属する排水溝別に合計する。

(2) 四半期処理

四半期内各月の廃液量を合計する（3 か月分）。

(3) 年間処理

処理年度の四半期廃液量を合計する（4 四半期分）。

3.2.5 排水溝の核種毎放出量の算出

(1) 各月処理

施設の核種毎放出量を、その施設が属する排水溝別に合計する。なお、施設の核種毎放出量で報告のある検出分核種（ ^3H ・ ^{14}C を除く）および不検出分核種（ ^3H ・ ^{14}C を除く）それぞれを排水溝別に集計し「 ^3H ・ ^{14}C 以外の核種」項目として報告する。

(2) 四半期処理

四半期内各月放出量を合計する（3 か月分）。

(3) 年間処理

処理年度の四半期放出量を合計する（4 四半期分）。

3.2.6 排水溝の核種毎平均濃度の算出

排水溝毎の排水量（廃液量+雑水量）及び平均濃度の算出方法を示す。なお、排水量に係る基本データは、第1、第2排水溝は、環境放射線管理課の排水モニタ月報から、第3排水溝は区域放射線管理課からの月間排水量データを用い、排水溝流量データ及び日別排水量データとしている。

(1) 排水溝毎の排水量

平均濃度計算で使用する排水溝の排水量は、以下のとおりである。

(a) 各月排水量[m³]

排水溝流量データより処理月の当該排水溝の排水量を抽出する。

(b) 四半期排水量[m³]

四半期内各月の当該排水溝の排水量の総和（3 か月分）。

(c) 年間排水量[m³]

処理年度内各月の当該排水溝の排水溝排水量の総和（1 年間分）。

(2) 各月処理（式（3-9）により算出）

$$\text{平均濃度[Bq/cm}^3] = \frac{\text{月間放出量[Bq]}}{\text{当該排水溝の各月排水量[m}^3] \times 10^6} \quad \dots\dots\dots (3-9)$$

(3) 四半期処理（式（3-10）により算出）

$$\text{平均濃度[Bq/cm}^3] = \frac{\text{四半期放出量[Bq]}}{\text{当該排水溝の四半期排水量[m}^3] \times 10^6} \quad \dots\dots\dots (3-10)$$

(4) 年間処理（式（3-11）により求める）

$$\text{平均濃度[Bq/cm}^3] = \frac{\text{年間放出量[Bq]}}{\text{当該排水溝の年間排水量[m}^3] \times 10^6} \quad \dots\dots\dots (3-11)$$

3.2.7 一日平均濃度最大値の算出

一日平均濃度最大値の報告対象核種は次の通りである。

- ① ³H（検出分および不検出分）
- ② ¹⁴C（検出分および不検出分）
- ③ ³H・¹⁴C 以外の核種（検出分および不検出分）

(1) 各月処理

- ① 一般排水データシートで、排水日別に処理対象核種の放出量を集計する。

排水回毎の放出量を式（3-12）で求め、同じ排水日のものを合計する。

$$\text{放出量[Bq]} = \text{放射能濃度[Bq/cm}^3] \times \text{廃液量[m}^3] \times 10^6 \quad \dots\dots\dots (3-12)$$

- ② 排水のあった日の一日の排水流量[m³]を日別排水流量データより取得する。

- ③ 処理対象核種の当該排水日の一日平均濃度[Bq/cm³]を以下の式（3-13）より求める。

$$\text{一日平均濃度[Bq/cm}^3] = \frac{\text{一日の放出量[Bq]}}{\text{一日の排水流量[m}^3] \times 10^6} \quad \dots\dots\dots (3-13)$$

- ④ 処理月内の一日平均濃度からその最大値を抽出し、一日平均濃度最大値とする。

(2) 四半期処理

四半期内各月の一日平均濃度最大値（3 か月間）より、その最大値を抽出する。

(3) 年間処理

処理年度内の四半期処理値（4 四半期間）より、その最大値を抽出する。

3.3 放出塵埃中の Sr 分析結果

放出塵埃中の Sr 分析結果データ作成時の流れを図 3-3 に示す。

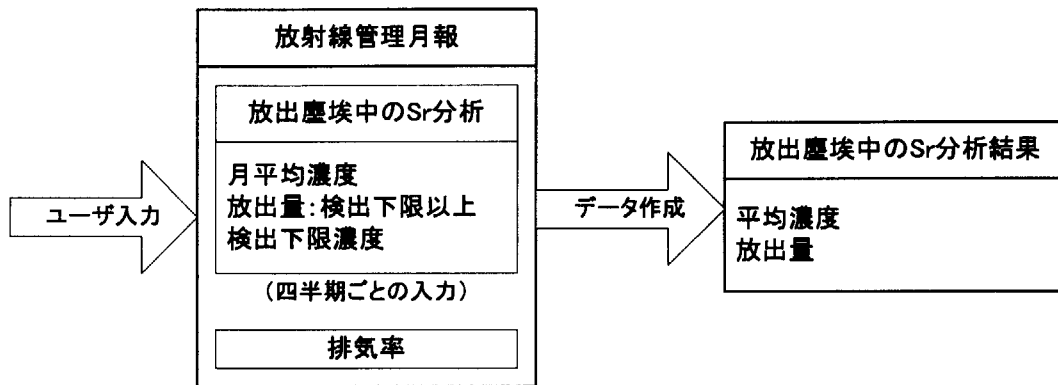


図 3-3 放出塵埃中の Sr 分析結果データ作成の流れ

3.3.1 平均濃度の算出

(1) 四半期処理

放射線管理月報・放出塵埃中 Sr 分析の報告四半期における「平均濃度」の値である。

(2) 年間処理 (式 (3-14) により算出)

$$\text{平均濃度[Bq/cm}^3\text{]} = \frac{\text{年間放出量[Bq]}}{\text{年間排風量[cm}^3\text{]}^{(*)}} \quad \dots\dots\dots (3-14)$$

ただし、この値より DL_{Ymax} の方が大きければ、 DL_{Ymax} に “<” をつけて記載する。

(※) 年度内全月の排風量の総和である (式 (3-15))。

$$\text{年間排風量[cm}^3\text{]} = \sum \text{各月排気率[cm}^3\text{/h]} \times 30[\text{日}] \times 24[\text{h/日}] \quad \dots\dots\dots (3-15)$$

3.3.2 放出量の算出

(1) 四半期処理

放射線管理月報・放出塵埃中 Sr 分析の報告四半期における「放出量：検出下限以上」の値である。

(2) 年間処理

処理年度の四半期放出量を合計する (4 四半期分)。

3.4 放出廃液中の Sr 分析結果

放出廃液中の Sr 分析結果データ作成時の流れを図 3-4 に示す。

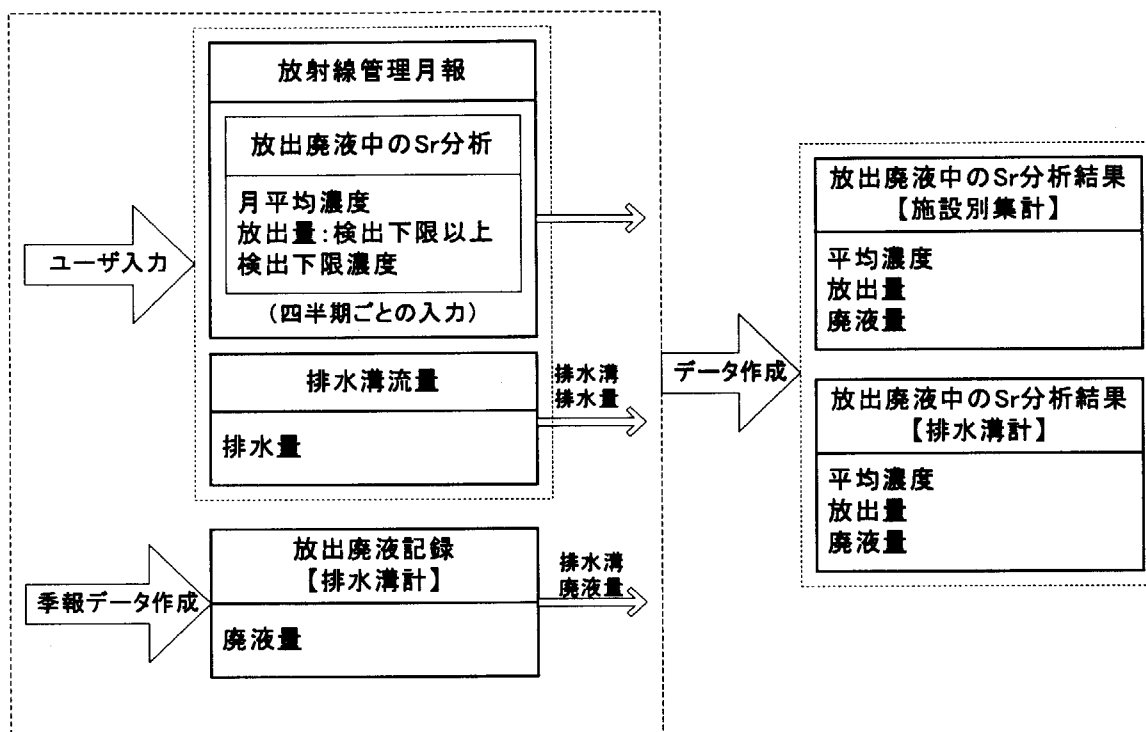


図 3-4 放出廃液中の Sr 分析結果データ作成の流れ

3.4.1 施設毎の平均濃度の算出

(1) 四半期処理

放射線管理月報・放出廃液中 Sr 分析の報告四半期における「平均濃度」の値である。

(2) 年間処理 (式 (3-15) により求める)

$$\text{平均濃度}[\text{Bq}/\text{cm}^3] = \frac{\text{年間放出量}[\text{Bq}]}{\text{年間廃液量}[\text{m}^3] \times 10^6} \quad \dots\dots\dots (3-15)$$

ただし、この値より $DL_{Y\max}$ の方が大きければ、 $DL_{Y\max}$ に “<” をつけて記載する。

3.4.2 施設毎の放出量の算出

(1) 四半期処理

放射線管理月報・放出廃液中 Sr 分析の報告四半期における「放出量：検出下限以上」の値である。

(2) 年間処理

処理年度の四半期放出量を合計する (4 四半期分)。

3.4.3 施設毎の廃液量の算出

(1) 四半期処理

放射線管理月報・放出廃液中 Sr 分析の報告四半期における「廃液量」の値である。

(2) 年間処理

報告年度の四半期廃液量を合計する (4 四半期分)。

3.4.4 排水溝毎の平均濃度の算出

(1) 四半期処理 (式 (3-16) により求める)

$$\text{平均濃度[Bq/cm}^3\text{]} = \frac{\text{四半期放出量[Bq]}}{\text{当該排水溝の四半期排水量[m}^3\text{]} \times 10^6} \quad \dots\dots\dots (3-16)$$

(2) 年間処理 (式 (3-17)により求める)

$$\text{平均濃度[Bq/cm}^3\text{]} = \frac{\text{年間放出量[Bq]}}{\text{当該排水溝の年間排水量[m}^3\text{]} \times 10^6} \quad \dots\dots\dots (3-17)$$

3.4.5 排水溝毎の放出量の算出

(1) 四半期処理

放射線管理月報・放出廃液中 Sr 分析の報告四半期における「放出量：検出下限以上」の値を、施設が属する排水溝別に合計する。

(2) 年間処理

処理年度の四半期放出量を合計する (4 四半期分)。

3.4.6 排水毎の廃液量の算出

(1) 四半期処理

報告四半期の放出廃液記録 (季報) における排水溝毎の廃液量の値である。

(2) 年間処理

報告年度の四半期廃液量を合計する (4 四半期分)。

3.5 放出管理目標値との比較 (気体廃棄物)

放出管理目標値との比較 (気体廃棄物) データ作成の流れを図 3-5 に示す。

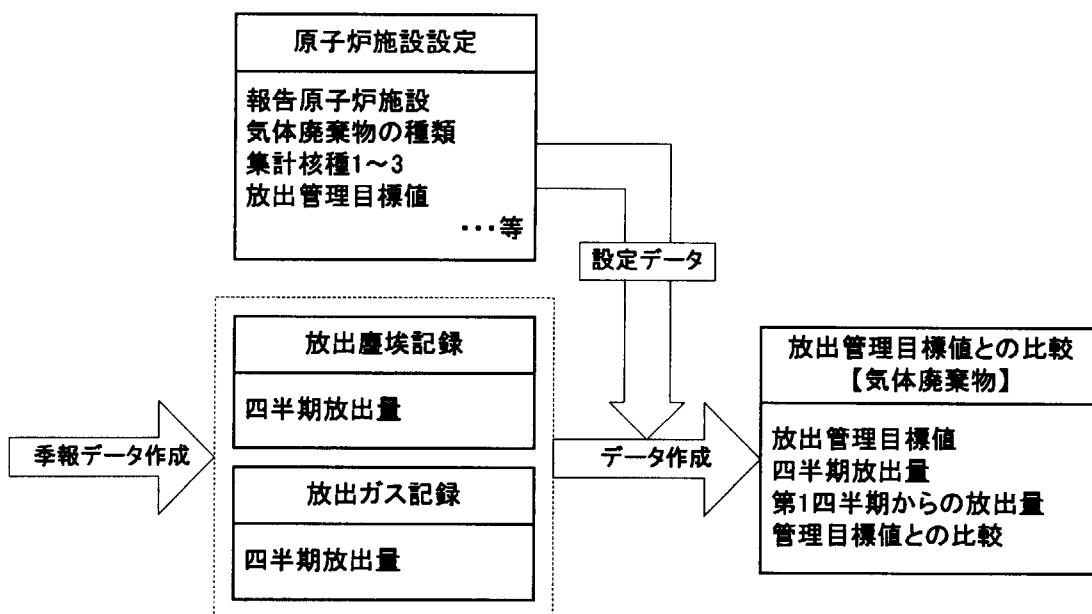


図 3-5 放出管理目標値との比較 (気体廃棄物) データ作成の流れ

3.5.1 四半期放出量の算出

処理された四半期の放出塵埃記録または放出ガス記録から、原子炉施設設定における集計対象核種の「四半期放出量」を集計する。

(1) 第1四半期からの放出量合計

第1四半期から処理すべき四半期までの放出塵埃記録または放出ガス記録から、原子炉施設設定における集計対象核種の「四半期放出量」を集計する。

(2) 放出管理目標値との比較（比率を式（3-18）より求める）

$$\text{比 率} = \frac{\text{第1四半期から当該四半期までの放出量合計[Bq]}}{\text{放出管理目標値}} \quad \dots\dots (3-18)$$

3.6 放出管理目標値との比較（液体廃棄物）

放出管理目標値との比較（液体廃棄物）データ作成の流れを図3-6に示す。

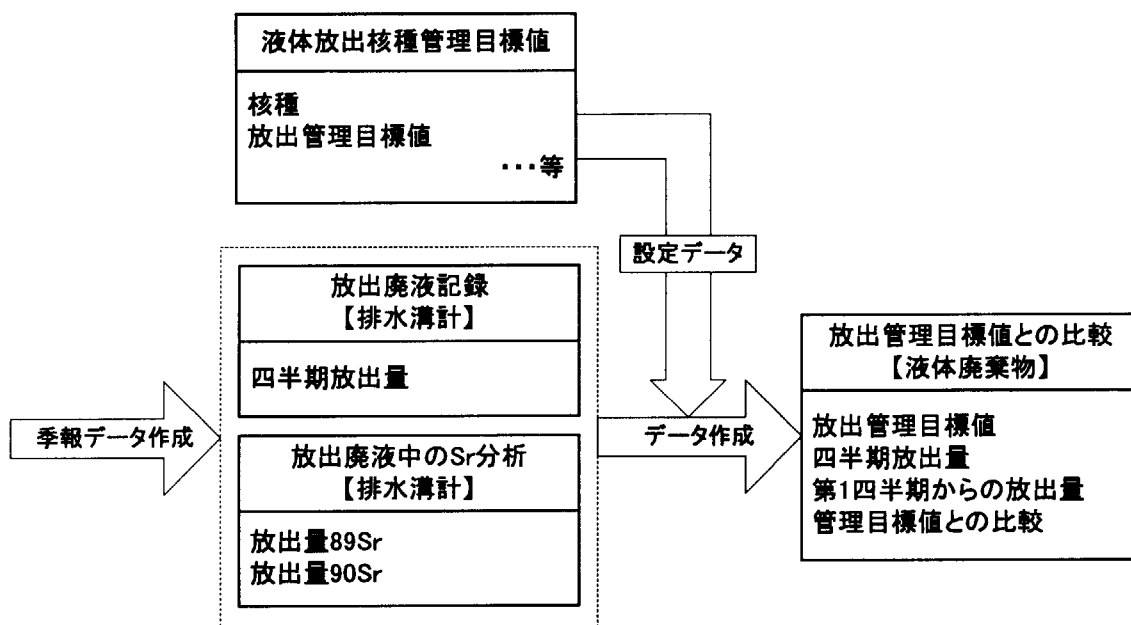


図3-6 放射線管理目標値との比較（液体廃棄物）データ作成の流れ

3.6.1 四半期放出量の算出

(1) 核種毎の四半期放出量

放出管理目標値は、 ^3H 、 ^{14}C および ^3H 、 ^{14}C 以外の核種（総量、 ^{60}Co 、 ^{137}Cs ）、として取りまとめ報告されるが、「総量」値の集計や液体廃棄物による実効線量の詳細データ用に、以下の(a)(b)に現れる全ての検出核種に対して処理を行う。

(a) 放出廃液記録（排水溝計）

処理四半期の検出分核種の四半期放出量（不検出分は除く）を、核種別に全排水溝分を集計する。なお、 ^3H の報告行には ^3H (水)の値を含むが、これらは別に集計する（詳細データで表示す

るため)。

(b) 放出廃液中の Sr 分析結果 (排水溝合計)

処理すべき四半期の ^{89}Sr , ^{90}Sr に有意な放出がある場合は、その放出量をそれぞれ全排水溝分合計する。

(2) 「総量」の四半期放出量

^3H ・ ^{14}C 以外の核種の四半期放出量を合計したもの。

(3) 第1四半期からの放出量合計

四半期放出量と同様の処理で、集計対象期間を第1四半期から処理すべき四半期まで拡大して放出量を集計する。

(4) 管理目標値との比較 (比率を式 (3-19) より求める)

$$\text{比 率} = \frac{\text{第1四半期からの放出量合計[Bq]}}{\text{放出管理目標値}} \dots\dots\dots (3-19)$$

3.7 放射線管理等報告書 (気体廃棄物)

放射線管理等報告書は、年2回上期、下期として報告するが、報告するデータは、四半期毎にまとめたものを、前半・後半と分けて記載している。

放射線管理等報告書 (気体廃棄物) 作成の流れを図 3-7 に示す。

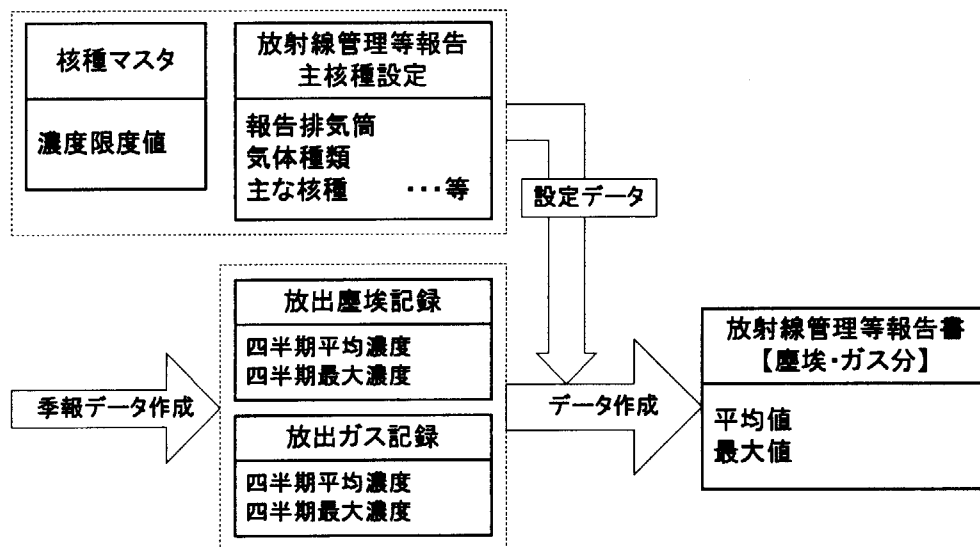


図 3-7 放射線管理等報告 (気体廃棄物) データ作成の流れ

(1) 平均値

2 四半期分に該当する放出塵埃記録または放出ガス記録の「四半期平均濃度」の値である。報告する主な核種として指定されている核種に対して算出する。

(2) 最大値

2 四半期分に該当する放出塵埃記録または放出ガス記録の「四半期最大濃度」の値である。報

告する主な核種として指定されている核種に対して算出する。

(3) 報告する主な核種について

対象となる主な核種が複数設定されている排気筒においては、濃度限度比が大きい核種の値を報告する。濃度限度比は式(3-20)により求める。

$$\text{濃度限度比} = \frac{\text{放出核種の最大濃度}}{\text{当該核種の濃度限度値}} \quad \dots\dots\dots (3-20)$$

3.8 放射線管理等報告書（液体廃棄物）

放射線管理等報告書（液体廃棄物）データ作成の流れを図 3-8 に示す。

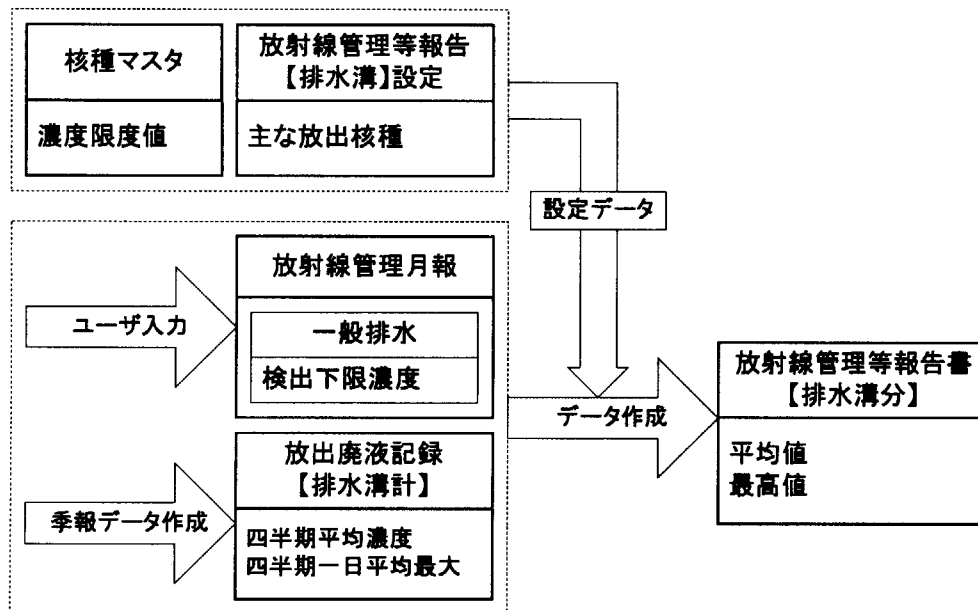


図 3-8 放射線管理等報告（液体廃棄物）データ作成の流れ

3.8.1 希釈倍率

第 1、第 2、第 3 排水溝における廃液の希釈倍率を式(3-21)により求める。

$$\text{希釈倍率} = \frac{\text{各排水溝の四半期排水量[m}^3\text{]}}{\text{各排水溝の四半期廃液量[m}^3\text{]}} \quad \dots\dots\dots (3-21)$$

3.8.2 平均値

(1) ^3H

当該排水溝の有意な放出の有無により、以下①②のように処理する。

① 有意な放出がある場合

2 四半期分に該当する放出廃液記録（排水溝合計）において、 ^3H の検出分の放出記録がある場合は、その「四半期平均濃度」の値を記載する。

② 有意な放出がない場合

2 四半期分に該当する放出廃液記録（排水溝合計）において、 ^3H の検出分の放出記録がなく、不検出分の放出記録のみの場合は、式(3-22)に示した平均値に“<”をつけて記載する。

$$\text{平均値}[\text{Bq}/\text{cm}^3] = \frac{{}^3\text{H の } \text{DL}_{\text{Qmax}}}{\text{希釈倍率}} \dots\dots\dots (3-22)$$

(2) ^3H 以外

当該排水溝の有意な放出の有無により、以下①②のように処理する。

① 有意な放出がある場合

2 四半期分に該当する放出廃液記録（排水溝合計）において、「 $^3\text{H} \cdot {}^{14}\text{C}$ 以外の核種」の検出分の放出記録がある場合は、その「四半期平均濃度」の値を記載する。

② 有意な放出がない場合

2 四半期分に該当する放出廃液記録（排水溝合計）において、「 $^3\text{H} \cdot {}^{14}\text{C}$ 以外の核種」の検出分の放出記録がなく、不検出分の放出記録のみの場合は、式(3-23)に示した平均値に“<”をつけて記載する。

$$\text{平均値}[\text{Bq}/\text{cm}^3] = \frac{{}^3\text{H} \cdot {}^{14}\text{C 以外の主な放出核種の } \text{DL}_{\text{Qmax}}^{(*)}}{\text{希釈倍率}} \dots\dots\dots (3-23)$$

(※) 排水溝別に設定されている ^3H 以外の主な放出核種 (^{60}Co , ^{137}Cs など) の検出下限濃度の最大値は、放射線管理月報から取得する。 ^3H 以外の設定核種が複数ある場合は、濃度限度比が最も大きい核種（式(3-24)により求める）の値を報告する。

$$\text{濃度限度比} = \frac{\text{放出核種の } \text{DL}_{\text{Qmax}}}{\text{当該核種の濃度限度値}} \dots\dots\dots (3-20)$$

3.8.3 最大値

(1) ^3H

当該排水溝の有意な放出の有無により、以下①②のように処理する。

① 有意な放出がある場合

2 四半期分に該当する放出廃液記録（排水溝合計）において、 ^3H の検出分の放出記録がある場合は、その「四半期一日平均最大濃度」の値を記載する。

② 有意な放出がない場合

平均値と同じ値とする。

(2) ^3H 以外

当該排水溝の有意な放出の有無により、以下①②のように処理する。

① 有意な放出がある場合

2 四半期分に該当する放出廃液記録（排水溝合計）において、「 $^3\text{H} \cdot {}^{14}\text{C}$ 以外の核種」の検出分の放出記録がある場合は、その「四半期一日平均最大濃度」の値を記載する。

② 有意な放出がない場合

平均値と同じ値とする。

3.9 放射性廃棄物等管理報告書（気体廃棄物）

放射性廃棄物等管理報告書（気体廃棄物）データ作成の流れを図 3-9 に示す。

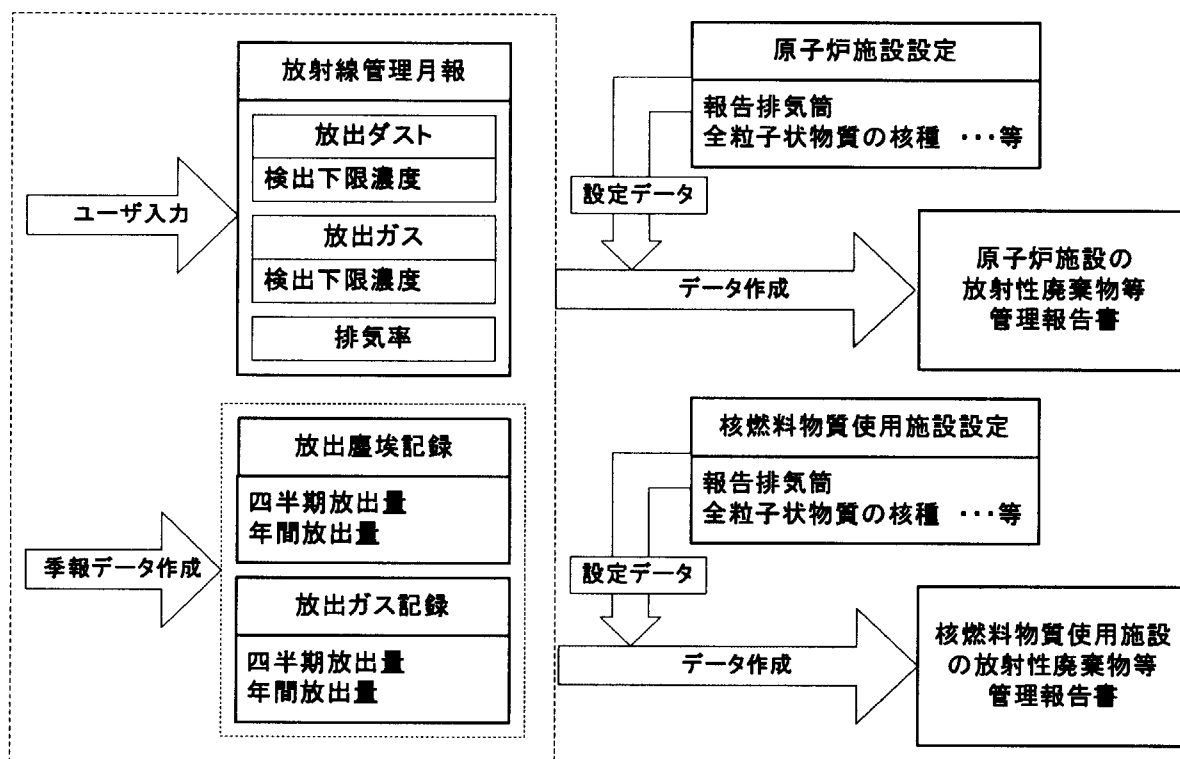


図 3-9 放射性廃棄物等管理報告書（気体廃棄物）データ作成の流れ

3.9.1 原子炉施設報告

(1) 全希ガス

原子炉施設の放出ガス記録で報告のある核種（希ガス）に対して、四半期報告ならば「四半期放出量」の値、年間報告ならば「年間放出量」の値を集計して記載する。なお、希ガス ^{41}Ar については(2)のとおり検出下限未満の値も考慮するので、 ^{41}Ar を除く希ガスに有意な放出がない場合、この全希ガス欄は ^{41}Ar と同じ表記となる。

(2) 報告指定核種

原子炉施設の放出塵埃記録または放出ガス記録から、四半期報告ならば「四半期放出量」の値、年間報告ならば「年間放出量」の値を記載する。ただし、報告期間の放出量が 0（検出下限未満）の場合は、式(3-25)の値に“<”をつけて記載する。

$$\text{放出率} \left[\frac{\text{Bq}}{\text{sec}} \right] = \frac{\text{検出下限未満放出率最大値} [\text{Bq/h}]^{(*)}}{3600 [\text{sec/h}]} \quad \dots\dots\dots (3-25)$$

(※) 各月の検出下限未満放出率（式(3-26)により算出）の報告期間内の最大値。

$$\text{検出下限未満放出率} [\text{Bq/h}] = \text{検出下限濃度} [\text{Bq/cm}^3] \times \text{当該月排気率} [\text{cm}^3/\text{h}] \quad \dots\dots (3-26)$$

(3) その他

処理する原子炉施設の放出塵埃記録または放出ガス記録において、上記以外で報告のある核種に対して、四半期報告ならば「四半期放出量」の値、年間報告ならば「年間放出量」の値を集計して記載する。

(4) 原子炉施設合計値

各原子炉施設の記載値を、放射性核種毎に集計する。以下のように検出下限未満の放出かどうかで集計処理を判断する。

- ① すべての施設が検出下限未満の報告だった場合は、その最大値に“<”をつけて記載する。
- ② いずれかの施設に検出分の報告がある場合は、検出分の放出量だけ集計して記載する。

3.9.2 核燃料物質使用施設報告

基本的に、原子炉施設の放射性廃棄物等管理報告と同様の処理を行う。なお、核燃料物質使用施設報告は年間合計のみとなる。

(1) 放射性希ガス

処理する核燃料物質使用施設の放出ガス記録で報告のある核種（希ガス）に対して、「年間放出量」の値を集計して記載する。

(2) 報告指定核種

原子炉施設報告の処理と同様の処理。

(3) その他

原子炉施設報告の処理と同様の処理。

(4) 核燃料使用施設合計値

原子炉施設報告の処理と同様の処理。

3.10 放射性廃棄物等管理報告書（液体廃棄物）

放射性廃棄物等管理報告書（液体廃棄物）データ作成の流れを図 3-10 に示す。

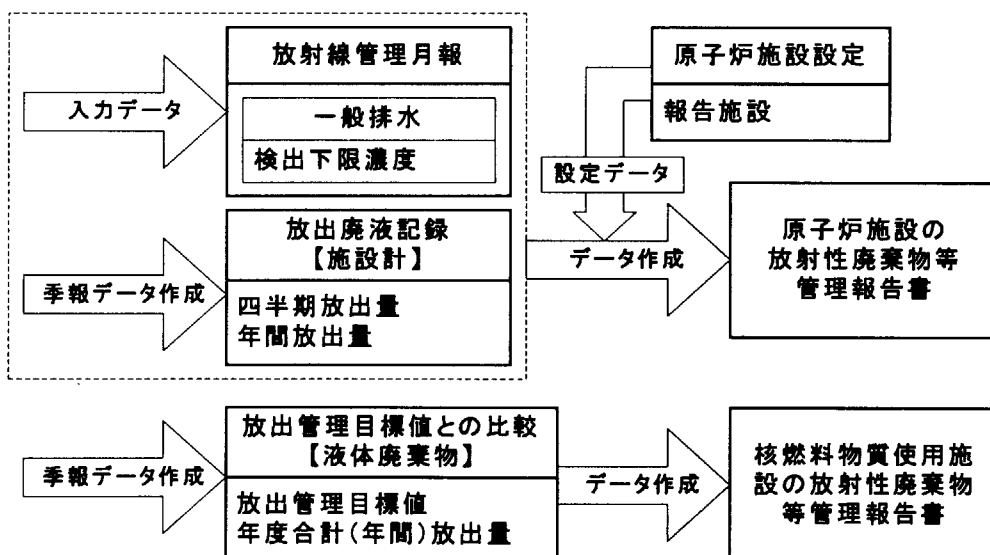


図 3-10 放射性廃棄物等管理報告書（液体廃棄物）データ作成の流れ

3.10.1 原子炉施設報告

(1) ^3H を除く全核種

施設毎に ^3H を除く全核種の値を合計する。

ただし、報告核種により検出分（放出量で報告）と不検出分（検出下限濃度最大値で報告）が混在する場合は、検出分の値のみ合計して記載する。また、すべて不検出分報告だった場合は、合計値に“<”をつけて記載する。

(2) 報告指定核種

原子炉施設の放出廃液記録（施設別集計）から、報告指定核種の検出分のものについて、四半期報告ならば「四半期放出量」の値、年間報告ならば「年間放出量」の値を記載する。ここで、検出分の報告がなく不検出分の廃液記録のみ報告されている場合は、報告期間の検出下限濃度の最大値に“<”をつけて記載する。

(3) その他

原子炉施設の放出廃液記録（施設別集計）において、報告指定核種以外で検出分核種が報告されているものについて、四半期報告ならば「四半期放出量」の値、年間報告ならば「年間放出量」の値を集計して記載する。

(4) 原子炉施設合計値

各原子炉施設の記載値を、放射性廃棄物毎に集計する。以下のように検出下限未満の放出かどうかで集計処理を判断する。

- ① すべての施設が検出下限未満の報告だった場合は、その最大値に“<”をつけて記載する。
- ② いずれかの施設に検出された報告がある場合は、検出分の放出量だけ集計して記載する。

3.10.2 核燃料物質使用施設報告

放射性廃棄物等管理報告における核燃料物質使用施設の液体廃棄物の放出量報告は、「放出管理目標値との比較（液体廃棄物）」と同じデータである。

3.11 希ガスによる実効線量

希ガスによる実効線量データは、「放出管理目標値との比較（気体廃棄物）」とデータを共有しており同時に作成される。なお、基準線量（CALDOS）データは、評価対象期間の実気象データを基に「環境被ばく線量評価コード（EDAS）」⁽²⁾より算出された結果を入力する。

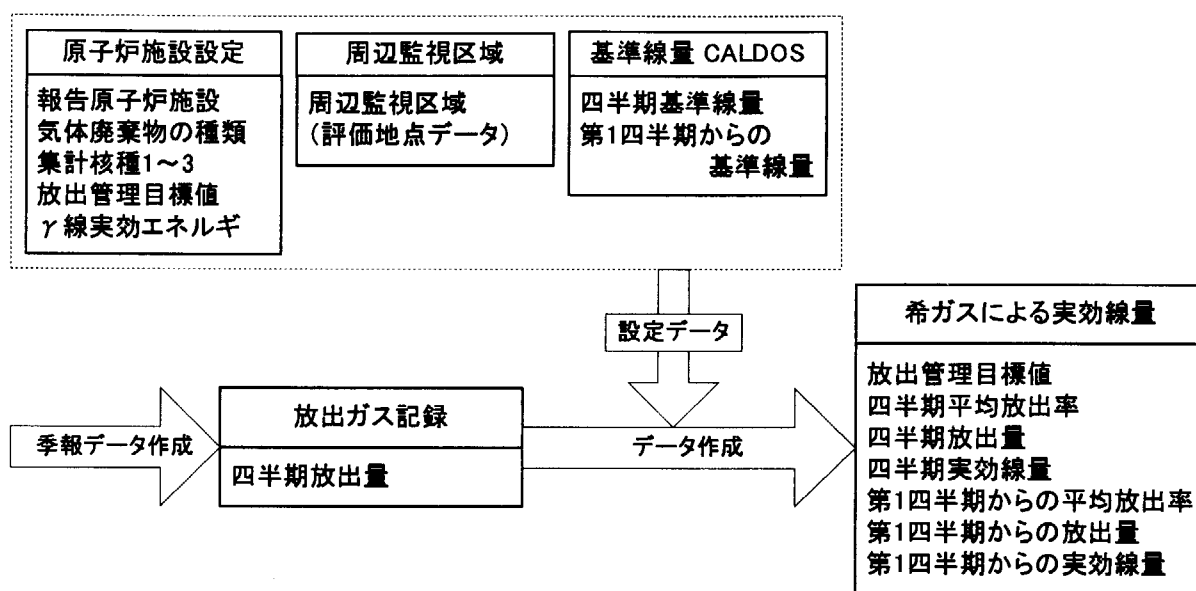


図 3-11 希ガスによる実効線量データ作成の流れ

3.11.1 放出量

(1) 四半期放出量

処理すべき四半期の放出ガス記録から、放射性希ガスで集計対象核種別に「四半期放出量」を集計する。

(2) 第1四半期からの放出量合計

第1四半期から処理すべき四半期までの放出ガス記録から、放射性希ガスで集計対象核種別に「四半期放出量」を集計する。

3.11.2 平均放出率

(1) 四半期平均放出率 (式(3-27)により算出する)

$$\text{平均放出率[Bq/h]} = \frac{\text{四半期放出量[Bq]}}{\text{四半期の暦日数[日]} \times 24[\text{h/日}]} \quad \dots\dots(3-27)$$

(2) 第1四半期からの平均放出率 (式(3-28)により算出する)

$$\text{平均放出率[Bq/h]} = \frac{\text{第1四半期からの放出量合計[Bq]}}{4/1 \text{ から四半期終了日までの暦日数[日]} \times 24[\text{h/日}]} \quad \dots\dots(3-28)$$

3.11.3 実効線量

(1) 四半期実効線量

原子炉施設毎に、対象核種のγ線実効エネルギー、四半期の実気象データに基づく基準線量(CALDOS)データを用いて周辺監視区域境界での実効線量を式(3-29)により算出する。

$$\begin{aligned} \text{実効線量}[\mu\text{Sv}] &= \gamma \text{線実効エネルギー}[\text{MeV/dis}] \\ &\quad \times \text{四半期平均放出率[Bq/h]} \\ &\quad \times \text{四半期の基準線量}[\mu\text{Sv}/(\text{MeV} \cdot \text{Bq/h})] \quad \dots\dots(3-29) \end{aligned}$$

(2) 第1四半期からの実効線量

原子炉施設毎に、(1)と同様に評価期間の実気象データに基づく基準線量を用いて周辺監視区域境界での実効線量を式(3-30)により算出する。

$$\begin{aligned} \text{実効線量}[\mu\text{Sv}] = & \gamma \text{線実効エネルギー}[\text{MeV/dis}] \\ & \times \text{第1四半期からの平均放出率}[\text{Bq/h}] \\ & \times \text{第1四半期からの基準線量}[\mu\text{Sv}/(\text{MeV}\cdot\text{Bq/h})] \quad \cdots(3-30) \end{aligned}$$

3.12 液体廃棄物による実効線量

液体廃棄物による実効線量データは、「放出管理目標値との比較（液体廃棄物）」とデータを共有しており同時に作成される。図3-12に液体廃棄物による実効線量算出の流れを示す。

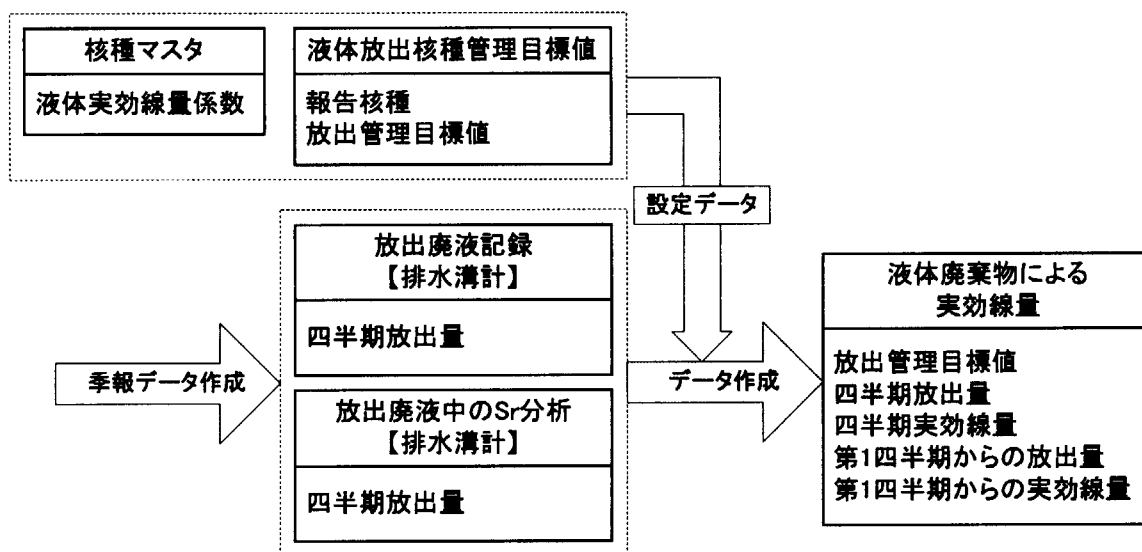


図 3-12 液体廃棄物による実効線量当量データ作成の流れ

3.12.1 放出量

(1) 四半期放出量

① 放出廃液記録（排水溝合計）

検出された核種の四半期放出量（不検出分は除く）を、核種別に全排水溝分集計する。なお、 ^3H の値には ^3H (水)の値を含むが、これらは別々に集計する（詳細データで別々に表示するため）。

② 放出廃液中の Sr 分析結果（排水溝合計）

^{89}Sr , ^{90}Sr に有意な放出量がある場合は、その放出量をそれぞれ全排水溝分合計する。

※「総量」の四半期放出量

^3H ・ ^{14}C 以外の核種の四半期放出量を合計したもの。

※「その他」の四半期放出量

^3H ・ ^{14}C 以外で且つ「 ^3H ・ ^{14}C 以外の核種」欄に報告されない核種の四半期放出量を合計

したもの。

(2) 第1四半期からの放出量合計

四半期放出量と同様の処理で、集計対象期間を第1四半期から処理すべき四半期までの放出量を集計する。

3.12.2 実効線量

(1) 四半期実効線量 (式(3-31)により算出)

実効線量 $[\mu\text{Sv}] = \text{四半期放出量}[\text{Bq}] \times \text{当該核種の実効線量係数}^{(2)} [\mu\text{Sv/Bq}] \dots\dots(3-31)$

※「総量」の四半期実効線量

「その他」の実効線量と「 $^3\text{H} \cdot ^{14}\text{C}$ 以外の核種」欄に報告された核種の四半期実効線量を合計したもの。

※「その他」の四半期実効線量

$^3\text{H} \cdot ^{14}\text{C}$ 以外で且つ「 $^3\text{H} \cdot ^{14}\text{C}$ 以外の核種」欄に報告されない核種の四半期実効線量を合計したもの。

(2) 第1四半期からの実効線量 (式(3-32)により算出)

実効線量 $[\mu\text{Sv}] = \text{第1四半期からの放出量合計}[\text{Bq}]$

$\times \text{当該核種の実効線量係数} [\mu\text{Sv/Bq}] \dots\dots\dots(3-32)$

※「総量」の四半期実効線量

「その他」の実効線量と「 $^3\text{H} \cdot ^{14}\text{C}$ 以外の核種」欄に報告された核種の第1四半期からの実効線量を合計したもの。

※「その他」の四半期実効線量

$^3\text{H} \cdot ^{14}\text{C}$ 以外で且つ「 $^3\text{H} \cdot ^{14}\text{C}$ 以外の核種」欄に報告されない核種の第1四半期からの実効線量を合計したもの。

(3) 合計欄

^3H と「総量」の実効線量を合計したもので、 ^{14}C 以外の核種の実効線量の合計を表す。四半期実効線量と第1四半期からの実効線量について集計する。

3.13 茨城県東海地区環境放射線監視委員会報告書（気体廃棄物）

排気中の放射性核種分析結果データ作成の流れを図 3-13 に示す。

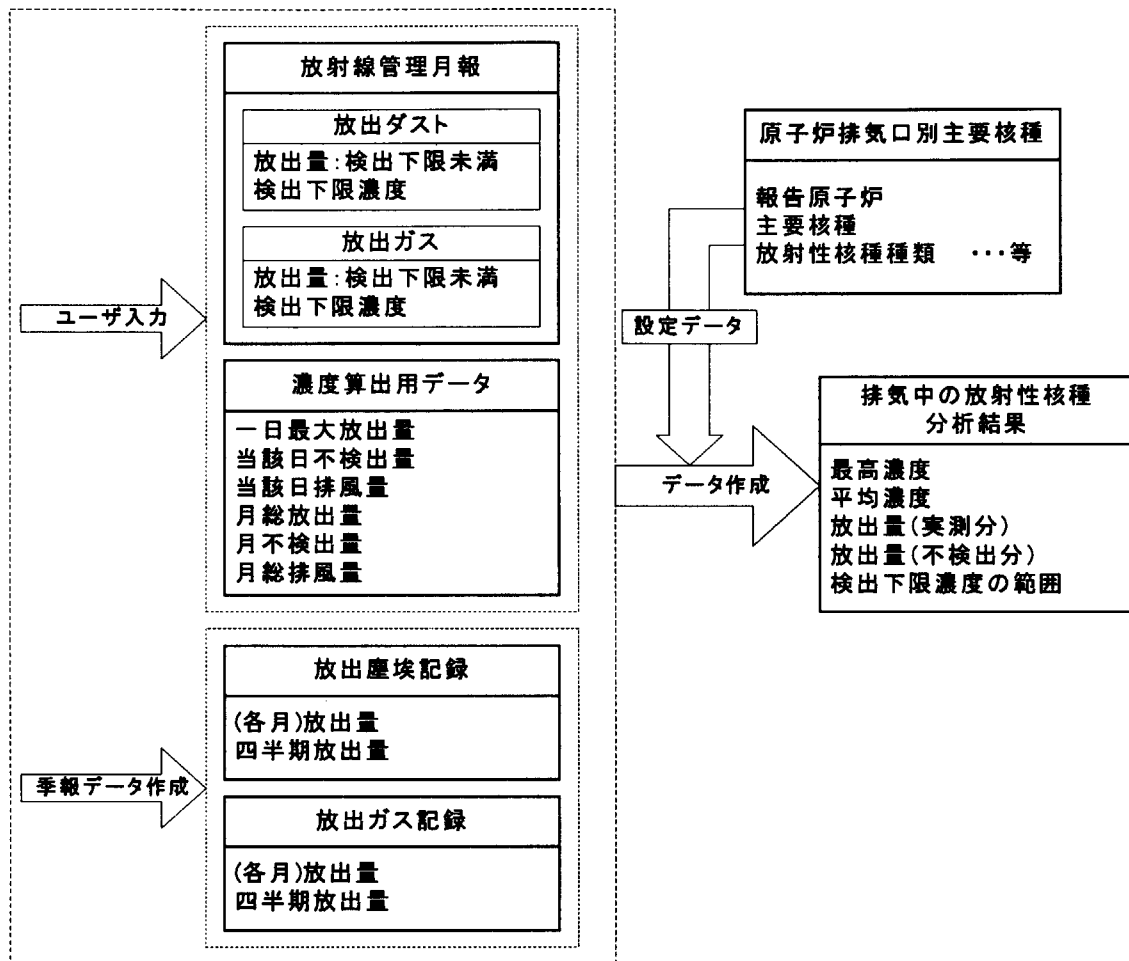


図 3-13 排気中の放射性核種分析結果データ作成の流れ

3.13.1 最高濃度の算出

(1) 各月処理

(a) 核種が ^3H の場合

各月の平均濃度と同じ値を使用する。

(b) 核種が ^3H 以外の定められた核種の場合 (式(3-33)により算出)

$$\text{最高濃度}[\text{Bq}/\text{cm}^3] = \frac{\text{一日又は一週間最大放出量}[\text{Bq}] + \text{当該日不検出量}[\text{Bq}]}{\text{当該日排風量}[\text{cm}^3]} \quad \dots(3-33)$$

3.13.2 平均濃度の算出

(1) 各月処理 (式(3-34)により算出)

$$\text{平均濃度}[\text{Bq}/\text{cm}^3] = \frac{\text{月総放出量}[\text{Bq}] + \text{月不検出量}[\text{Bq}]}{\text{月総排風量}[\text{cm}^3]} \quad \dots\dots\dots(3-34)$$

(2) 四半期処理 (式(3-35)により算出)

$$\text{平均濃度}[\text{Bq}/\text{cm}^3] = \frac{\text{四半期放出量}[\text{Bq}]^{(\ast 1)} + \text{四半期不検出量}[\text{Bq}]^{(\ast 2)}}{\text{四半期排風量}[\text{cm}^3]^{(\ast 3)}} \quad \dots\dots\dots(3-35)$$

上記算出式の各値は次のとおり。

(※1) 四半期放出量[Bq] … 四半期内各月の月総放出量[Bq] の合計 (3 か月分)。

(※2) 四半期不検出量[Bq] … 四半期内各月の月不検出量[Bq] の合計 (3 か月分)。

(※3) 四半期排風量[Bq] … 四半期内各月の月総排風量[cm³] の合計 (3 か月分)。

3.13.3 放出量 (実測分) の記載

(1) 各月処理

放出塵埃記録または放出ガス記録で報告されている四半期内各月の「放出量」の値である。報告対象の原子炉施設排気筒に対して設定されている主要核種については必ず報告し、それ以外に検出された核種は“その他検出された核種”として報告する。

(2) 四半期処理

放出塵埃記録または放出ガス記録で報告されている「四半期放出量」の値である。報告対象の原子炉排気筒に対して設定されている主要核種については必ず報告し、それ以外に検出された核種は“その他検出された核種”として報告する。

3.13.4 放出量 (不検出分) の記載

(1) 各月処理

処理月の放射線管理月報「放出量：検出下限未満」の値である。報告対象の原子炉施設排気筒に対して設定されている主要核種についてのみ報告する。

(2) 四半期処理

四半期内各月の放出量 (不検出分) (3 か月分) を合計する。報告対象の原子炉施設排気筒に対して設定されている主要核種についてのみ報告する。

3.13.5 検出下限濃度範囲

報告する核種毎に、四半期内各月 (3 か月分) の放射線管理月報の「検出下限濃度」を対象に最大値と最小値を検索する。それを検出下限濃度の範囲として報告する。

3.13.6 レポート表記規則

(1) 濃度欄

放出量 (実測分) が 0 の場合は濃度欄は“*”と表記する。ただし、放出量 (不検出分) も 0 の場合は空欄とする。

(2) 放出量 (不検出分) 欄

報告核種により以下①②の表記判断処理をする。

① 核種が全 β または Pu の場合

放出量が 0.004MBq 未満の場合は“微”と表記する。

② それ以外の核種の場合

放出量が 0.04MBq 未満の場合は“微”と表記する。

また、四半期各月 (3 か月分) の表記が 1 つ以上の“微”と 0 しかない場合は、四半期計欄も“微”と表記する。

3.14 茨城県東海地区環境放射線監視委員会報告書（液体廃棄物）

排水中の放射性核種分析結果データ作成の流れを図 3-14 に示す。

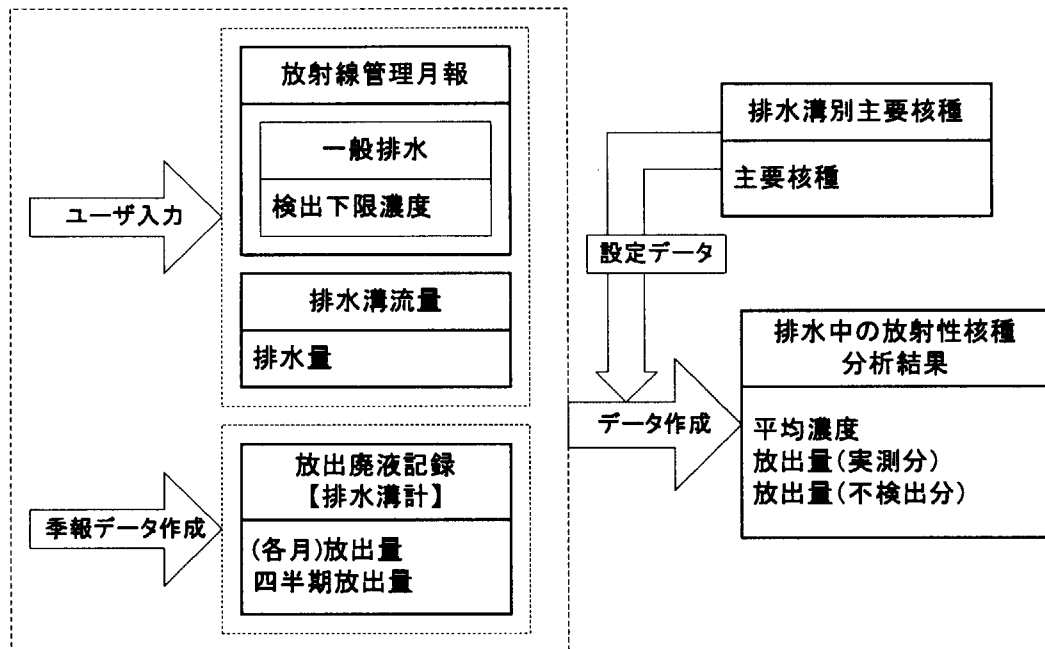


図 3-14 排水中の放射性核種分析結果データ作成の流れ

3.14.1 平均濃度の算出

(1) 各月処理（式(3-36)にて算出）

$$\text{平均濃度[Bq/cm}^3\text{]} = \frac{\text{処理月放出量[Bq]}^{(*)1}}{\text{当該排水溝の各月排水量[m}^3\text{]} \times 10^6} \quad \dots\dots\dots(3-36)$$

(※1) 処理月放出量[Bq]＝処理月放出量(実測分)＋処理月放出量(不検出分)

(2) 四半期処理（式(3-37)にて算出）

$$\text{平均濃度[Bq/cm}^3\text{]} = \frac{\text{四半期放出量[Bq]}^{(*)2}}{\text{当該排水溝の四半期排水量[m}^3\text{]} \times 10^6} \quad \dots\dots\dots(3-37)$$

(※2) 四半期放出量[Bq]＝四半期放出量(実測分)＋四半期放出量(不検出分)

3.14.2 放出量（実測分）の算出

(1) 各月処理

処理すべき四半期の放出廃液記録（排水溝合計）における四半期内各月「放出量」の値で、報告核種の検出分のものである。排水溝別の主要核種として設定されている核種については必ず報告し、それ以外に検出された核種は“その他検出された核種”として報告する。

(2) 四半期処理

処理すべき四半期の放出廃液記録（排水溝合計）における「四半期放出量」の値で、報告核種の検出分のものである。排水溝別の主要核種として設定されている核種については必ず報告し、

それ以外に検出された核種は“その他検出された核種”として報告する。

3.14.3 放出量（不検出分）の算出

(1) 各月処理

処理四半期の放出廃液記録（排水溝計）における四半期内各月「放出量」の値で、報告核種の不検出分のものである。排水溝別の主要核種についてのみ報告する。

(2) 四半期処理

処理四半期の放出廃液記録（排水溝計）における「四半期放出量」の値で、報告核種の不検出分のものである。排水溝別の主要核種についてのみ報告する。

3.14.4 検出下限濃度範囲

放射線管理月報（一般排水）を処理した四半期分に対して、報告する排水溝・核種の組毎に「検出下限濃度」の最大値と最小値を検索する。それを検出下限濃度の範囲として報告する。

3.14.5 レポート記載規則

(1) 濃度欄

放出量（実測分）が 0 の場合は濃度欄は“*”と表記する。ただし、放出量（不検出分）も 0 の場合は空欄とする。

(2) 放出量（不検出分）欄

報告核種により以下①②の表記判断処理をする。

① 核種が全 β または Pu の場合

放出量が 0.004MBq 未満の場合は“微”と表記する。

② それ以外の核種の場合

放出量が 0.04MBq 未満の場合は“微”と表記する。

また、処理四半期各月（3 か月分）の表記が 1 つ以上の“微”と 0 しかない場合は、四半期計欄も“微”と表記する。

3.14.6 液体廃棄物の年間放出量

(1) 放出量（検出分）

四半期分の放出廃液記録（排水溝合計）で検出分として報告されている核種の「年間放出量」の値である。また、核種毎に全排水溝分を集計して“計”として報告する。

(2) 放出量（不検出分）

四半期分の放出廃液記録（排水溝合計）で不検出分として報告されている核種の「年間放出量」の値である。また、核種毎に全排水溝分を集計して“計”として報告する。

3.15 茨城県原子力安全協定に基づく報告（主な放射性廃棄物の処理処分状況）

3.15.1 気 体

(1) 平均濃度

処理すべき四半期の排気中の 3.13 項で求めた「四半期平均濃度」の値。

ただし、放出量（実測分）が 0 の場合は“*”と表記し、備考欄に DL_{Qmax} （四半期内検出下

限濃度の最大値)に“<”をつけて記載する。

(2) 放出量 (実測分)

処理すべき四半期の排気中の 3.13 項で求めた「四半期実測分放出量」の値。

(3) 放出量 (不検出分)

処理すべき四半期の排気中の 3.13 項で求めた「四半期不検出分放出量」の値。

3.15.2 液 体

(1) 平均濃度 (式(3-38)により算出)

$$\text{平均濃度[Bq/cm}^3\text{]} = \frac{\text{放出量(実測分)[Bq]} + \text{放出量(不検出分)[Bq]}}{\text{当該排水溝の四半期排水量[m}^3\text{]} \times 10^6} \dots\dots\dots(3-38)$$

(2) 放出量 (実測分)

処理すべき四半期の放出廃液記録 (排水溝計) における検出分の「放出量」の値である。

(3) 放出量 (不検出分)

処理すべき四半期の放出廃液記録 (排水溝計) における不検出分の「放出量」の値である。

4. まとめ

排気・排水データベースを作成したことにより、誤りの無いデータ入力を可能にすることおよび転記作業時に何度も行っていたデータ確認行為を減らすことが出来た。これにより、業務の効率化が図られ、報告書の信頼性が向上した。今後は、区域放射線管理担当課で開発している放射線管理データの転送プログラムを利用し、排気・排水関連データのオンライン入力を計画しており、効率的に放射線管理データが蓄積されてデータベースが充実するとともに放射線管理へのデータの有効活用が期待できる。

謝 辞

放射線管理用排気・排水データベースシステムは、情報システム管理課で実施しているソフトウェア開発整備作業により作成されたものである。プログラム開発に多大なご協力をいただいた情報システム管理課に深く感謝いたします。

参考文献

- (1) 澤島勝紀：保健物理-管理と研究-No.45, JAERI-Review 2003-034,121-122 (2003)
- (2) 滝光成, 他：“環境被ばく線量評価コード(EDAS)”, JAERI-Data/Code 2003-006 (2003)
- (3) ICRP から出版されている CD-ROM (The ICRP Database of Dose Coefficients : Workers and Members of the Public (Version One,1999))

This is a blank page.

付 録

データベース仕様

1. データベースダイアグラム
2. テーブル仕様
3. ビュー
4. ストアドプロシージャ

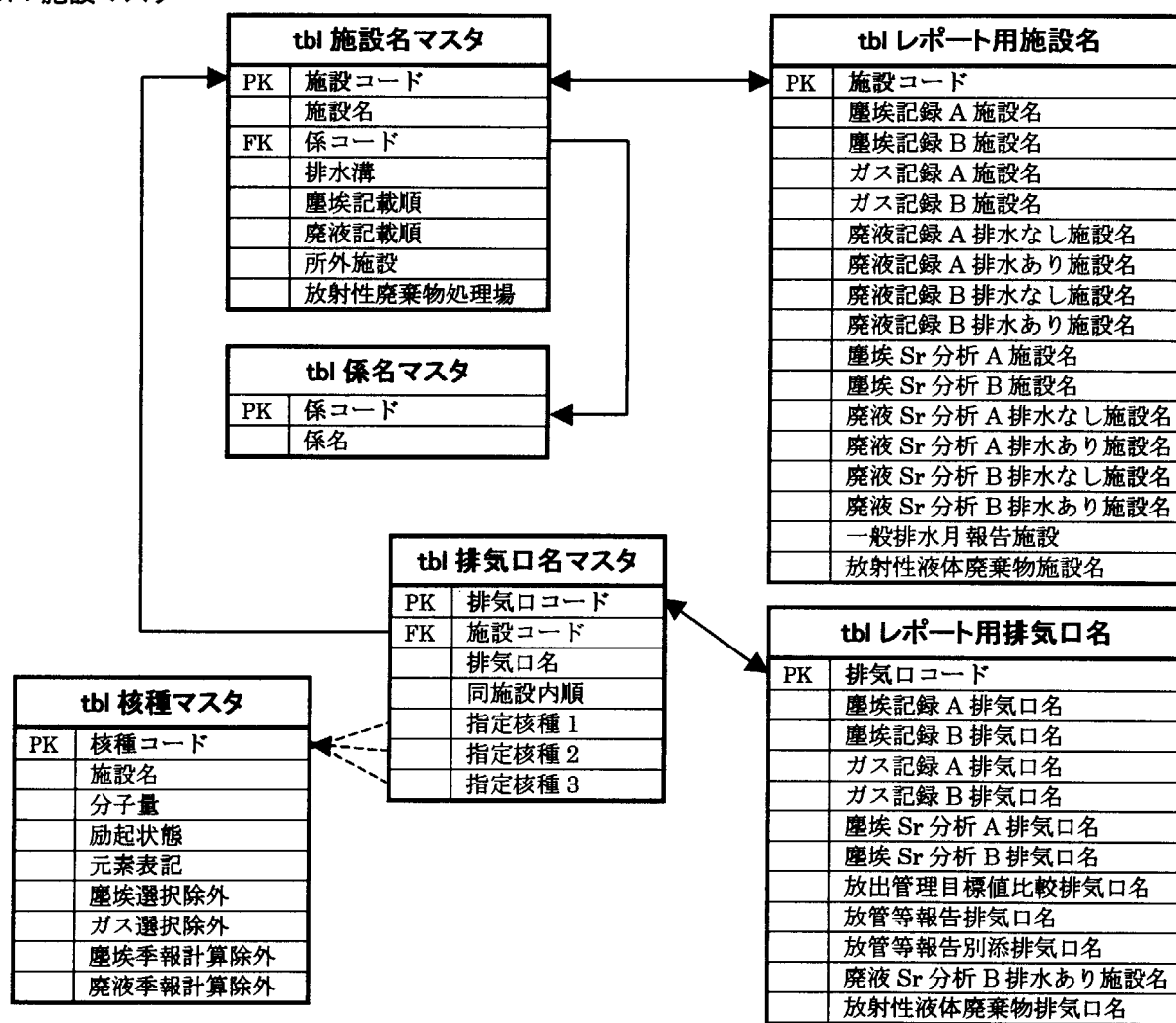
This is a blank page.

1. データベースダイアグラム

付表 1-1 データベースダイアグラムでの表記記号について

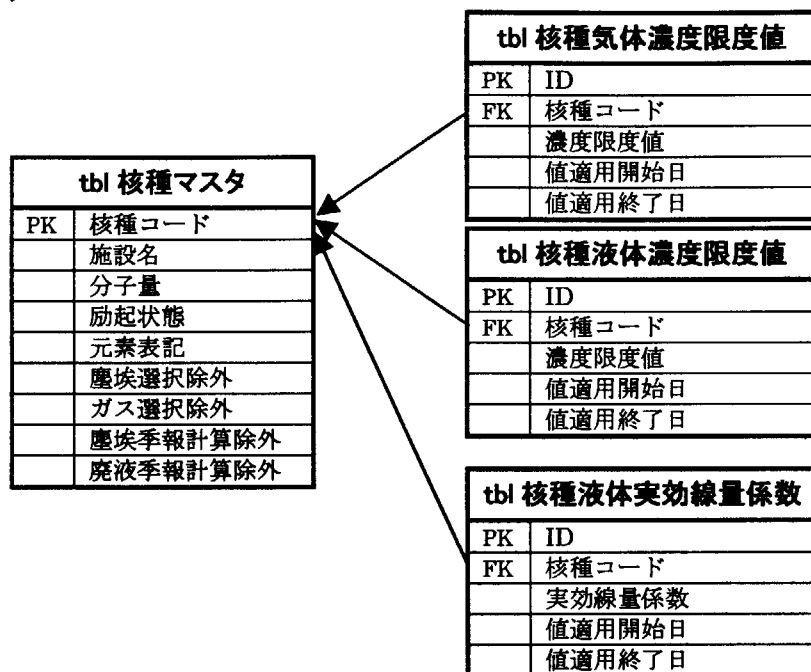
PK	P	主キー(PRIMARY KEY)
FK	F	外部キー(FOREIGN KEY)
		一対多のリレーション
		一対一のリレーション
		リレーションの設定はしていないが、格納値が指す内容

1.1 施設マスタ



付図 1-1 データベースダイアグラム【施設マスタ】

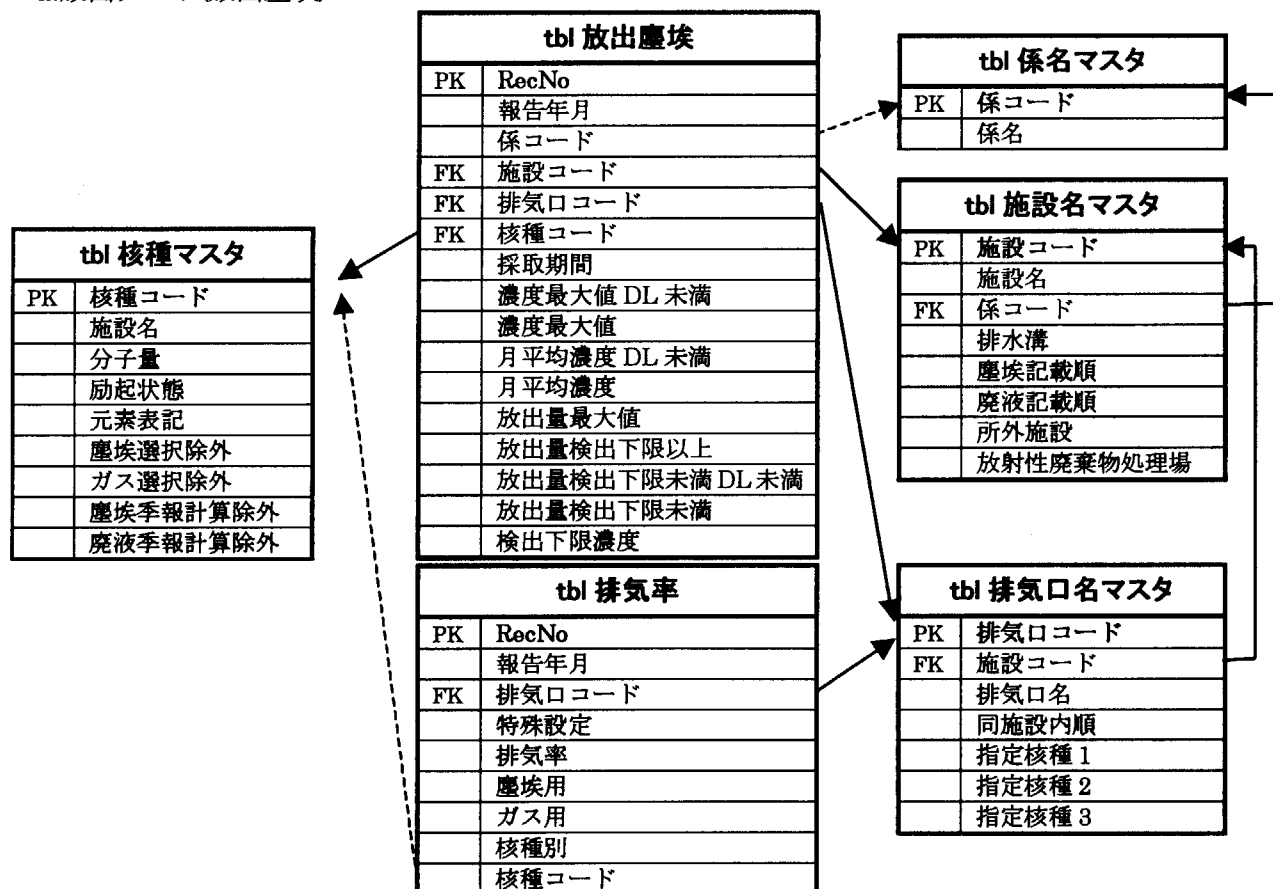
1.2 核種データ



付図 1-2 データベースダイアグラム【核種データ】

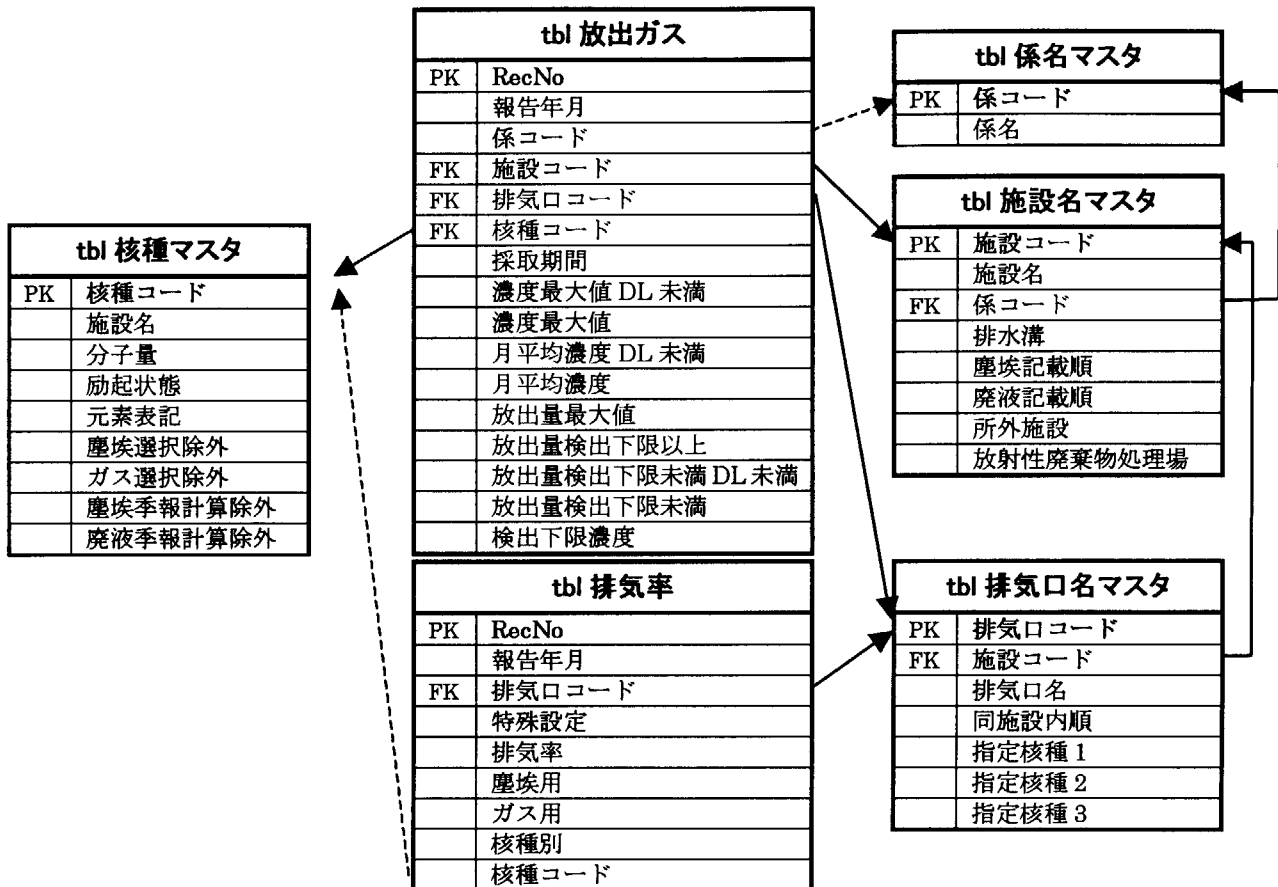
1.3 放射線管理月報

a. 放出ダスト(放出塵埃)



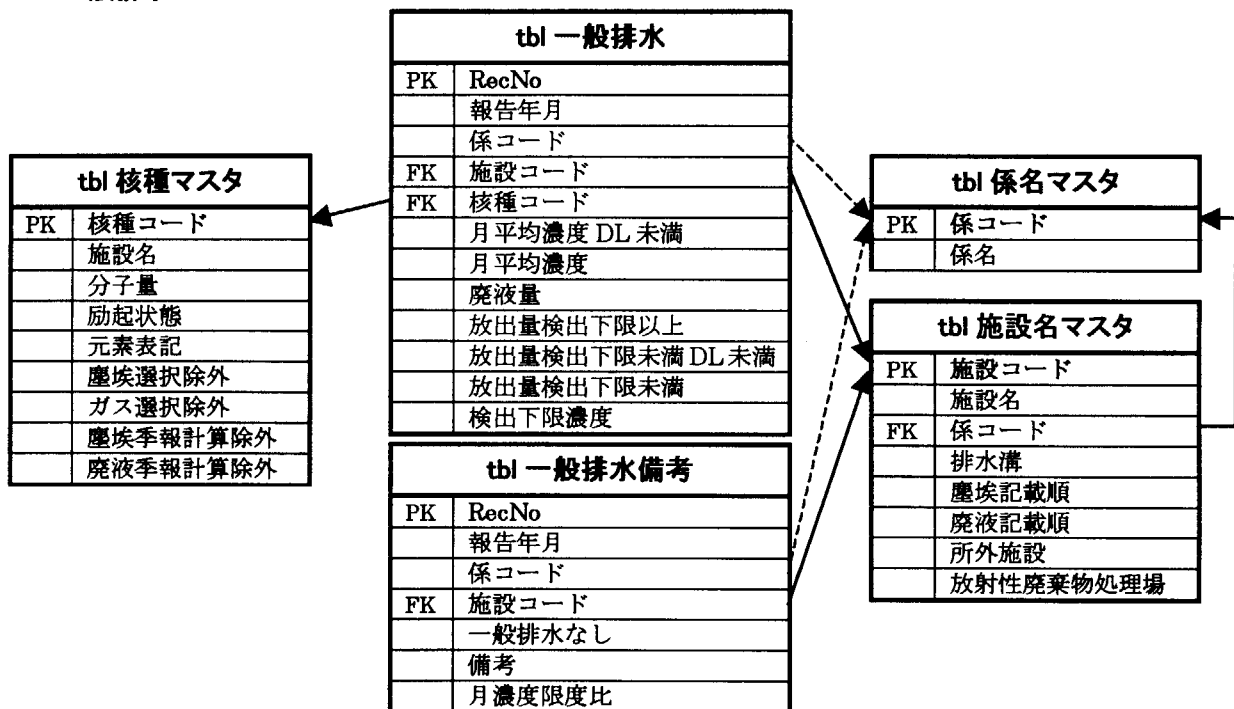
付図 1-3 データベースダイアグラム【月報：放出ダスト】

b. 放出ガス



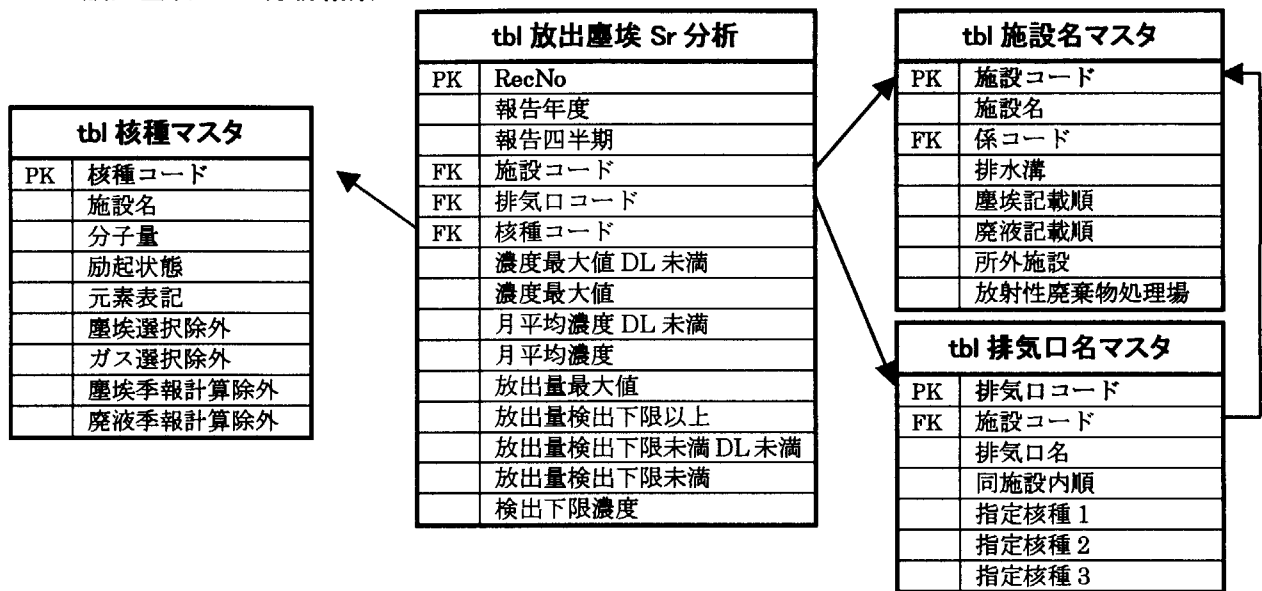
付図 1-5 データベースダイアグラム【月報：放出ガス】

1.5 一般排水



付図 1-6 データベースダイアグラム【月報：一般排水】

1.6 放出塵埃の Sr 分析結果



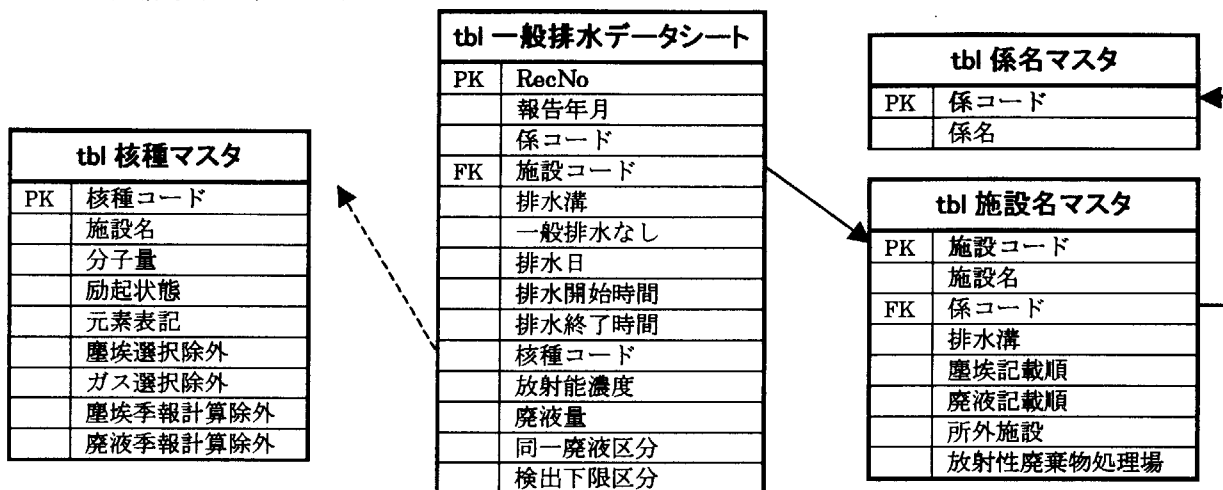
付図 1-7 データベースダイアグラム【月報：放出塵埃中の Sr 分析結果】

1.7 放出廃液の Sr 分析結果



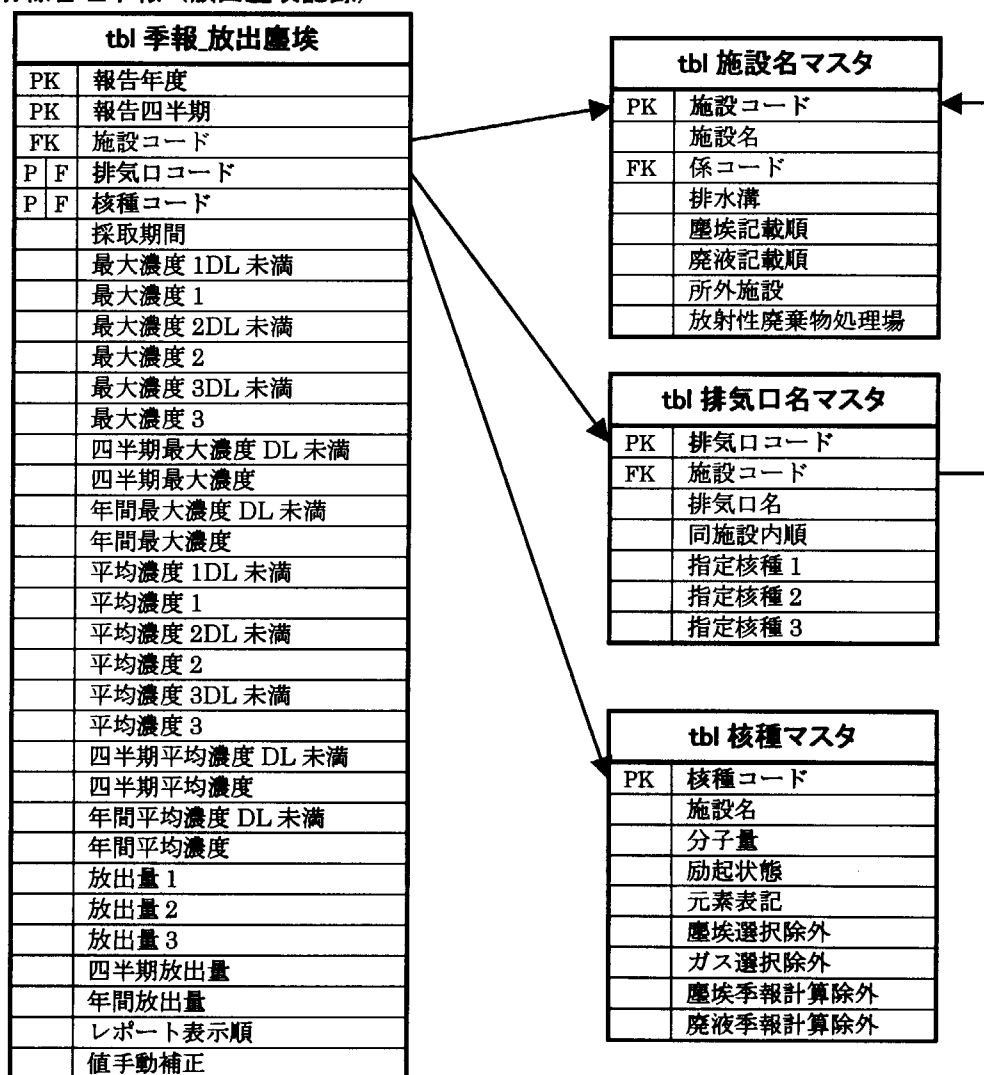
付図 1-8 データベースダイアグラム【月報：放出廃液中の Sr 分析結果】

1.8 一般排水データシート



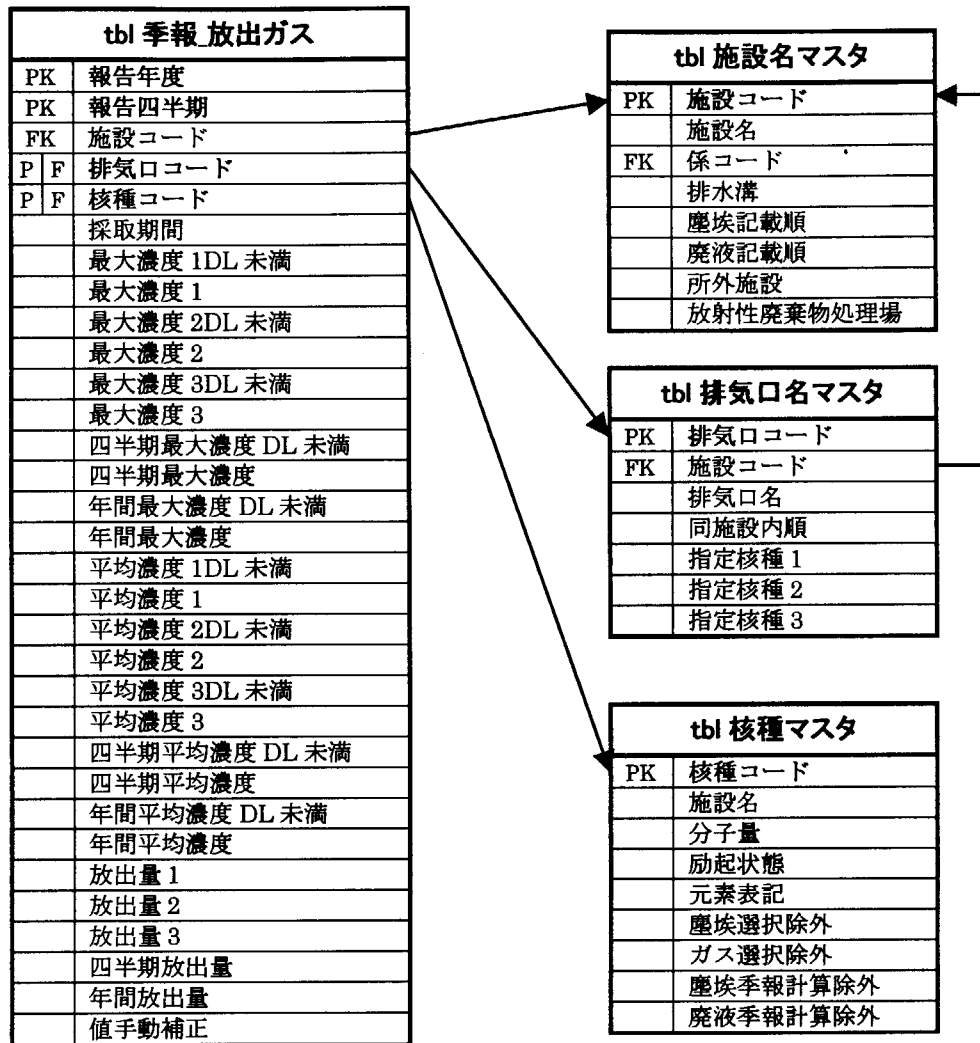
付図 1-9 データベースダイアグラム【一般排水データシート】

1.9 放射線管理季報（放出塵埃記録）



付図 1-10 データベースダイアグラム【季報：放出塵埃記録】

1.10 放出ガス記録



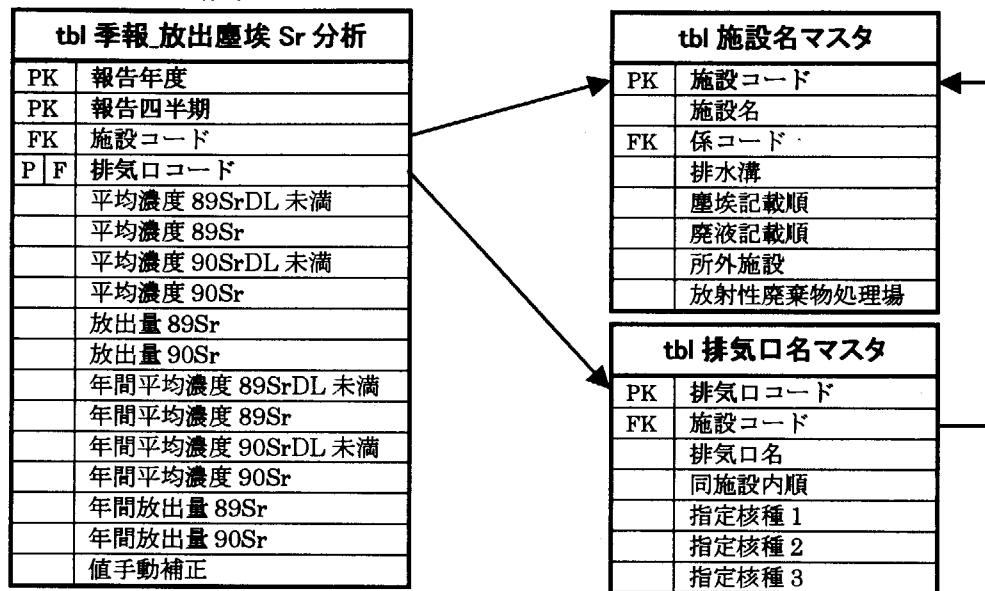
付図 1-11 データベースダイアグラム【季報：放出ガス記録】

1.11 放出廃液記録



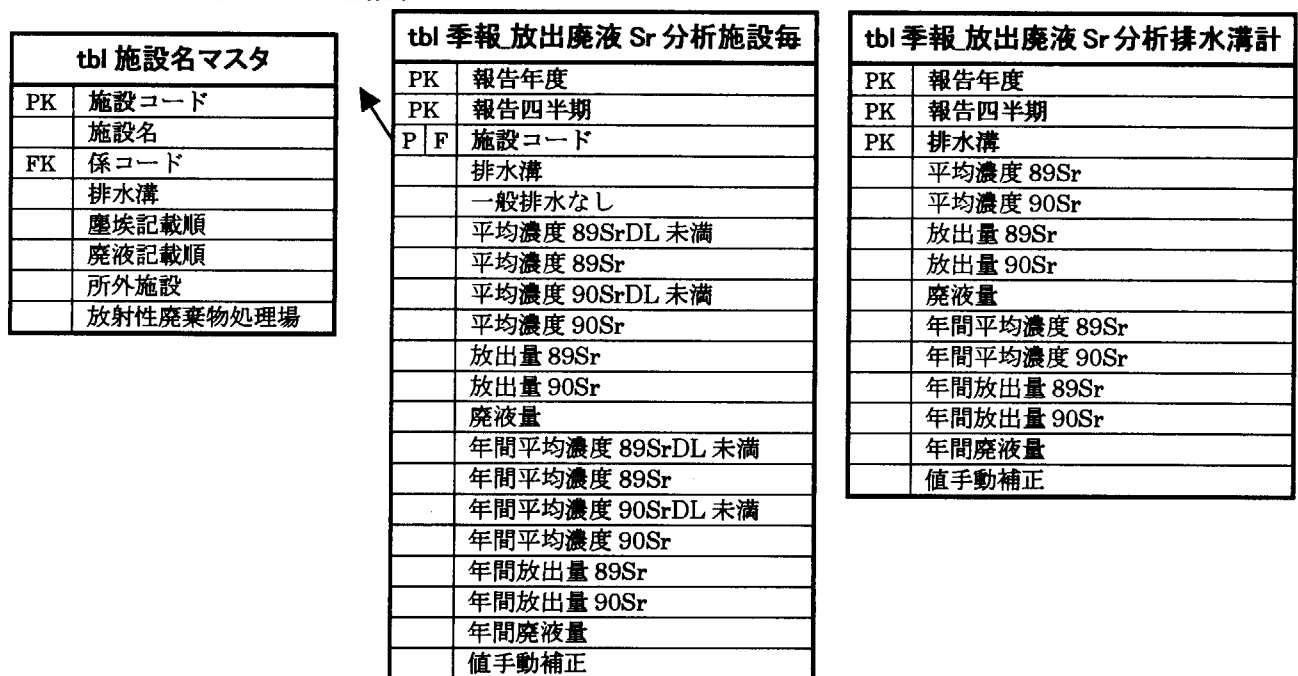
付図 1-12 データベースダイアグラム【季報：放出廃液記録】

1.12 放出塵埃中の Sr 分析結果



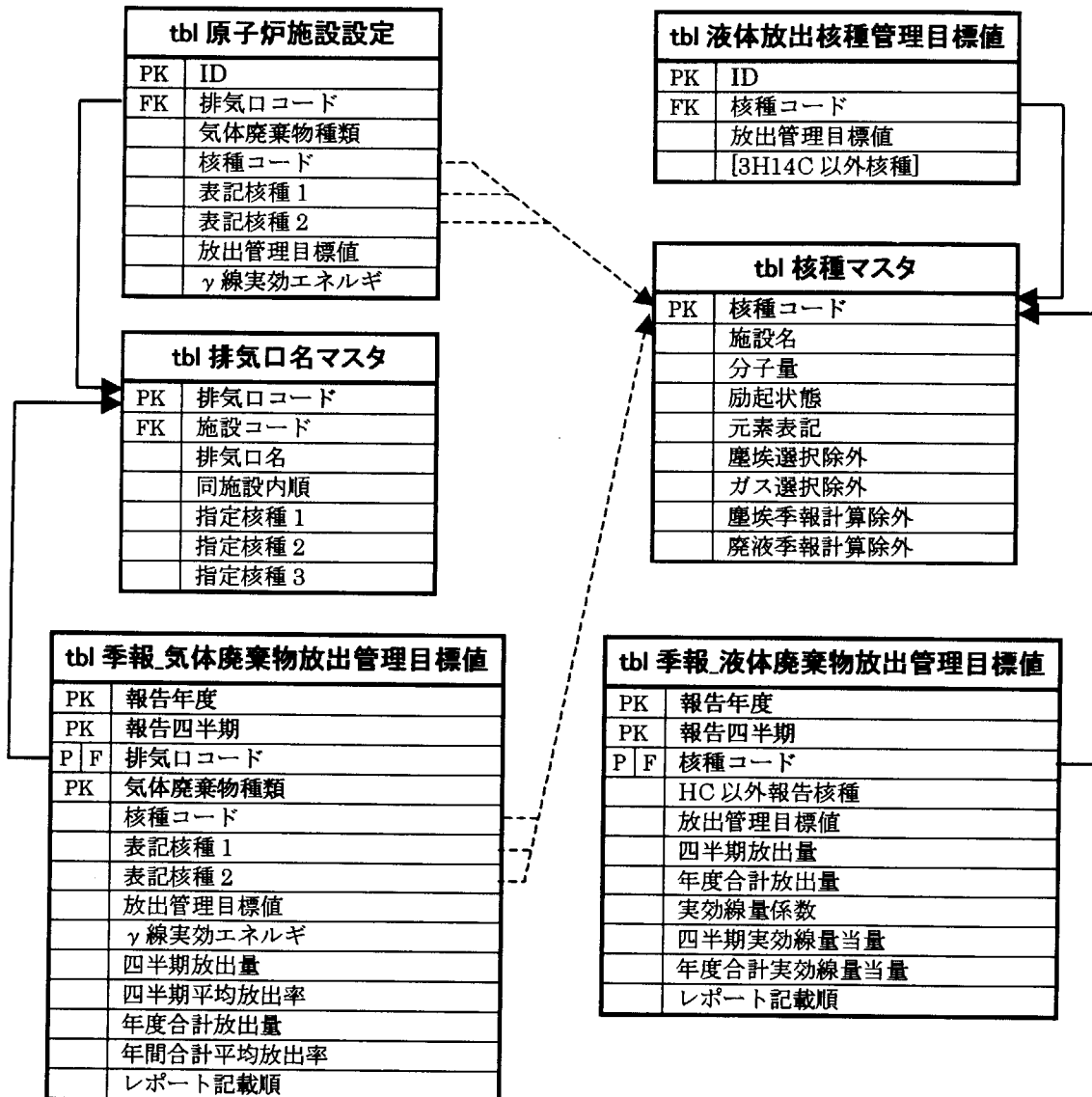
付図 1-13 データベースダイアグラム【季報：放出塵埃中の Sr 分析結果】

1.13 放出廃液中の Sr 分析結果



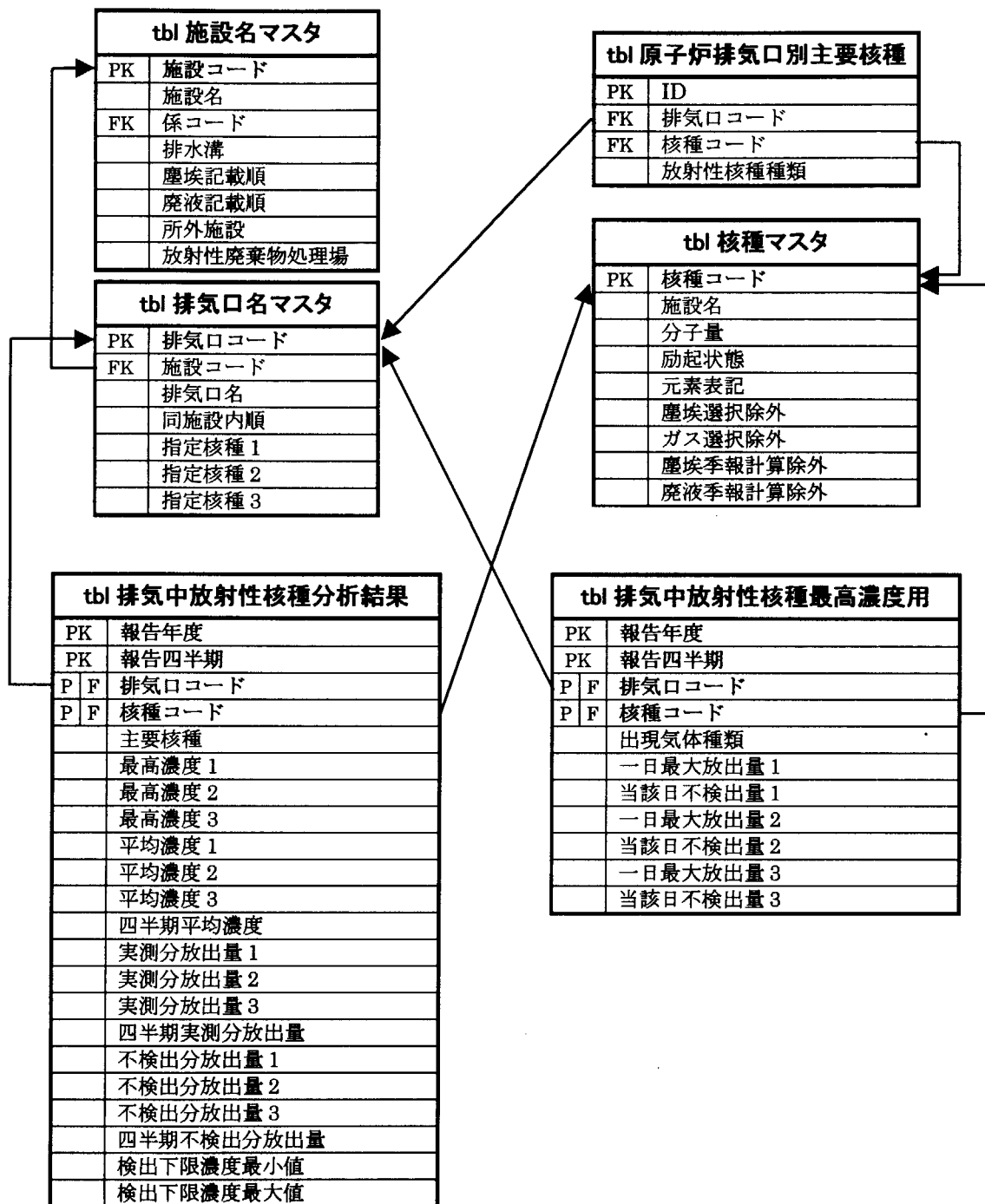
付図 1-14 データベースダイアグラム【季報：放出廃液中の Sr 分析結果】

1.14 放出管理目標値との比較



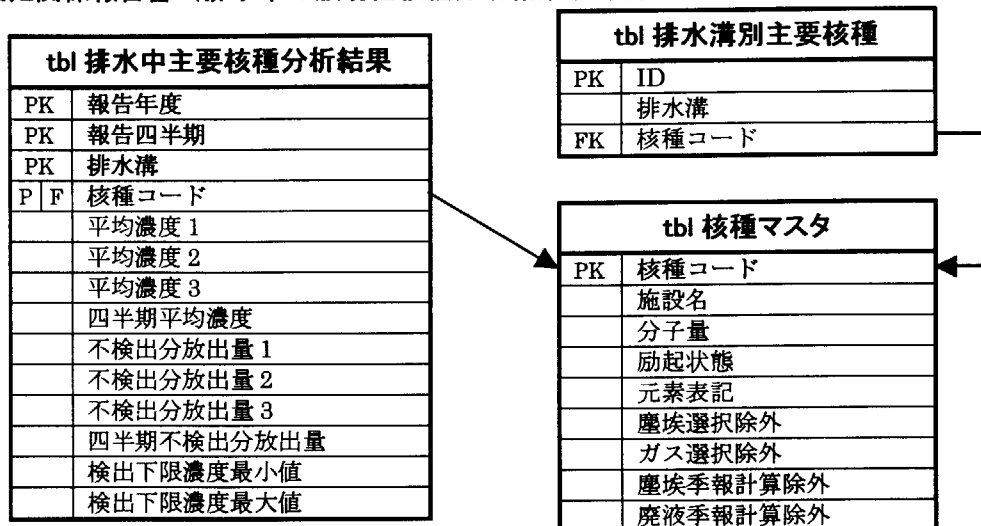
付図 1-15 データベースダイアグラム【季報：放出管理目標値との比較】

1.15 県協定関係報告書（排気中の放射性核種分析結果）



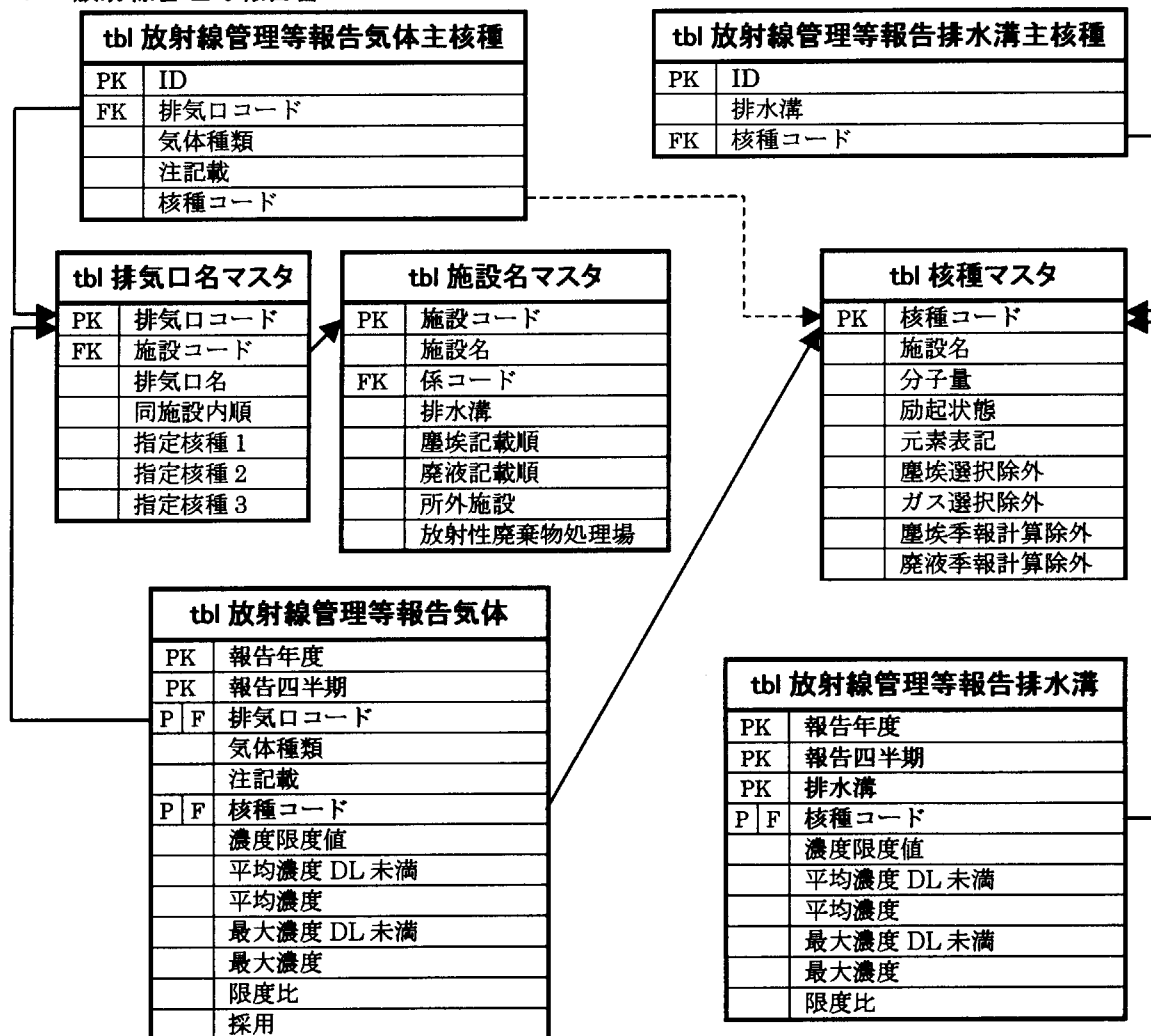
付図 1-16 データベースダイアグラム【排気中の放射性核種分析結果】

1.16 県協定関係報告書（排水中の放射性核種分析結果（主要核種））



付図 1-17 データベースダイアグラム【排水中の放射性核種分析結果（主要核種）】

1.17 放射線管理等報告書



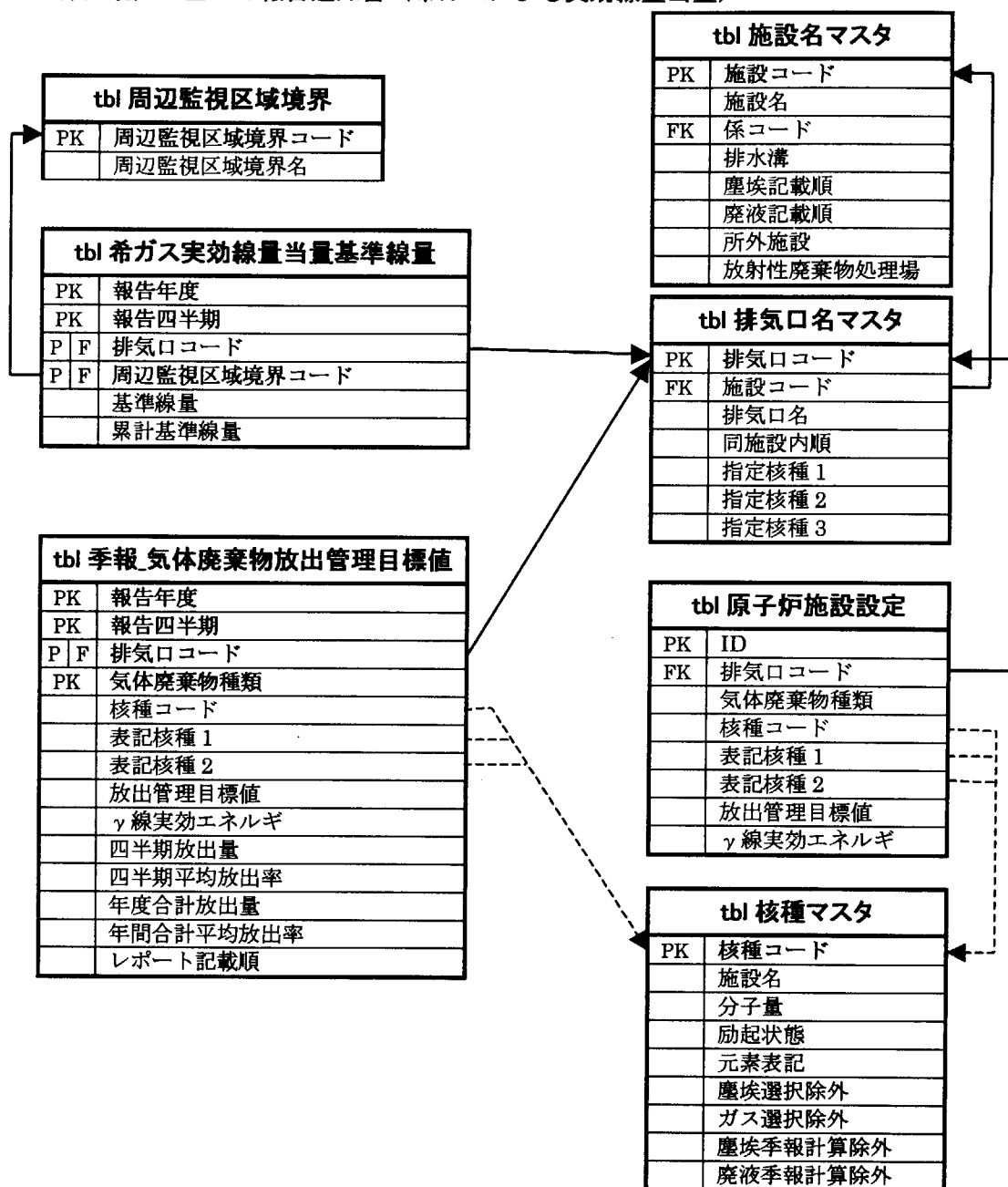
付図 1-18 データベースダイアグラム【放射線管理等報告書】

1.18 放射性廃棄物等管理報告書



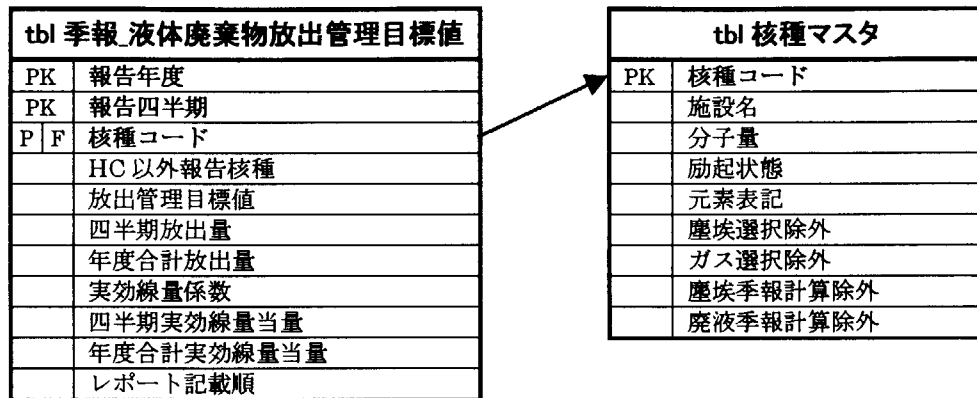
付図 1-19 データベースダイアグラム【放射性廃棄物等管理報告書】

1.19 保安規定に基づく報告通知書（希ガスによる実効線量当量）



付図 1-20 データベースダイアグラム【希ガスによる実効線量当量】

1.20 液体廃棄物による実効線量当量



付図 1-21 データベースダイアグラム【液体廃棄物による実効線量当量】

2. テーブル仕様

2.1 施設マスタ関連

tbl 係名マスタ

No	列名	内容	データ型	サイズ	NOT NULL	規定値	IDENT	PK	FK	UK	IX
1	係コード	放射線管理係を識別するコード。	int	4	○		(1, 1)	○		-	
2	係名	放射線管理係の名称。	nvarchar	30							
3	リスト順	コンボボックス等での表示順。	int	4							

◆トリガ ◆ tbl 係名マスタ_削除トリガ / tbl 係名マスタ_更新トリガ

tbl 施設名マスタ

No	列名	内容	データ型	サイズ	NOT NULL	規定値	IDENT	PK	FK	UK	IX
1	施設コード	放射線管理施設を識別するコード。	int	4	○		(1, 1)	○		-	
2	施設名	放射線管理施設の名称。	nvarchar	50							
3	係コード	この施設の放射線管理を担当する係の係コード。	int	4					①		
4	排水溝	この施設が属する排水溝。	smallint	2							
5	塵埃記載順	塵埃関連報告書での記載順。(=32767 : 記載から除外)	smallint	2		32767					
6	廃液記載順	廃液関連報告書での記載順。(=32767 : 記載から除外)	smallint	2		32767					
7	所外施設	東海研究所外の施設の場合、真値。	bit	1		0 (False)					
8	放射性廃棄物処理場	放射性廃棄物処理場の場合、真値。	bit	1		0 (False)					
9	建家番号	この施設の建家番号。	int	4							

◆外部キーテーブル ◆ ①tbl 係名マスタ

◆トリガ ◆ tbl 施設名マスタ_削除トリガ / tbl 施設名マスタ_更新トリガ / tbl 施設名マスタ_挿入トリガ

tbl 排気口名マスタ

No	列名	内容	データ型	サイズ	NOT NULL	規定値	IDENT	PK	FK	UK	IX
1	排気口コード	放射線管理施設の排気口を識別するコード。	int	4	○		(1, 1)	○		-	
2	施設コード	この排気口を所有する施設の施設コード。	int	4					①		①
3	排気口名	排気口の名称。	nvarchar	50							

4	同施設内順	同一施設に複数の排気口がある場合の表示・報告の順番。 単一の排気口の場合は必ず0とする。	smallint	2	0			
5	指定核種 1	この排気口が必ず報告することになっている放出核種の 核種コードを指定する (1~3 種類)。ただし「全 α」「全 β」に関しては指定の必要なし。	int	4				
6	指定核種 2		int	4				
7	指定核種 3		int	4				

◆外部キーテーブル◆ ①tbl 施設名マスタ

◆トリガ◆ tbl 排気口名マスタ_削除トリガ / tbl 排気口名マスタ_挿入トリガ

tbl レポート用施設名表記

No	列名	内容	データ型	サイズ	NOT NULL	規定値	IDENT	PK	FK	UK	IX
1	施設コード	放射線管理施設を識別するコード。	int	4	○			○	①	-	
2	レポート ID	施設名表記を設定する報告書を識別するコード。	int	4	○			○	②	-	
3	施設名表記	この報告書での施設名の表記。	nvarchar	128							

◆外部キーテーブル◆ ①tbl 施設名マスタ ②tbl 表記設定対象レポート

tbl レポート用排気口名表記

No	列名	内容	データ型	サイズ	NOT NULL	規定値	IDENT	PK	FK	UK	IX
1	排気口コード	放射線管理施設の排気口を識別するコード。	int	4	○			○	①	-	
2	レポート ID	排気口名表記を設定する報告書を識別するコード。	int	4	○			○	②	-	
3	排気口名表記	この報告書での排気口名の表記。	nvarchar	128							

◆外部キーテーブル◆ ①tbl 排気口名マスタ ②tbl 表記設定対象レポート

tbl 表記設定対象レポート

No	列名	内容	データ型	サイズ	NOT NULL	規定値	IDENT	PK	FK	UK	IX
1	レポート ID	施設名表記などの設定対象報告書を識別するコード。	int	4	○			○		-	
2	レポート名	報告書名。	nvarchar	50							
3	施設名設定	この報告書で施設名表記を設定する場合、真値。	bit	1							
4	排気口名設定	この報告書で排気口名表記を設定する場合、真値。	bit	1							
5	Excel 用	Excel で作成した報告書用の場合、真値。	bit	1							

※補足：施設名や排気口名を tbl 施設名マスタ、tbl 排気口名マスタで設定されている名称とは別に設定する報告書のリストである。

2.2 核種データ関連

tbl 核種マスタ

No	列名	内容	データ型	サイズ	NOT NULL	規定値	IDENT	PK	FK	UK	IX
1	核種コード	核種を識別するコード。	int	4	○		(1, 1)	○		-	
2	核種	核種名。	nvarchar	20							
3	分子量	分子量。分子量を与えない核種については NULL。	int	4							
4	励起状態	励起状態の核種の場合は真値。	bit	1		0 (False)					
5	元素表記	元素を表記する際の文字列。主に元素記号を与える。	nvarchar	20							
6	塵埃選択除外	放出塵埃データを入力する際の核種選択リストから除外する場合、真値。	bit	1		0 (False)					
7	ガス選択除外	放出ガスデータを入力する際の核種選択リストから除外する場合、真値。	bit	1		0 (False)					
8	廃液選択除外	一般排水データを入力する際の核種選択リストから除外する場合、真値。	bit	1		0 (False)					
9	塵埃季報計算除外	塵埃・ガス関連の季報データ集計時に、その集計処理から除外する核種の場合、真値。	bit	1		0 (False)					
10	廃液季報計算除外	廃液関連の季報データ集計時に、その集計処理から除外する核種の場合、真値。	bit	1		0 (False)					
11	備考	この核種に関する特記事項など。	ntext	--							

◆トリガ ◆ tbl 核種マスタ_削除トリガ/tbl 核種マスタ_更新トリガ

tbl 核種気体濃度限度値

No	列名	内容	データ型	サイズ	NOT NULL	規定値	IDENT	PK	FK	UK	IX
1	ID	レコード ID。	int	4	○		(1, 1)	○		-	
2	核種コード	核種を識別するコード。	int	4					①		①
3	濃度限度値	(気体)濃度限度値【Bq/cm ³ 】。	real	4							
4	値適用開始日	この濃度限度値を適用する期間の開始日。	datetime	8							
5	値適用終了日	この濃度限度値を適用する期間の終了日。	datetime	8							

◆外部キーテーブル◆ ①tbl 核種マスタ

◆トリガ ◆ tbl 核種気体濃度限度値_更新トリガ/tbl 核種気体濃度限度値_挿入トリガ

tbl 核種液体濃度限度値

No	列名	内容	データ型	サイズ	NOT NULL	規定値	IDENT	PK	FK	UK	IX
1	ID	レコード ID。	int	4	○		(1, 1)	○		—	
2	核種コード	核種を識別するコード。	int	4					①		①
3	濃度限度値	(液体)濃度限度値 [Bq/cm ³]。	real	4							
4	値適用開始日	この濃度限度値を適用する期間の開始日。	datetime	8							
5	値適用終了日	この濃度限度値を適用する期間の終了日。	datetime	8							

◆外部キーテーブル◆ ①tbl 核種マスク

◆トリガ◆ tbl 核種液体濃度限度値_更新トリガ/tbl 核種液体濃度限度値_挿入トリガ

tbl 核種液体実効線量係数

No	列名	内容	データ型	サイズ	NOT NULL	規定値	IDENT	PK	FK	UK	IX
1	ID	レコード ID。	int	4	○		(1, 1)	○		—	
2	核種コード	核種を識別するコード。	int	4					①		①
3	実効線量係数	液体廃棄物による実効線量計算用の係数。	real	4							
4	値適用開始日	この実効線量係数を適用する期間の開始日。	datetime	8							
5	値適用終了日	この実効線量係数を適用する期間の終了日。	datetime	8							

◆外部キーテーブル◆ ①tbl 核種マスク

◆トリガ◆ tbl 核種液体実効線量係数_更新トリガ/tbl 核種液体実効線量係数_挿入トリガ

2.3 放射線管理月報関

tbl 放出塵埃

No	列名	内容	データ型	サイズ	NOT NULL	規定値	IDENT	PK	FK	UK	IX
1	RecNo	レコード番号。	int	4	○		(1, 1)	○		—	
2	報告年月	放射線管理月報の報告年月。月の開始日(1日)で格納。	datetime	8							①
3	係コード	放射線管理担当係を識別するコード。	int	4							②
4	施設コード	放射線管理施設を識別するコード。	int	4					①		③
5	排気口コード	放射線管理施設の排気口を識別するコード。	int	4					②		④
6	核種コード	核種を識別するコード。	int	4					③		⑤
7	採取期間	核種の採取期間。(=D'1日/W'1週間/M'1ヵ月)	nvarchar	1							
8	濃度最大値 DL 未満	濃度最大値が検出下限未満の場合、真値。	bit	1		1 (True)					

9	濃度最大値	濃度最大値 [Bq/cm ³]	real	4					
10	月平均濃度 DL未満	月平均濃度が検出下限未満の場合、真値。	bit	1	1 (True)				
11	月平均濃度	月平均濃度 [Bq/cm ³]	real	4					
12	放出量最大値	放出量最大値 [Bq]	real	4					
13	放出量検出下限以上	放出量検出下限以上 [Bq]	real	4					
14	放出量検出下限未満 DL未満	放出量検出下限未満が検出下限未満の場合、真値。	bit	1	1 (True)				
15	放出量検出下限未満	放出量検出下限未満 [Bq]	real	4					
16	検出下限濃度	検出下限濃度 [Bq/cm ³]	real	4					

◆外部キーテーブル◆ ①tbl施設名マスタ ②tbl排気口名マスタ ③tbl核種マスタ

◆トリガ◆ tbl放出塵埃_更新トリガ/tbl放出塵埃_挿入トリガ

tbl 放出ガス

No	列名	内容	データ型	サイズ	NOT NULL	規定値	IDENT	PK	FK	UK	IX
1	RecNo	レコード番号。	int	4	○		(1, 1)	○		-	
2	報告年月	放射線管理月報の報告年月。月の開始日(1日)で格納。	datetime	8							①
3	係コード	放射線管理担当係を識別するコード。	int	4							②
4	施設コード	放射線管理施設を識別するコード。	int	4					①		③
5	排気口コード	放射線管理施設の排気口を識別するコード。	int	4					②		④
6	核種コード	核種を識別するコード。	int	4					③		⑤
7	採取期間	核種の採取期間。(=D'1日/W'-週間/M'1ヵ月)	nvarchar	1							
8	濃度最大値 DL未満	濃度最大値が検出下限未満の場合、真値。	bit	1		1 (True)					
9	濃度最大値	濃度最大値 [Bq/cm ³]	real	4							
10	月平均濃度 DL未満	月平均濃度が検出下限未満の場合、真値。	bit	1		1 (True)					
11	月平均濃度	月平均濃度 [Bq/cm ³]	real	4							
12	放出量最大値	放出量最大値 [Bq]	real	4							
13	放出量検出下限以上	放出量検出下限以上 [Bq]	real	4							
14	放出量検出下限未満 DL未満	放出量検出下限未満が検出下限未満の場合、真値。	bit	1		1 (True)					
15	放出量検出下限未満	放出量検出下限未満 [Bq]	real	4							
16	検出下限濃度	検出下限濃度 [Bq/cm ³]	real	4							

◆外部キーテーブル◆ ①tbl施設名マスタ ②tbl排気口名マスタ ③tbl核種マスタ

◆トリガ◆ tbl放出ガス_更新トリガ/tbl放出ガス_挿入トリガ

tbl 排気率

No	列名	内容	データ型	サイズ	NOT NULL	規定値	IDENT	PK	FK	UK	IX
1	RecNo	レコード番号。	int	4	○		(1, 1)	○		-	
2	報告年月	放射線管理月報の報告年月。月の開始日(1日)で格納。	datetime	8							①
3	排気口コード	放射線管理施設の排気口を識別するコード。	int	4					①		②
4	特殊設定	排気率を特殊な設定で与える場合、真値。	bit	1		0 (False)					
5	排気率	排気率 [cm ³ /h]。	real	4							
6	塵埃用	(特殊設定フラグ) 塵埃用排気率の場合、真値。	bit	1		0 (False)					
7	ガス用	(特殊設定フラグ) ガス用排気率の場合、真値。	bit	1		0 (False)					
8	核種別	(特殊設定フラグ) 次の核種用排気率の場合、真値。	bit	1		0 (False)					
9	核種コード	(核種別=1の際に使用) 核種を識別するコード。	int	4							③

◆外部キーテーブル◆ ①tbl 排気口名マスタ

◆トリガ◆ tbl 排気率_更新トリガ/tbl 排気率_挿入トリガ

tbl 一般排水

No	列名	内容	データ型	サイズ	NOT NULL	規定値	IDENT	PK	FK	UK	IX
1	RecNo	レコード番号。	int	4	○		(1, 1)	○		-	
2	報告年月	放射線管理月報の報告年月。月の開始日(1日)で格納。	datetime	8							①
3	係コード	放射線管理担当係を識別するコード。	int	4							②
4	施設コード	放射線管理施設を識別するコード。	int	4					①		③
5	核種コード	核種を識別するコード。	int	4					②		④
6	月平均濃度 DL 未満	月平均濃度が検出下限未満の場合、真値。	bit	1		1 (True)					
7	月平均濃度	月平均濃度 [Bq/cm ³]。	real	4							
8	廃液量	廃液量 [m ³]。	real	4							
9	放出量検出下限以上	放出量検出下限以上 [Bq]。	real	4							
10	放出量検出下限未満 DL 未満	放出量検出下限未満が検出下限未満の場合、真値。	bit	1		1 (True)					
11	放出量検出下限未満	放出量検出下限未満 [Bq]。	real	4							
12	検出下限濃度	検出下限濃度 [Bq/cm ³]。	real	4							

◆外部キーテーブル◆ ①tbl 施設名マスタ ②tbl 核種マスタ

◆トリガ◆ tbl 一般排水_更新トリガ/tbl 一般排水_挿入トリガ

tbl 一般排水備考

No	列名	内容	データ型	サイズ	NOT NULL	規定値	IDENT	PK	FK	UK	IX
1	RecNo	レコード番号。	int	4	○		(1, 1)	○		-	
2	報告年月	放射線管理月報の報告年月。月の開始日(1日)で格納。	datetime	8							①
3	係コード	放射線管理担当係を識別するコード。	int	4							②
4	施設コード	放射線管理施設を識別するコード。	int	4					①		③
5	一般排水なし	当月においてこの施設の一般排水が無かった場合、真値。	bit	1		0 (False)					
6	備考	備考欄。	ntext	16							
7	月濃度限度比	月濃度限度比。	real	4							

◆外部キーテーブル◆ ①tbl施設名マスタ

◆トリガ◆ tbl一般排水備考_更新トリガ/tbl一般排水備考_挿入トリガ

tbl 放出塵埃 Sr 分析

No	列名	内容	データ型	サイズ	NOT NULL	規定値	IDENT	PK	FK	UK	IX
1	RecNo	レコード番号。	int	4	○		(1, 1)	○		-	
2	報告年度	報告年度(西暦)。	smallint	2							
3	報告四半期	報告四半期。	smallint	2							
4	施設コード	放射線管理施設を識別するコード。	int	4					①		①
5	排気口コード	放射線管理施設の排気口を識別するコード。	int	4					②		②
6	核種コード	核種を識別するコード。 ⁸⁹ Sr か ⁹⁰ Srを指す。	int	4					③		③
7	濃度最大値 DL未満	濃度最大値が検出下限未満の場合、真値。	bit	1		1 (True)					
8	濃度最大値	濃度最大値 [Bq/cm ³]。	real	4							
9	月平均濃度 DL未満	月平均濃度が検出下限未満の場合、真値。	bit	1		1 (True)					
10	月平均濃度	月平均濃度 [Bq/cm ³]。	real	4							
11	放出量最大値	放出量最大値 [Bq]。	real	4							
12	放出量検出下限以上	放出量検出下限以上 [Bq]。	real	4							
13	放出量検出下限未満 DL未満	放出量検出下限未満が検出下限未満の場合、真値。	bit	1		1 (True)					
14	放出量検出下限未満	放出量検出下限未満 [Bq]。	real	4							
15	検出下限濃度	検出下限濃度 [Bq/cm ³]。	real	4							

◆外部キーテーブル◆ ①tbl施設名マスタ ②tbl排気口名マスタ ③tbl核種マスタ

◆トリガ◆ tbl放出塵埃 Sr 分析_更新トリガ/tbl放出塵埃 Sr 分析_挿入トリガ

tbl 放出廃液 Sr 分析

No	列名	内容	データ型	サイズ	NOT NULL	規定値	IDENT	PK	FK	UK	IX
1	RecNo	レコード番号。	int	4	○		(1, 1)	○		-	
2	報告年度	報告年度(西暦)。	smallint	2							
3	報告四半期	報告四半期。	smallint	2							
4	施設コード	放射線管理施設を識別するコード。	int	4					①		①
5	排水溝	この施設が属する排水溝。	smallint	2							
6	一般排水なし	この施設の一般排水が無かった場合、真値。	bit	1		0 (False)					
7	核種コード	核種を識別するコード。 ⁹⁰ Sr から ⁹⁰ Sr を指す。	int	4					②		②
8	月平均濃度 DL 未満	月平均濃度が検出下限未満の場合、真値。	bit	1		0 (False)					
9	月平均濃度	月平均濃度。【Bq/cm ³ 】	real	4							
10	廃液量	廃液量。【m ³ 】	real	4							
11	放出量検出下限以上	放出量検出下限以上。【Bq】	real	4							
12	放出量検出下限未満 DL 未満	放出量検出下限未満が検出下限未満の場合、真値。	bit	1		0 (False)					
13	放出量検出下限未満	放出量検出下限未満。【Bq】	real	4							
14	検出下限濃度	検出下限濃度。【Bq/cm ³ 】	real	4							

◆外部キーテーブル◆ ①tbl 施設名マスタ ②tbl 核種マスタ

◆トリガ◆ tbl 放出廃液 Sr 分析_更新トリガ / tbl 放出廃液 Sr 分析_挿入トリガ

2.4 一般排水データ関連
tbl 一般排水データシート

No	列名	内容	データ型	サイズ	NOT NULL	規定値	IDENT	PK	FK	UK	IX
1	RecNo	レコード番号。	int	4	○		(1, 1)	○		-	
2	報告年月	一般排水データシートの報告年月。月の開始日(1 日)。	datetime	8							①
3	係コード	報告四半期。	int	4							②
4	施設コード	放射線管理施設を識別するコード。	int	4					①		③
5	排水溝	この施設が属する排水溝。	smallint	2							④
6	一般排水なし	この施設の一般排水が無かった場合、真値。	bit	1		0 (False)					
7	排水日	排水の行われた年月日。	datetime	8							
8	排水開始時間	排水を開始した時刻。(時:分)	datetime	8							
9	排水終了時間	排水を終了した時刻。(時:分)	datetime	8							

10	核種コード	核種を識別するコード。放出された核種を指す。	int	4						⑤
11	放射能濃度	この報告核種の濃度。【Bq/cm ³ 】	real	4						
12	廃液量	この排水回の廃液量。【m ³ 】 同一廃液区分が1のレコードに与える。	real	4						
13	同一廃液区分	同じ排水回での報告を区分する番号。 1から順番に数字を割り当てる。	smallint	2						
14	検出下限区分	報告核種の検出状態。 =1: 検出下限以上、=2: 検出下限未満	smallint	2						

◆外部キーテーブル◆ ①tbl施設名マスタ

◆トリガ◆ tbl一般排水データシート_更新トリガ/tbl一般排水データシート_挿入トリガ

tbl 排水溝排水量

No	列名	内容	データ型	サイズ	NOT NULL	規定値	IDENT	PK	FK	UK	IX
1	RecNo	レコード番号。	int	4	○		(1, 1)	○		-	
2	報告年月	排水溝流量の報告年月。月の開始日(1日)。	datetime	8							
3	第1排水量	当月の第1排水溝の排水量。【m ³ 】	real	4							
4	第2排水量	当月の第2排水溝の排水量。【m ³ 】	real	4							
5	第3排水量	当月の第3排水溝の排水量。【m ³ 】	real	4							

tbl 日別排水流量

No	列名	内容	データ型	サイズ	NOT NULL	規定値	IDENT	PK	FK	UK	IX
1	測定年月日	排水溝流量測定日。	datetime	8	○			○		-	
2	第1排水溝流量	当日の第1排水溝の流量。【m ³ 】	real	4							
3	第2排水溝流量	当日の第2排水溝の流量。【m ³ 】	real	4							
4	第3排水溝流量	当日の第3排水溝の流量。【m ³ 】	real	4							

2.5 放射線管理季報関連

tbl 季報_放出塵埃

No	列名	内容	データ型	サイズ	NOT NULL	規定値	IDENT	PK	FK	UK	IX
1	報告年度	報告年度(西暦)。	smallint	2	○			○		-	①

2	報告四半期	報告四半期。	smallint	2	○			○		①	①
3	施設コード	報告する施設を識別するコード。	int	4	○					①	②
4	排気口コード	報告する排気口を識別するコード。	int	4	○			○		②	③
5	核種コード	報告する核種を識別するコード。	int	4	○			○		③	④
6	採取期間	核種の採取期間。(='D':1日/'W':1週間/'M':1ヵ月)	nvarchar	1							
7	最大濃度 1DL 未満	[最大濃度 1] が検出下限未満の場合、真値。	bit	1			1 (True)				
8	最大濃度 1	四半期内第 1 月の最大濃度。[Bq/cm ³]	real	4							
9	最大濃度 2DL 未満	[最大濃度 2] が検出下限未満の場合、真値。	bit	1			1 (True)				
10	最大濃度 2	四半期内第 2 月の最大濃度。[Bq/cm ³]	real	4							
11	最大濃度 3DL 未満	[最大濃度 3] が検出下限未満の場合、真値。	bit	1			1 (True)				
12	最大濃度 3	四半期内第 3 月の最大濃度。[Bq/cm ³]	real	4							
13	四半期最大濃度 DL 未満	[四半期最大濃度] が検出下限未満の場合、真値。	bit	1			1 (True)				
14	四半期最大濃度	四半期の最大濃度。[Bq/cm ³]	real	4							
15	年間最大濃度 DL 未満	[年間最大濃度] が検出下限未満の場合、真値。	bit	1			1 (True)				
16	年間最大濃度	年間の最大濃度。[Bq/cm ³]	real	4							
17	平均濃度 1DL 未満	[平均濃度 1] が検出下限未満の場合、真値。	bit	1			1 (True)				
18	平均濃度 1	四半期内第 1 月の平均濃度。[Bq/cm ³]	real	4							
19	平均濃度 2DL 未満	[平均濃度 2] が検出下限未満の場合、真値。	bit	1			1 (True)				
20	平均濃度 2	四半期内第 2 月の平均濃度。[Bq/cm ³]	real	4							
21	平均濃度 3DL 未満	[平均濃度 3] が検出下限未満の場合、真値。	bit	1			1 (True)				
22	平均濃度 3	四半期内第 3 月の平均濃度。[Bq/cm ³]	real	4							
23	四半期平均濃度 DL 未満	[四半期平均濃度] が検出下限未満の場合、真値。	bit	1			1 (True)				
24	四半期平均濃度	四半期の平均濃度。[Bq/cm ³]	real	4							
25	年間平均濃度 DL 未満	[年間平均濃度] が検出下限未満の場合、真値。	bit	1			1 (True)				
26	年間平均濃度	年間の平均濃度。[Bq/cm ³]	real	4							
27	放出量 1	四半期内第 1 月の放出量。[Bq]	real	4							
28	放出量 2	四半期内第 2 月の放出量。[Bq]	real	4							
29	放出量 3	四半期内第 3 月の放出量。[Bq]	real	4							
30	四半期放出量	四半期の放出量。[Bq]	real	4							
31	年間放出量	年間の放出量。[Bq]	real	4							
32	レポート表示順	同一排気口内での核種データを報告する順番。	smallint	2							

[illegible]

◆外部キーテーブル◆ ①tbl施設名マスタ ②tbl排気口名マスタ ③tbl核種マスタ

◆トリガ◆tbl季報_放出塵埃_更新トリガ/tbl季報_放出塵埃_挿入トリガ

※補足：年間データに関する項目は、報告四半期が第4四半期の場合に有意である。

tbl 季報 放出ガス

No	列名	内容	データ型	サイズ	NOT NULL	規定値	IDENT	PK	FK	UK	IX
1	報告年度	報告年度(西暦)。	smallint	2	○			○		-	①
2	報告四半期	報告四半期。	smallint	2	○			○		-	①
3	施設コード	報告する施設を識別するコード。	int	4	○				①		②
4	排気口コード	報告する排気口を識別するコード。	int	4	○			○	②	-	③
5	核種コード	報告する核種を識別するコード。	int	4	○			○	③	-	④
6	採取期間	核種の採取期間。(=D:1日/W:1週間/M:1ヵ月)	nvarchar	1							
7	最大濃度 1DL 未満	【最大濃度 1】が検出下限未満の場合、真値。	bit	1		1 (True)					
8	最大濃度 1	四半期内第 1 月の最大濃度。【Bq/cm³】	real	4							
9	最大濃度 2DL 未満	【最大濃度 2】が検出下限未満の場合、真値。	bit	1		1 (True)					
10	最大濃度 2	四半期内第 2 月の最大濃度。【Bq/cm³】	real	4							
11	最大濃度 3DL 未満	【最大濃度 3】が検出下限未満の場合、真値。	bit	1		1 (True)					
12	最大濃度 3	四半期内第 3 月の最大濃度。【Bq/cm³】	real	4							
13	四半期最大濃度 DL 未満	【四半期最大濃度】が検出下限未満の場合、真値。	bit	1		1 (True)					
14	四半期最大濃度	四半期の最大濃度。【Bq/cm³】	real	4							
15	年間最大濃度 DL 未満	【年間最大濃度】が検出下限未満の場合、真値。	bit	1		1 (True)					
16	年間最大濃度	年間の最大濃度。【Bq/cm³】	real	4							
17	平均濃度 1DL 未満	【平均濃度 1】が検出下限未満の場合、真値。	bit	1		1 (True)					
18	平均濃度 1	四半期内第 1 月の平均濃度。【Bq/cm³】	real	4							
19	平均濃度 2DL 未満	【平均濃度 2】が検出下限未満の場合、真値。	bit	1		1 (True)					
20	平均濃度 2	四半期内第 2 月の平均濃度。【Bq/cm³】	real	4							
21	平均濃度 3DL 未満	【平均濃度 3】が検出下限未満の場合、真値。	bit	1		1 (True)					
22	平均濃度 3	四半期内第 3 月の平均濃度。【Bq/cm³】	real	4							

23	四半期平均濃度 DL 未満	[四半期平均濃度] が検出下限未満の場合、真値。	bit	1		1 (True)				
24	四半期平均濃度	四半期の平均濃度。[Bq/cm³]	real	4						
25	年間平均濃度 DL 未満	[年間平均濃度] が検出下限未満の場合、真値。	bit	1		1 (True)				
26	年間平均濃度	年間の平均濃度。[Bq/cm³]	real	4						
27	放出量 1	四半期第 1 月の放出量。[Bq]	real	4						
28	放出量 2	四半期第 2 月の放出量。[Bq]	real	4						
29	放出量 3	四半期第 3 月の放出量。[Bq]	real	4						
30	四半期放出量	四半期の放出量。[Bq]	real	4						
31	年間放出量	年間の放出量。[Bq]	real	4						
32	値手動補正	値の手動補正があった場合のチェックディジット。 Access(クライアント側)が作成および処理する文字列。	nvarchar	50						

◆外部キーテーブル◆ ①tbl 施設名マスタ ②tbl 排気口名マスタ ③tbl 核種マスタ

◆トリガ◆ tbl 季報_放出ガス_更新トリガ/tbl 季報_放出ガス_挿入トリガ

※補足：年間データに関する項目は、報告四半期が第 4 四半期の場合に有意である。

tbl 季報_施設毎廃液量

No	列名	内容	データ型	サイズ	NOT NULL	規定値	IDENT	PK	FK	UK	IX
1	報告年度	報告年度(西暦)。	smallint	2	○			○			
2	報告四半期	報告四半期。	smallint	2	○			○			
3	施設コード	報告する施設を識別するコード。	int	4	○			○	①		①
4	排水溝	この施設が属する排水溝。	smallint	2							
5	一般排水なし	この施設の一般排水が無かった場合、真値。	bit	1		1 (True)					
6	廃液量 1	四半期第 1 月の廃液量。[m³]	real	4							
7	廃液量 2	四半期第 2 月の廃液量。[m³]	real	4							
8	廃液量 3	四半期第 3 月の廃液量。[m³]	real	4							
9	四半期廃液量	四半期の廃液量。[m³]	real	4							
10	年間廃液量	年間の廃液量。[m³]	real	4							
11	値手動補正	値の手動補正があった場合のチェックディジット。 Access(クライアント側)が作成および処理する文字列。	nvarchar	50							

◆外部キーテーブル◆ ①tbl 施設名マスタ

◆トリガ◆ tbl 季報_施設毎廃液量_更新トリガ/tbl 季報_施設毎廃液量_挿入トリガ

※補足：年間データに関する項目は、報告四半期が第 4 四半期の場合に有意である。

tbl 季報_施設毎廃液記録

No	列名	内容	データ型	サイズ	NOT NULL	規定値	IDENT	PK	FK	UK	IX
1	報告年度	報告年度(西暦)。	smallint	2	○			○		-	
2	報告四半期	報告四半期。	smallint	2	○			○		-	
3	施設コード	報告する施設を識別するコード。	int	4	○			○	①	-	①
4	排水溝	この施設が属する排水溝。	smallint	2							
5	核種コード	報告する核種を識別するコード。	int	4	○			○	②	-	②
6	検出状態	核種の検出状態。=1:検出分 =0:不検出分	tinyint	1	○	0		○		-	
7	平均濃度 1	四半期内第 1 月の平均濃度。[Bq/cm ³]	real	4							
8	平均濃度 2	四半期内第 2 月の平均濃度。[Bq/cm ³]	real	4							
9	平均濃度 3	四半期内第 3 月の平均濃度。[Bq/cm ³]	real	4							
10	四半期平均濃度	四半期の平均濃度。[Bq/cm ³]	real	4							
11	年間平均濃度	年間の平均濃度。[Bq/cm ³]	real	4							
12	放出量 1	四半期内第 1 月の放出量。[Bq]	real	4							
13	放出量 2	四半期内第 2 月の放出量。[Bq]	real	4							
14	放出量 3	四半期内第 3 月の放出量。[Bq]	real	4							
15	四半期放出量	四半期の放出量。[Bq]	real	4							
16	年間放出量	年間の放出量。[Bq]	real	4							
17	値手動補正	値の手動補正があった場合のチェックディジット。 Access(クライアント側)が作成および処理する文字列。	nvarchar	50							

◆外部キーテーブル◆ ①tbl 施設名マスタ ②tbl 核種コード

◆トリガ◆ tbl 季報_施設毎廃液記録_更新トリガ / tbl 季報_施設毎廃液記録_挿入トリガ

※補足: 年間データに関する項目は、報告四半期が第 4 四半期の場合に有意である。

tbl 季報_排水溝毎廃液量

No	列名	内容	データ型	サイズ	NOT NULL	規定値	IDENT	PK	FK	UK	IX
1	報告年度	報告年度(西暦)。	smallint	2	○			○		-	-
2	報告四半期	報告四半期。	smallint	2	○			○		-	-
3	排水溝	報告排水溝。	smallint	2	○			○		-	-
4	廃液量 1	四半期内第 1 月の廃液量。[m ³]	real	4							

5	廃液量 2	四半期内第 2 月の廃液量。[m ³]	real	4					
6	廃液量 3	四半期内第 3 月の廃液量。[m ³]	real	4					
7	四半期廃液量	四半期の廃液量。[m ³]	real	4					
8	年間廃液量	年間の廃液量。[m ³]	real	4					
9	値手動補正	値の手動補正があった場合のチェックディジット。 Access(クライアント側)が作成および処理する文字列。	nvarchar	50					

※補足：年間データに関する項目は、報告四半期が第 4 四半期の場合に有意である。

tbl 季報_排水溝毎廃液記録

No	列名	内容	データ型	サイズ	NOT NULL	規定値	IDENT	PK	FK	UK	IX
1	報告年度	報告年度(西暦)。	smallint	2	○			○		-	
2	報告四半期	報告四半期。	smallint	2	○			○		-	
4	排水溝	報告排水溝。	smallint	2	○			○		-	
5	核種コード	報告する核種を識別するコード。	int	4	○			○	①	-	①
6	検出状態	核種の検出状態。=1:検出分 =0:不検出分	tinyint	1	○	0		○		-	
7	一日平均最大 1	四半期内第 1 月の一日平均濃度の最大値。[Bq/cm ³]	real	4							
8	一日平均最大 2	四半期内第 2 月の一日平均濃度の最大値。[Bq/cm ³]	real	4							
9	一日平均最大 3	四半期内第 3 月の一日平均濃度の最大値。[Bq/cm ³]	real	4							
10	四半期一日平均最大	四半期の一日平均濃度の最大値。[Bq/cm ³]	real	4							
11	年間一日平均最大	年間の一日平均濃度の最大値。[Bq/cm ³]	real	4							
12	平均濃度 1	四半期内第 1 月の平均濃度。[Bq/cm ³]	real	4							
13	平均濃度 2	四半期内第 2 月の平均濃度。[Bq/cm ³]	real	4							
14	平均濃度 3	四半期内第 3 月の平均濃度。[Bq/cm ³]	real	4							
15	四半期平均濃度	四半期の平均濃度。[Bq/cm ³]	real	4							
16	年間平均濃度	年間の平均濃度。[Bq/cm ³]	real	4							
17	放出量 1	四半期内第 1 月の放出量。[Bq]	real	4							
18	放出量 2	四半期内第 2 月の放出量。[Bq]	real	4							
19	放出量 3	四半期内第 3 月の放出量。[Bq]	real	4							
20	四半期放出量	四半期の放出量。[Bq]	real	4							
21	年間放出量	年間の放出量。[Bq]	real	4							
22	値手動補正	値の手動補正があった場合のチェックディジット。	nvarchar	50							

[illegible]

◆外部キーテーブル◆ ①tbl核種コード

◆トリガ ◆tbl 季報 排水溝毎腐液記録 更新トリガ/tbl 季報 排水溝毎腐液記録 挿入トリガ

※補足 1: 「一日平均最大」値に関する項目は、核種が³H, ¹⁴C, ¹⁴C 以外の核種"の場合に有意である。

※補足2：年間データに関する項目は、報告四半期が第4四半期の場合に有意である。

tbl季報_一日平均濃度

No	列名	内容	データ型	サイズ	NOT NULL	規定値	IDENT	PK	FK	UK	IX
1	排水溝	報告排水溝。	smallint	2	○			○		-	
2	核種コード	報告する核種を識別するコード。	int	4	○			○	①	-	①
3	検出状態	核種の検出状態。=1:検出分=0:不検出分	tinyint	1	○	0		○		-	
4	排水日	報告核種の放出があった排水日。	datetime	8	○			○		-	
5	一日平均濃度	この排水日の放出における平均濃度。[Bq/cm ³]	real	4							

◆外部キーテーブル◆ ①tbl核種コード

◆トリガ ◆tbl 季报_一日平均濃度_更新トリガ/tbl 季报_一日平均濃度_挿入トリガ

tbl季報 放出塵埃Sr 分析

No	列名	内容	データ型	サイズ	NOT NULL	規定値	IDENT	PK	FK	UK	IX
1	報告年度	報告年度(西暦)。	smallint	2	○			○		-	
2	報告四半期	報告四半期。	smallint	2	○			○		-	
3	施設コード	報告する施設を識別するコード。	int	4	○				①	-	①
4	排気口コード	報告する排気口を識別するコード。	int	4	○			○	②	-	①
5	平均濃度 89SrDL 未満	[平均濃度 89Sr] が検出下限未満の場合、真値。	bit	1		1 (True)					
6	平均濃度 89Sr	⁸⁹ Sr の平均濃度。[Bq/cm ³]	real	4							
7	平均濃度 90SrDL 未満	[平均濃度 90Sr] が検出下限未満の場合、真値。	bit	1		1 (True)					
8	平均濃度 90Sr	⁹⁰ Sr の平均濃度。[Bq/cm ³]	real	4							
9	放出量 89Sr	⁸⁹ Sr の放出量。[Bq]	real	4							
10	放出量 90Sr	⁹⁰ Sr の放出量。[Bq]	real	4							
11	年間平均濃度 89SrDL 未満	[年間平均濃度 89Sr] が検出下限未満の場合、真値。	bit	1		1 (True)					
12	年間平均濃度 89Sr	⁸⁹ Sr の年間の平均濃度。[Bq/cm ³]	real	4							
13	年間平均濃度 90SrDL 未満	[年間平均濃度 90Sr] が検出下限未満の場合、真値。	bit	1		1 (True)					

14	年間平均濃度 90Sr	90Sr の年間の平均濃度。【Bq/cm ³ 】	real	4									
15	年間放出量 89Sr	89Sr の年間の放出量。【Bq】	real	4									
16	年間放出量 90Sr	90Sr の年間の放出量。【Bq】	real	4									
17	値手動補正	値の手動補正があった場合のチェックディジット。 Access(クライアント側)が作成および処理する文字列。	nvarchar	50									

◆外部キーテーブル◆ ①tbl 施設名マスタ ②tbl 排気口名マスタ

◆トリガ◆ tbl 季報_放出塵埃 Sr 分析_更新トリガ / tbl 季報_放出塵埃 Sr 分析_挿入トリガ

※補足：年間データに関する項目は、報告四半期が第4四半期の場合に有意である。

tbl 季報_放出廃液 Sr 分析施設毎

No	列名	内容	データ型	サイズ	NOT NULL	規定値	IDENT	PK	FK	UK	IX
1	報告年度	報告年度(西暦)。	smallint	2	○			○		-	
2	報告四半期	報告四半期。	smallint	2	○			○		-	
3	施設コード	報告する施設を識別するコード。	int	4	○			○	①	-	①
4	排水溝	この施設が属する排水溝。	smallint	2							②
5	一般排水なし	この施設の一般排水が無かった場合、真値。	bit	1		0 (False)					
6	平均濃度 89SrDL 未満	[平均濃度 89Sr] が検出下限未満の場合、真値。	bit	1		1 (True)					
7	平均濃度 89Sr	89Sr の平均濃度。【Bq/cm ³ 】	real	4							
8	平均濃度 90SrDL 未満	[平均濃度 90Sr] が検出下限未満の場合、真値。	bit	1		1 (True)					
9	平均濃度 90Sr	90Sr の平均濃度。【Bq/cm ³ 】	real	4							
10	放出量 89Sr	89Sr の放出量。【Bq】	real	4							
11	放出量 90Sr	90Sr の放出量。【Bq】	real	4							
12	廃液量	四半期の廃液量。【m ³ 】	real	4							
13	年間平均濃度 89SrDL 未満	[年間平均濃度 89Sr] が検出下限未満の場合、真値。	bit	1		1 (True)					
14	年間平均濃度 89Sr	89Sr の年間の平均濃度。【Bq/cm ³ 】	real	4							
15	年間平均濃度 90SrDL 未満	[年間平均濃度 90Sr] が検出下限未満の場合、真値。	bit	1		1 (True)					
16	年間平均濃度 90Sr	90Sr の年間の平均濃度。【Bq/cm ³ 】	real	4							
17	年間放出量 89Sr	89Sr の年間の放出量。【Bq】	real	4							
18	年間放出量 90Sr	90Sr の年間の放出量。【Bq】	real	4							
19	年間廃液量	年間の廃液量。【m ³ 】	real	4							
20	値手動補正	値の手動補正があった場合のチェックディジット。	nvarchar	50							

2.6 茨城県原子力安全協定に基づく関係報告関連

tbl 原子炉排気口別主要核種

No	列名	内容	データ型	サイズ	NOT NULL	規定値	IDENT	PK	FK	UK	IX
1	ID	レコードID。	int	4	○		(1, 1)	○		-	
2	排気口コード	設定する原子炉排気口を識別するコード。	int	4					①		
3	核種コード	設定する主要核種を識別するコード。	int	4					②		
4	放射性核種種類	この核種の種類。"放射性希ガス"・"放射性ガス"・"放射性よう素"・"プルトニウム"のいずれかの文字列になる。	nvarchar	50							
5	記載順	報告書での記載順。	int	4							
6	報告除外	分析結果の集計から除外する場合、真値。	bit	1		0 (False)					
7	廃棄施設名	(県安全協定用) この排気口の廃棄施設名。	nvarchar	50							
8	処理方法	(県安全協定用) この核種の処理処分方法。	nvarchar	50							
9	平均濃度目標値	(県安全協定用) 平均濃度の放出管理目標値。【Bq/cm ³ 】	real	4							
10	平均濃度目標値以下	(県安全協定用) [平均濃度目標値]以下表記の場合、真値。	bit	1							
11	放出量目標値	(県安全協定用) 放出量の放出管理目標値。【Bq/cm ³ 】	real	4							
12	備考	(県安全協定用) 備考欄。	nvarchar	50							

◆外部キーテーブル◆ ①tbl 排気口名マスタ ②tbl 核種マスタ

◆トリガ◆ tbl 原子炉排気口主要核種_更新トリガ/tbl 原子炉排気口主要核種_挿入トリガ

※補足：(県安全協定用)とある項目は、茨城県安全協定「主な放射性廃棄物の処理処分状況 (1)気体」(Excel ファイル)用の設定データである。

tbl 排気中放射性核種分析結果

No	列名	内容	データ型	サイズ	NOT NULL	規定値	IDENT	PK	FK	UK	IX
1	報告年度	報告年度(西暦)。	smallint	2	○			○		-	
2	報告四半期	報告四半期。	smallint	2	○			○		-	
3	排気口コード	報告する原子炉排気口を識別するコード。	int	4	○			○	①	-	①
4	核種コード	報告する核種を識別するコード。	int	4	○			○	②	-	②
5	主要核種	報告核種がこの排気口の主要核種の場合、真値。	bit	1		0 (False)					
6	放射性核種種類	この核種の種類。"放射性希ガス"・"放射性ガス"・"放射性よう素"・"プルトニウム"のいずれかの文字列になる。	nvarchar	50							
7	最高濃度 1	四半期内第 1 月の最高濃度。【Bq/cm ³ 】	real	4							

8	最高濃度 2	四半期内第 2 月の最高濃度。[Bq/cm ³]	real	4					
9	最高濃度 3	四半期内第 3 月の最高濃度。[Bq/cm ³]	real	4					
10	平均濃度 1	四半期内第 1 月の平均濃度。[Bq/cm ³]	real	4					
11	平均濃度 2	四半期内第 2 月の平均濃度。[Bq/cm ³]	real	4					
12	平均濃度 3	四半期内第 3 月の平均濃度。[Bq/cm ³]	real	4					
13	四半期平均濃度	四半期の平均濃度。[Bq/cm ³]	real	4					
14	実測分放出量 1	四半期内第 1 月の実測(検出)分放出量。[GBq]	real	4					
15	実測分放出量 2	四半期内第 2 月の実測(検出)分放出量。[GBq]	real	4					
16	実測分放出量 3	四半期内第 3 月の実測(検出)分放出量。[GBq]	real	4					
17	四半期実測分放出量	四半期の実測(検出)分放出量。[GBq]	real	4					
18	不検出分放出量 1	四半期内第 1 月の不検出分放出量。[GBq]	real	4					
19	不検出分放出量 2	四半期内第 2 月の不検出分放出量。[GBq]	real	4					
20	不検出分放出量 3	四半期内第 3 月の不検出分放出量。[GBq]	real	4					
21	四半期不検出分放出量	四半期の不検出分放出量。[GBq]	real	4					
22	検出下限濃度最小値	この四半期、排気口、核種における検出下限濃度の最小値。	real	4					
23	検出下限濃度最大値	この四半期、排気口、核種における検出下限濃度の最大値。	real	4					
24	レポート記載順	報告時の記載順。	int	4					

◆外部キーテーブル◆ ①tbl 排気口名マスタ ②tbl 核種マスタ

◆トリガ◆ tbl 排気中放射性核種分析結果_更新トリガ / tbl 排気中放射性核種分析結果_挿入トリガ

tbl 排気中放射性核種濃度算出データ

No	列名	内容	データ型	サイズ	NOT NULL	規定値	IDENT	PK	FK	UK	IX
1	報告年度	報告年度(西暦)。	smallint	2	○			○		-	
2	報告四半期	報告四半期。	smallint	2	○			○		-	
3	排気口コード	報告する原子炉排気口を識別するコード。	int	4	○			○	①	-	①
4	核種コード	報告する核種を識別するコード。	int	4	○			○	②	-	②
5	一日最大放出量 1	四半期内第 1 月の一日最大放出量。[Bq]	real	4							
6	一日最大放出量 2	四半期内第 2 月の一日最大放出量。[Bq]	real	4							
7	一日最大放出量 3	四半期内第 3 月の一日最大放出量。[Bq]	real	4							
8	当該日不検出量 1	[一日最大放出量 1] を記録した日の不検出分放出量。[Bq]	real	4							
9	当該日不検出量 2	[一日最大放出量 2] を記録した日の不検出分放出量。[Bq]	real	4							

10	当該日不検出量 3	[-1日最大放出量 3] を記録した日の不検出分放出量。[Bq]	real	4					
11	当該日排風量 1	[-1日最大放出量 1] を記録した日の排風量。[cm ³]	real	4					
12	当該日排風量 2	[-1日最大放出量 2] を記録した日の排風量。[cm ³]	real	4					
13	当該日排風量 3	[-1日最大放出量 3] を記録した日の排風量。[cm ³]	real	4					
14	月総放出量 1	四半期内第 1 月の総放出量。[Bq]	real	4					
15	月総放出量 2	四半期内第 2 月の総放出量。[Bq]	real	4					
16	月総放出量 3	四半期内第 3 月の総放出量。[Bq]	real	4					
17	月不検出量 1	四半期内第 1 月の不検出分放出量。[Bq]	real	4					
18	月不検出量 2	四半期内第 2 月の不検出分放出量。[Bq]	real	4					
19	月不検出量 3	四半期内第 3 月の不検出分放出量。[Bq]	real	4					
20	月総排風量 1	四半期内第 1 月の排風量。[cm ³]	real	4					
21	月総排風量 2	四半期内第 2 月の排風量。[cm ³]	real	4					
22	月総排風量 3	四半期内第 3 月の排風量。[cm ³]	real	4					

◆外部キーテーブル◆ ①tbl 排気口名マスタ ②tbl 核種マスタ

◆トリガ◆ tbl 排気中放射性核種濃度算出データ_更新トリガ/tbl 排気中放射性核種濃度算出データ_挿入トリガ

tbl 排水溝別主要核種

No	列名	内容	データ型	サイズ	NOT NULL	規定値	IDENT	PK	FK	UK	IX
1	ID	レコード ID。	int	4	○		(1, 1)	○		-	
2	排水溝	設定する排水溝。	smallint	2							
3	核種コード	設定する主要核種を識別するコード。	int	4					①		

◆外部キーテーブル◆ ①tbl 核種マスタ

◆トリガ◆ tbl 排水溝別主要核種_更新トリガ/tbl 排水溝別主要核種_挿入トリガ

tbl 排水中放射性核種分析結果

No	列名	内容	データ型	サイズ	NOT NULL	規定値	IDENT	PK	FK	UK	IX
1	報告年度	報告年度(西暦)。	smallint	2	○			○		-	
2	報告四半期	報告四半期。	smallint	2	○			○		-	
3	排水溝	報告する排水溝。	smallint	2	○			○		-	①
4	核種コード	報告する核種を識別するコード。	int	4	○			○	①	-	②

5	主要核種	報告核種がこの排水溝の主要核種の場合、真値。	bit	1		0 (False)				
6	平均濃度 1	四半期内第 1 月の平均濃度。[Bq/cm ³]	real	4						
7	平均濃度 2	四半期内第 2 月の平均濃度。[Bq/cm ³]	real	4						
8	平均濃度 3	四半期内第 3 月の平均濃度。[Bq/cm ³]	real	4						
9	四半期平均濃度	四半期の平均濃度。[Bq/cm ³]	real	4						
10	検出放出量 1	四半期内第 1 月の検出放出量。[MBq]	real	4						
11	検出放出量 2	四半期内第 2 月の検出放出量。[MBq]	real	4						
12	検出放出量 3	四半期内第 3 月の検出放出量。[MBq]	real	4						
13	四半期検出放出量	四半期の検出放出量。[MBq]	real	4						
14	不検出放出量 1	四半期内第 1 月の不検出放出量。[MBq]	real	4						
15	不検出放出量 2	四半期内第 2 月の不検出放出量。[MBq]	real	4						
16	不検出放出量 3	四半期内第 3 月の不検出放出量。[MBq]	real	4						
17	四半期不検出放出量	四半期の不検出放出量。[MBq]	real	4						
18	検出下限濃度最小値	この四半期、排水溝、核種における検出下限濃度の最小値。	real	4						
19	検出下限濃度最大値	この四半期、排水溝、核種における検出下限濃度の最大値。	real	4						

◆外部キーテーブル◆ ①tbl 核種マスタ

◆トリガ◆ tbl 排水中放射性核種分析結果_更新トリガ / tbl 排水中放射性核種分析結果_挿入トリガ

tbl 県安全協定液体設定

No	列名	内容	データ型	サイズ	NOT NULL	規定値	IDENT	PK	FK	UK	IX
3	排水溝	報告する排水溝。	smallint	2	○			○		-	
4	核種コード	報告する核種を識別するコード。	int	4	○			○		-	
5	発生場所	発生場所。排水溝が属する代表的な施設名。	nvarchar	50							
8	処理方法	この核種の処理処分方法。	nvarchar	50							
9	平均濃度目標値	平均濃度の放出管理目標値。[Bq/cm ³]	real	4							
11	放出量目標値	放出量の放出管理目標値。[Bq/cm ³]	real	4							
5	記載順	報告書での記載順。	int	4							
6	報告除外	分析結果の集計から除外する場合、真値。	bit	1		0 (False)					

◆外部キーテーブル◆ ①tbl 核種マスタ

◆トリガ◆ tbl 排水中放射性核種分析結果_更新トリガ / tbl 排水中放射性核種分析結果_挿入トリガ

※補足：茨城県安全協定「主な放射性廃棄物の処理処分状況 (2)液体」(Excel ファイル)用の設定データである。

2.7 放射線管理等報告関連

tbl 放射線管理等報告気体主核種

No	列名	内容	データ型	サイズ	NOT NULL	規定値	IDENT	PK	FK	UK	IX
1	ID	レコードID。	int	4	○		(1, 1)	○		-	
2	排気口コード	報告排気筒を識別するコード。	int	4					①		①
3	気体種類	報告対象となる主な核種の種類。次の値で設定。 =1: ガス =2: 塵埃(β γ 核種) =3: 塵埃(α 核種)	int	4							
4	注記載	レポートに記載する"注1"などの文字列を設定できる。	nvarchar	50							
5	核種コード	報告対象の主な核種を識別するコード。	int	4							②

◆外部キーテーブル◆ ①tbl 排気口名マスタ

◆トリガ◆ tbl 放射線管理等報告気体主核種_更新トリガ / tbl 放射線管理等報告気体主核種_挿入トリガ

tbl 放射線管理等報告気体

No	列名	内容	データ型	サイズ	NOT NULL	規定値	IDENT	PK	FK	UK	IX
1	報告年度	報告年度(西暦)。	smallint	2	○			○		-	
2	報告四半期	報告四半期。	smallint	2	○			○		-	
3	排気口コード	報告排気筒を識別するコード。	int	4	○			○	①	-	①
4	気体種類	報告対象となる主な核種の種類。次の値で設定。 =1: ガス =2: 塵埃(β γ 核種) =3: 塵埃(α 核種)	int	4							
5	注記載	レポートに記載する"注1"などの文字列を設定できる。	nvarchar	50							
6	核種コード	報告対象の主な核種を識別するコード。	int	4	○			○	②	-	②
7	濃度限度値	この核種の気体濃度限度値。【Bq/cm ³ 】	real	4							
8	平均濃度 DL 未満	【平均濃度】が検出下限未満の場合、真値。	bit	1		1					
9	平均濃度	四半期の平均濃度。【Bq/cm ³ 】	real	4							
10	最大濃度 DL 未満	【最大濃度】が検出下限未満の場合、真値。	bit	1		1					
11	最大濃度	四半期の最大濃度。【Bq/cm ³ 】	real	4							
12	限度比	最大濃度と濃度限度値の比率。(最大濃度÷濃度限度値)	real	4							
13	採用	報告書へ記載するデータの都合、真値。 報告対象核種の気体種類が重複しているレコードにおいては、限度比が最も大きいものを採用する。	bit	1		0					

- ◆外部キーテーブル◆ ①tbl 排気口名マスタ ②tbl 核種マスタ
 ◆トリガ◆ tbl 放射線管理等報告気体_更新トリガ/tbl 放射線管理等報告気体_挿入トリガ

tbl 放射線管理等報告排水溝主核種

No	列名	内容	データ型	サイズ	NOT NULL	規定値	IDENT	PK	FK	UK	IX
1	ID	レコードID。	int	4	○		(1, 1)	○		-	
2	排水溝	報告対象の主な核種を設定する排水溝。	smallint	2							
3	核種コード	報告対象の主な核種を識別するコード。	int	4					①		

- ◆外部キーテーブル◆ ①tbl 核種マスタ
 ◆トリガ◆ tbl 放射線管理等報告排水溝主核種_更新トリガ/tbl 放射線管理等報告排水溝主核種_挿入トリガ

tbl 放射線管理等報告排水溝

No	列名	内容	データ型	サイズ	NOT NULL	規定値	IDENT	PK	FK	UK	IX
1	報告年度	報告年度(西暦)。	smallint	2	○			○		-	
2	報告四半期	報告四半期。	smallint	2	○			○		-	
3	排水溝	報告排水溝。	smallint	2	○			○		-	
4	核種コード	報告対象の主な核種を識別するコード。	int	4	○			○	①	-	①
5	濃度限度値	この核種の液体濃度限度値。[Bq/cm ³]	real	4							
6	最大検出下限濃度	この四半期排水溝核種における検出下限濃度の最大値。	real	4							
7	平均濃度 DL未満	有意な放出がなかった場合、真値。	bit	1		0 (False)					
8	平均濃度	四半期の平均濃度。[Bq/cm ³]	real	4							
9	最大濃度 DL未満	有意な放出がなかった場合、真値。	bit	1		0 (False)					
10	最大濃度	四半期の最大濃度。[Bq/cm ³]	real	4							
11	限度比	最大濃度と濃度限度値の比率。(最大濃度÷濃度限度値)	real	4							

- ◆外部キーテーブル◆ ①tbl 核種マスタ
 ◆トリガ◆ tbl 放射線管理等報告排水溝_更新トリガ/tbl 放射線管理等報告排水溝_挿入トリガ
 ※補足:「最大濃度」データ項目は、排水溝毎の廃液記録(季報)の「一日平均最大」データをもとにしている。

2.8 放射性廃棄物等管理報告関連

tbl 放射性廃棄物等管理報告排気口設定

No	列名	内容	データ型	サイズ	NOT NULL	規定値	IDENT	PK	FK	UK	IX
1	排気口コード	報告排気口を識別するコード。	int	4	○			○	○	-	
2	稼動中	報告排気口が稼動中の場合、真値。	bit	1		1 (True)					
3	核種コード	全粒子状物質の主要核種を設定し識別するコード。	int	4							
4	注記載	レポートに記載する"注 1"などの文字列を設定できる。	nvarchar	10							
5	記載順	報告書への記載順。	int	4							

◆外部キーテーブル◆ ①tbl 排気口名マスタ

◆トリガ ◆ tbl 放射性廃棄物等管理報告排気口設定_更新トリガ / tbl 放射性廃棄物等管理報告排気口設定_挿入トリガ

tbl 放射性気体廃棄物放出量

No	列名	内容	データ型	サイズ	NOT NULL	規定値	IDENT	PK	FK	UK	IX
1	報告年度	報告年度(西暦)。	smallint	2	○			○		-	
2	報告四半期	報告四半期。	smallint	2	○			○		-	
3	排気口コード	報告する排気口を識別するコード。	int	4	○			○	○	-	○
4	施設コード	報告する施設を識別するコード。	int	4							
5	排気口数	この施設が報告する排気口の数。	int	4		1					
6	放射性廃棄物処理場	この施設が放射性廃棄物処理場の場合、真値。	bit	1		0 (False)					
7	稼動中	この排気口が稼動中の場合、真値。	bit	1		1 (True)					
8	全希ガス DL未満	全希ガスの有意な放出がなかった場合、真値。	bit	1		0 (False)					
9	全希ガス	全希ガスの値。(※)	real	4							
10	Ar41DL未満	41Ar の有意な放出がなかった場合、真値。	bit	1		0 (False)					
11	Ar41	41Ar の値。(※)	real	4							
12	I131DL未満	131I の有意な放出がなかった場合、真値。	bit	1		0 (False)					
13	I131	131I の値。(※)	real	4							
14	全粒子状物質 DL未満	全粒子状物質の有意な放出がなかった場合、真値。	bit	1		0 (False)					
15	全粒子状物質	全粒子状物質の値。(※)	real	4							
16	H3DL未満	3H の有意な放出がなかった場合、真値。	bit	1		0 (False)					
17	H3	3H の値。(※)	real	4							

18	その他	その他検出された核種の放出量合計。【Bq】	real	4					
19	備考	備考欄("注"やその他核種の核種名などを文字列で格納)。	nvarchar	50					
20	その他核種コードリスト	その他検出された核種の核種コードを、カンマ区切りで連結した文字列で保持する。	nvarchar	50					
21	注文字列	レポートに記載する"注1"などの文字列。	nvarchar	10					
22	レポート記載順	報告書への記載順。	int	4					

◆外部キーテーブル◆ ①tbl排気口名マスタ

◆トリガ ◆ tbl放射性気体廃棄物放出量_更新トリガ/tbl放射性気体廃棄物放出量_挿入トリガ

※補足：それぞれの値欄へは、有意な放出があった場合はその放出量【Bq】、なかった場合は検出下限濃度の最大値【Bq/cm³】が格納される。

tbl 放射性廃棄物等管理報告排水施設設定

No	列名	内容	データ型	サイズ	NOT NULL	規定値	IDENT	PK	FK	UK	IX
1	施設コード	報告排水施設を識別するコード。	int	4	○			○	①	-	
2	稼動中	報告排気口が稼動中の場合、真値。	bit	1		1 (True)					
3	注記載	レポートに記載する"注1"などの文字列を設定できる。	nvarchar	10							
4	記載順	報告書への記載順	int	4							

◆外部キーテーブル◆ ①tbl施設名マスタ

◆トリガ ◆ tbl放射性廃棄物等管理報告排水施設設定_更新トリガ/tbl放射性廃棄物等管理報告排水施設設定_挿入トリガ

tbl 放射性液体廃棄物放出量

No	列名	内容	データ型	サイズ	NOT NULL	規定値	IDENT	PK	FK	UK	IX
1	報告年度	報告年度(西暦)。	smallint	2	○			○			
2	報告四半期	報告四半期。	smallint	2	○			○			
3	施設コード	報告排水施設を識別するコード。	int	4	○			○	①		①
4	放射性廃棄物処理場	この排水施設が放射性廃棄物処理場の場合、真値。	bit	1		0 (False)					
5	稼動中	この排水施設が稼動中の場合、真値。	bit	1		1 (True)					
6	H3以外全核種DL未満	H3以外全核種に有意な放出がなかった場合、真値。	bit	1		0 (False)					
7	H3以外全核種	H3以外全核種の集計値。(※)	real	4							
8	Cr51DL未満	⁵¹ Crの有意な放出がなかった場合、真値。	bit	1		0 (False)					
9	Cr51	⁵¹ Crの値。(※)	real	4							
10	Mn54DL未満	⁵⁴ Mnの有意な放出がなかった場合、真値。	bit	1		0 (False)					

11	Mn54	^{54}Mn の値。(※)	real	4						
12	Fe59DL 未満	^{59}Fe の有意な放出がなかった場合、真値。	bit	1	0 (False)					
13	Fe59	^{59}Fe の値。(※)	real	4						
14	Co58DL 未満	^{58}Co の有意な放出がなかった場合、真値。	bit	1	0 (False)					
15	Co58	^{58}Co の値。(※)	real	4						
16	Co60DL 未満	^{60}Co の有意な放出がなかった場合、真値。	bit	1	0 (False)					
17	Co60	^{60}Co の値。(※)	real	4						
18	I131DL 未満	^{131}I の有意な放出がなかった場合、真値。	bit	1	0 (False)					
19	I131	^{131}I の値。(※)	real	4						
20	Cs134DL 未満	^{134}Cs の有意な放出がなかった場合、真値。	bit	1	0 (False)					
21	Cs134	^{134}Cs の値。(※)	real	4						
22	Cs137DL 未満	^{137}Cs の有意な放出がなかった場合、真値。	bit	1	0 (False)					
23	Cs137	^{137}Cs の値。(※)	real	4						
24	その他	その他有意な放出があった核種分の合計放出量。[Bq]	real	4						
25	H3DL 未満	^3H の有意な放出がなかった場合、真値。	bit	1	0 (False)					
26	H3	^3H の値。(※)	real	4						
27	備考	備考欄("注"やその他核種の核種名などを文字列で格納)。	nvarchar	50						
28	その他核種コードリスト	その他検出された核種の核種コードを、カンマ区切りで連結した文字列で保持する。	nvarchar	50						
29	注文字列	レポートに記載する"注 1"などの文字列。	nvarchar	10						
30	レポート記載順	報告書への記載順。	int	4						

◆外部キーテーブル◆ ①tbl施設名マスタ

◆トリガ◆ tbl放射線性液体廃棄物放出量_更新トリガ/btl放射線性液体廃棄物放出量_挿入トリガ

※補足：それぞれの値欄へは、有意な放出があった場合はその放出量 [Bq]、なかった場合は検出下限濃度の最大値 [Bq/cm³] が格納される。

tbl 核燃料使用施設設定

No	列名	内容	データ型	サイズ	NOT NULL	規定値	IDENT	PK	FK	UK	IX
1	排気口コード	報告排気口を識別するコード。	int	4	○			○	①	—	
2	稼動中	報告排気口が稼動中の場合、真値。	bit	1		1 (True)					
3	核種コード	全粒子状物質の主要核種を設定し識別するコード。	int	4							
4	注記載	レポートに記載する"注 1"などの文字列を設定できる。	nvarchar	10							

[illegible]

◆外部キーテーブル◆ ①tbl排気口名マスタ

◆トリガ◆tb1核燃料使用施設放出量更新トリガ/tb1核燃料使用施設放出量挿入トリガ

※補足：それぞれの値欄へは、有意な放出があった場合はその放出量 [Bq]、なかった場合は検出下限濃度の最大値 [Bq/cm³] が格納される。

2.9 保安規定に基づく報告通知関連

tbl 周边監視区域境界

No	列名	内容	データ型	サイズ	NOT NULL	規定値	IDENT	PK	FK	UK	IX
1	周辺監視区域境界コード	周辺監視区域境界を識別するコード。	int	4	○		(1, 1)	○		-	
2	周辺監視区域境界名	周辺監視区域境界の名称。	nvarchar	20							

◆トリガ◆tbl周辺監視区域境界_更新トリガ/tbl周辺監視区域境界_挿入トリガ

tbl 希ガス実効線量当量基準線量

No	列名	内容	データ型	サイズ	NOT NULL	規定値	IDENT	PK	FK	UK	IX
1	報告年度	報告年度(西暦)。	smallint	2	○			○		-	
2	報告四半期	報告四半期。	smallint	2	○			○		-	
3	排気口コード	報告する排気口を識別するコード。	int	4	○			○	①	-	①
4	周辺監視区域境界コード	周辺監視区域境界を識別するコード。	int	4	○			○	②	-	②
5	基準線量	この四半期の基準線量。【 $\mu\text{Sv}/(\text{MeV} \cdot \text{Bq/h})$ 】	real	4							
6	累計基準線量	第1四半期からの累計基準線量。【 $\mu\text{Sv}/(\text{MeV} \cdot \text{Bq/h})$ 】	real	4							

◆外部キータープル◆ ①tbl 排気口名マスタ ②tbl 周辺監視区域境界コード

◆トリガ◆ tbl 希ガス実効線量当量基準線量 更新トリガ/tbl 希ガス実効線量当量基準線量 挿入トリガ

tb1 原子炉施設設定

No	列名	内容	データ型	サイズ	NOT NULL	規定値	IDENT	PK	FK	UK	IX
1	ID	レコードID。	int	4	○		(1, 1)	○		-	
2	排気口コード	報告する原子炉排気口を識別するコード。	int	4					①		①
3	気体廃棄物種類	報告設定をする核種の種類。"放射性希ガス"・"放射性ガス"・"放射性よう素"・"プルトニウム"のいずれかの文字列。	nvarchar	50							
4	集計核種 1	集計・報告対象となる核種を識別するコード。 (集計核種 1)～[集計核種 3]まで最大3核種設定可能)	int	4							
5	集計核種 2		int	4							
6	集計核種 3		int	4							
7	放出管理目標値	放出管理目標値。【Bq/年】	real	4							
8	γ線実効エネルギー	γ線実効エネルギー。【MeV】	real	4							
9	記載順	報告書への記載順	real	4							

10	報告除外	集計処理・報告から除外する場合、真値。	real	4	0 (False)			
----	------	---------------------	------	---	-----------	--	--	--

◆外部キーテーブル◆ ①tbl 排気口名マスタ

◆トリガ◆tbl原子炉施設設定_更新トリガ/tbl原子炉施設設定_挿入トリガ

tb1 季報_氣體廢棄物放出管理目標值	項目	目標值	達成率
tb1 季報_氣體廢棄物放出管理目標值	項目	目標值	達成率
	項目	目標值	達成率
	項目	目標值	達成率
	項目	目標值	達成率

No	列名	内容	データ型	サイズ	NOT NULL	規定値	IDENT	PK	FK	UK	IX
1	報告年度	報告年度(西暦)。	smallint	2	○			○		-	
2	報告四半期	報告四半期。	smallint	2	○			○		-	
3	排気口コード	報告する排気口を識別するコード。	int	4	○			○	①	-	①
4	気体廃棄物種類	報告設定をする核種の種類。"放射性希ガス"・"放射性ガス"・"放射性よう素"・"プルトニウム"のいずれかの文字列。	nvarchar	50	○			○		-	
5	集計核種 1	集計・報告対象の核種を識別するコード。 (集計核種 1)～[集計核種 3]まで最大 3 核種)	int	4							
6	集計核種 2		int	4							
7	集計核種 3		int	4							
8	放出管理目標値	放出管理目標値。【Bq/年】	real	4							
9	γ線実効エネルギー	γ線実効エネルギー。【MeV】	real	4							
10	四半期放出量	この四半期の放出量。【Bq】	real	4							
11	四半期平均放出率	この四半期の平均放出率。【Bq/h】	real	4							
12	年度合計放出量	第 1 四半期からの放出量合計。【Bq】	real	4							
13	年度合計平均放出率	第 1 四半期からの平均放出率。【Bq/h】	real	4							
14	レポート記載順	報告書への記載順。	int	4							

◆外部キーテーブル◆ ①tbl排気口名マスタ

◆トリガ ◆tbl 季報 気体廃棄物放出管理目標値 更新 トリガ /tbl 季報 気体廃棄物放出管理目標値 挿入 トリガ

tbl 液体放出核種管理目標値

No	列名	内容	データ型	サイズ	NOT NULL	規定値	IDENT	PK	FK	UK	IX
1	ID	レコードID。	int	4	○		(1, 1)	○		-	
4	核種コード	報告設定する核種を識別するコード。	int	4					①		①
7	放出管理目標値	放出管理目標値。【Bq/年】	real	4							
8	[3H14C以外核種]	この核種が ³ H, ¹⁴ C以外の核種の場合、真値。	bit	1		0 (False)					

◆外部キーテーブル◆ ①tbl核種マスタ

◆トリガ◆ tbl 液体放出管理目標値_更新トリガ/tbl 液体放出管理目標値_挿入トリガ

tbl 季報_液体廃棄物放出管理目標値

No	列名	内容	データ型	サイズ	NOT NULL	規定値	IDENT	PK	FK	UK	IX
1	報告年度	報告年度(西暦)。	smallint	2	○			○		-	
2	報告四半期	報告四半期。	smallint	2	○			○		-	
3	核種コード	報告する核種を識別するコード。	int	4	○			○	①	-	①
4	HC 以外報告核種	^3H , ^{14}C 以外の核種欄で報告する核種の場合、真値。	bit	1		0 (False)					
5	放出管理目標値	放出管理目標値。【Bq/年】	real	4							
6	四半期放出量	この四半期の放出量。【Bq】	real	4							
7	年度合計放出量	第1 四半期からの放出量合計。【Bq】	real	4							
8	実効線量係数	液体廃棄物による実効線量当量計算係数。【 $\mu\text{Sv/Bq}$ 】	real	4							
9	四半期実効線量当量	この四半期の実効線量当量。【 μSv 】	real	4							
10	年度合計実効線量当量	第1 四半期からの実効線量当量。【 μSv 】	real	4							
11	レポート記載順	報告時の記載順。	int	4							

◆外部キーテーブル◆ ○tbl 核種マスタ

◆トリガ◆ tbl 季報_液体廃棄物放出管理目標値_更新トリガ/tbl 季報_液体廃棄物放出管理目標値_挿入トリガ

2.10 その他

tbl レポートヘッダー

No	列名	内容	データ型	サイズ	NOT NULL	規定値	IDENT	PK	FK	UK	IX
1	レポートID	どの報告書かを識別するID。	int	4	○			○		-	
2	レポート名	報告書の名称。	nvarchar	50							
3	ヘッダー	ヘッダーの MS-Word 文書(オブジェクト)。	image	16							
4	ヘッダー高さ	ヘッダーを報告書へ埋め込む際のオブジェクトの高さ。	real	4							
5	フッター	フッターの MS-Word 文書(オブジェクト)。	image	16							
6	フッター高さ	フッターを報告書へ埋め込む際のオブジェクトの高さ。	real	4							

※補足：報告書作成時にレポートID を使って参照しているため、登録済みのレポートID は変更しないこと。

tbl 元号リスト

No	列名	内容	データ型	サイズ	NOT NULL	規定値	IDENT	PK	FK	UK	IX
1	ID	元号を識別する ID。	int	4	○			○		-	
2	名称	元号(年号)名。	nvarchar	5							
3	オフセット	西暦に換算する際の差値。	int	4							
4	リスト表示	処理年度指定時の元号リストに表示する場合、真値。	bit	1							

※補足：西暦年＝元号年＋オフセット となるようにオフセットを設定する。(例)「平成」のオフセットは 1988

tbl 変更履歴

No	列名	内容	データ型	サイズ	NOT NULL	規定値	IDENT	PK	FK	UK	IX
1	ID	変更履歴のデータ ID。	int	4	○		(0, 1)	○		-	
2	変更日	変更した日付。	datetime	8							
3	内容	変更の内容。	ntext	-							

※補足：ID=0 の内容は「放射線管理 adp」(Access クライアントアプリケーション) の起動時にメインパネルに表示されるデータである

3. ビュー

3.1 一般排水データシート含放出量

内容	一般排水データシートのテーブルに、同データから放出量の値を計算してデータフィールドに追加したもの。
SQL	<pre> SELECT DS. 報告年月, DS. 施設コード, DS. 排水溝, DS. 一般排水なし, DS. 排水日, DS. 排水開始時間, DS. 排水終了時間, DS. 核種コード, DS. 放射能濃度, VOL. 廃液量, DS. 放射能濃度 * VOL. 廃液量 * 1000000 AS 放出量, DS. 同一廃液区分, DS. 検出下限区分 FROM tbl 一般排水データシート DS LEFT OUTER JOIN (SELECT 施設コード, 排水日, 排水開始時間, 廃液量 FROM tbl 一般排水データシート WHERE (一般排水なし = 0) AND (同一廃液区分 = 1)) VOL ON DS. 排水開始時間 = VOL. 排水開始時間 AND DS. 施設コード = VOL. 施設コード AND DS. 排水日 = VOL. 排水日 </pre>

3.2 一般排水データシート放出量計

内容	一般排水データシートのデータから報告年月、施設、核種・検出状態の組別に、その放出量を集計する。
SQL	<pre> SELECT 報告年月, 施設コード, 核種コード, 検出下限区分, SUM(放出量) AS 放出量の合計 FROM vw 一般排水データシート含放出量 WHERE 一般排水なし = 0 GROUP BY 報告年月, 施設コード, 核種コード, 検出下限区分 </pre>

3.3 一般排水排水溝毎核種別 DL 範囲

内容	一般排水で報告されている核種において、報告四半期ならびに排水溝単位での検出下限濃度の範囲を求める。検出下限濃度の最小値と最大値。
SQL	<pre> SELECT (YEAR(DR. 報告年月) - (CASE WHEN MONTH(DR. 報告年月) <= 3 THEN 1 ELSE 0 END)) AS 報告年度, (CASE WHEN DATEPART(quarter, DR. 報告年月) = 1 THEN 4 ELSE DATEPART(quarter, DR. 報告年月) - 1 END) AS 報告四半期, FM. 排水溝, DR. 核種コード, MIN(DR. 検出下限濃度) AS 検出下限濃度最小値, MAX(DR. 検出下限濃度) AS 検出下限濃度最大値 FROM tbl 施設名マスタ AS FM INNER JOIN tbl 一般排水 AS DR ON FM. 施設コード = DR. 施設コード GROUP BY YEAR(DR. 報告年月) - (CASE WHEN MONTH(DR. 報告年月) <= 3 THEN 1 ELSE 0 END), CASE WHEN DATEPART(quarter, DR. 報告年月) = 1 THEN 4 ELSE DATEPART(quarter, DR. 報告年月) - 1 END, FM. 排水溝, DR. 核種コード </pre>

3.4 原子炉排気口最小 ID

内容	排気中の放射性核種分析に使われる原子炉排気口設定で、設定されている原子炉排気口データの最小 ID のリストを返す。原子炉排気口順でのソートなどに使用する。
SQL	<pre>SELECT MIN(ID) AS 最小 ID, 排気口コード FROM tbl 原子炉排気口別主要核種 GROUP BY 排気口コード</pre>

3.5 排気口名マスタ

内容	排気口名マスタのデータを取得する。
SQL	<pre>SELECT 施設コード, 排気口名, 同施設内順, 指定核種 1, 指定核種 2, 指定核種 3 FROM tbl 排気口名マスタ</pre>

3.6 放射線管理等報告排気口最小 ID

内容	放射線管理等報告に使われる排気筒の主核種設定で、設定されている排気筒データの最小 ID のリストを返す。設定されている排気筒順でのソートなどに使用する。
SQL	<pre>SELECT MIN(ID) AS 最小 ID, 排気口コード FROM tbl 放射線管理等報告気体主核種 GROUP BY 排気口コード</pre>

3.7 放出塵埃 Sr 分析データ含報告年月

内容	通常は四半期で報告されている放出塵埃中の Sr 分析結果データに、その四半期の開始日を報告年月フィールドとして追加表示する。
SQL	<pre>SELECT 排気口コード, 核種コード, 月平均濃度 DL 未満, 月平均濃度, 放出量検出下限以上, CONVERT(datetime, CONVERT(char(4), 報告年度 + (CASE WHEN 報告四半期 = 4 THEN 1 ELSE 0 END)) + '/' + (CASE WHEN 報告四半期 = 1 THEN '4/1' WHEN 報告四半期 = 2 THEN '7/1' WHEN 報告四半期 = 3 THEN '10/1' WHEN 報告四半期 = 4 THEN '1/1' END)) AS 報告年月 FROM tbl 放出塵埃 Sr 分析</pre>

4. ストアドプロシージャ

4.1 施設マスタ処理

【プロシージャ名】sp レポート用施設名			
【内容】 指定された施設の全レポート用施設名を返す。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@facilityCode	int	取得する施設の施設コード。
【返値(フィールド名)】 施設コード, 塵埃記録 A 施設名, 塵埃記録 B 施設名, ガス記録 A 施設名, ガス記録 B 施設名, 廃液記録 A 排水なし施設名, 廃液記録 A 排水あり施設名, 廃液記録 B 排水なし施設名, 廃液記録 B 排水あり施設名, 塵埃 Sr 分析 A 施設名, 塵埃 Sr 分析 B 施設名, 廃液 Sr 分析 A 排水なし施設名, 廃液 Sr 分析 A 排水あり施設名, 廃液 Sr 分析 B 排水なし施設名, 廃液 Sr 分析 B 排水あり施設名, 一般排水月報告施設名, 放射性液体廃棄物施設名, 施設名			
【呼び出し元】 (フォーム) frm レポート用施設名			

【プロシージャ名】sp レポート用排気口名			
【内容】 指定された施設の全レポート用排気口名を返す。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@facilityCode	int	取得する施設の施設コード。
【返値(フィールド名)】 施設名, 排気口名, 排気口コード, 塵埃記録 A 排気口名, 塵埃記録 B 排気口名, ガス記録 A 排気口名, ガス記録 B 排気口名, 塵埃 Sr 分析 A 排気口名, 塵埃 Sr 分析 B 排気口名, 放出管理目標値比較排気口名, 放管等報告排気口名, 放管等報告別添排気口名, 放射性廃棄物排気口名			
【呼び出し元】 (フォーム) frm レポート用排気口名			

【プロシージャ名】sp 施設リスト塵埃記載順			
【内容】 塵埃・ガスに関する報告書への記載順に施設リストを取得する。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@except	bit	=1: 報告除外施設を取得。=0: 記載順に報告施設を取得。
【返値(フィールド名)】 施設コード, 塵埃記載順, 施設名			
【呼び出し元】 (フォーム) frm 施設リスト順設定			

【プロシージャ名】sp 施設リスト廃液記載順			
【内容】 排水・廃液に関する報告書への記載順に施設リストを取得する。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@except	bit	=1: 報告除外施設を取得。=0: 記載順に報告施設を取得。
【返値(フィールド名)】 施設コード, 廃液記載順, 施設名			

【呼び出し元】

(フォーム) frm 施設リスト順設定

【プロシージャ名】sp 報告書記載施設更新**【内容】**

指定した施設について、報告書へ記載するか記載しないかの設定を更新する。

【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@bInAdd	bit	=1 : 報告対象施設へ追加。=0 : 報告対象施設から除外。
2	@bInDust	bit	=1 : 塵埃・ガス記録が対象。=0 : 排水・廃液記録が対象。
3	@facilityCode	int	更新対象施設の施設コード。

【返値(フィールド名)】

なし

【呼び出し元】

(フォーム) frm 施設リスト順設定

【プロシージャ名】sp 報告書記載順移動**【内容】**

指定した施設について、報告書記載順を前または後ろへ1つ移動する。

【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@bInDust	bit	=1 : 塵埃記載順の移動。=0 : 廃液記載順の移動。
2	@bInUP	bit	=1 : 前に。=0 : 後ろに。
3	@facilityCode	int	移動する施設の施設コード。

【返値(フィールド名)】

なし

【呼び出し元】

(フォーム) frm 施設リスト順設定

【プロシージャ名】sp 排気口取得**【内容】**

指定施設の排気口リストを取得する。

【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@facilityCode	int	排気口リストを取得する施設の施設コード。

【返値(フィールド名)】

排気口コード, 排気口名

【呼び出し元】(フォーム) frm 放射線管理月報, frm 季報データ放出塵埃, frm 季報データ放出ガス,
frm 放出塵埃ガス記録最大値検索, frm 放出塵埃ガス記録グラフ作成**【プロシージャ名】sp 排気口リスト含施設名****【内容】**

施設名を含んだ排気口リストを返す。

【パラメータ】

なし

【返値(フィールド名)】

排気口コード, 施設名, 排気口名

【呼び出し元】

(フォーム) frm 排気中主要核種設定, frm 放射線管理等報告気体主核種設定,
frm 希ガス実効線量当量原子炉設定, fsub 放射性廃棄物等管理報告排気口設定

4.2 核種データ処理

【プロシージャ名】sp 核種データ保守

【内容】

核種データ保守フォーム用のレコードセットを返す。

【パラメータ】

なし

【返値(フィールド名)】

核種コード, 核種, 分子量, 励起状態, 元素表記, 塵埃選択除外, ガス選択除外, 廃液選択除外,
塵埃季報計算除外, 廃液季報計算除外, 気体濃度限度値, 気体濃度限度値 SD, 気体濃度限度値 ED,
液体濃度限度値, 液体濃度限度値 SD, 液体濃度限度値 ED, 液体実効線量係数, 液体実効線量係数 SD,
液体実効線量係数 ED

【呼び出し元】

(フォーム) frm 核種データ保守

【プロシージャ名】sp 核種データ保守再同期

【内容】

核種データ保守フォームの[再同期コマンド]プロパティ用のストアードプロシージャ。

【パラメータ】

変数名	データ型	内容
1 @nuclideCode	int	更新列を再取得する核種の核種コード。

【返値(フィールド名)】

核種コード, 核種, 分子量, 励起状態, 元素表記, 塵埃選択除外, ガス選択除外, 廃液選択除外,
塵埃季報計算除外, 廃液季報計算除外, 気体濃度限度値, 気体濃度限度値 SD, 気体濃度限度値 ED,
液体濃度限度値, 液体濃度限度値 SD, 液体濃度限度値 ED, 液体実効線量係数, 液体実効線量係数 SD,
液体実効線量係数 ED

【呼び出し元】

(フォーム) frm 核種データ保守

【プロシージャ名】sp 核種データ追加

【内容】

核種マスタデータに核種を追加し、追加された核種の核種コードを返す。
放射線管理月報データ入力時などに使用される核種選択コンボボックスにおいて、リストにない核種が記
述された場合に、自動的に核種マスタテーブルに追加するために呼び出される。

【パラメータ】

変数名	データ型	内容
1 @newNuclide	varchar(20)	新しく追加する核種の核種名。
2 @molWeight	int	新しく追加する核種の分子量。
3 @nuclideView	varchar(20)	新しく追加する核種の元素表記。

【返値(フィールド名)】

核種コード

【呼び出し元】

(標準モジュール) basCommon (addNewNuclide)

【プロシージャ名】sp 核種濃度限度値			
【内容】 核種データ保守時用に、核種濃度限度値データを返す。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nuclideCode	int	濃度限度値を取得する核種の核種コード。
2	@category	int	=1：気体／=2：液体 の濃度限度値を取得。
【返値(フィールド名)】 核種コード, 濃度限度値, 値適用開始日, 値適用終了日			
【呼び出し元】 (フォーム) fsub 核種濃度限度値			

【プロシージャ名】sp 核種濃度限度値デフォルト			
【内容】 指定した核種のデフォルトの濃度限度値データを返す。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nuclideCode	int	濃度限度値を取得する核種の核種コード。
2	@category	int	=1：気体／=2：液体 の濃度限度値を取得。
【返値(フィールド名)】 濃度限度値			
【呼び出し元】 (フォーム) frm 核種濃度限度値			

【プロシージャ名】sp 核種液体実効線量係数			
【内容】 核種データ保守時用に、液体廃棄物による実効線量当量計算用係数を返す。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nuclideCode	int	液体実効線量係数を取得する核種の核種コード。
【返値(フィールド名)】 核種コード, 実効線量当量, 値適用開始日, 値適用終了日			
【呼び出し元】 (フォーム) fsub 核種液体実効線量係数			

【プロシージャ名】sp 核種液体実効線量係数デフォルト			
【内容】 指定した核種のデフォルトの液体廃棄物による実効線量当量計算用係数を返す。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nuclideCode	int	液体実効線量係数を取得する核種の核種コード。
【返値(フィールド名)】 実効線量係数			
【呼び出し元】 (フォーム) frm 核種液体実効線量係数			

4.3 放射線管理月報処理

【プロシージャ名】sp 月報放出塵埃			
【内容】 放射線管理月報放出塵埃(放出ダスト)データを返す。			

【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@reportDate	datetime	月報データを取得する報告年月。
2	@exhaustCode	int	月報データを取得する施設の排気口コード。
【返値(フィールド名)】 RecNo, 報告年月, 係コード, 施設コード, 排気口コード, 核種コード, 採取期間, 濃度最大値 DL 未満, 濃度最大値, 月平均濃度 DL 未満, 月平均濃度, 放出量最大値, 放出量検出下限以上, 放出量検出下限未満 DL 未満, 放出量検出下限未満, 検出下限濃度, 核種			
【呼び出し元】 (フォーム) fsub 放出塵埃, fsub 放出塵埃編集			

【プロシージャ名】 sp 月報放出ガス			
【内容】 放射線管理月報放出ガスデータを返す。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@reportDate	datetime	月報データを取得する報告年月。
2	@exhaustCode	int	月報データを取得する施設の排気口コード。
【返値(フィールド名)】 RecNo, 報告年月, 係コード, 施設コード, 排気口コード, 核種コード, 採取期間, 濃度最大値 DL 未満, 濃度最大値, 月平均濃度 DL 未満, 月平均濃度, 放出量最大値, 放出量検出下限以上, 放出量検出下限未満 DL 未満, 放出量検出下限未満, 検出下限濃度, 核種			
【呼び出し元】 (フォーム) fsub 放出ガス, fsub 放出ガス編集			

【プロシージャ名】 sp 月報一般排水			
【内容】 放射線管理月報一般排水データを返す。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@reportDate	datetime	月報データを取得する報告年月。
2	@facilityCode	int	月報データを取得する施設の施設コード。
【返値(フィールド名)】 RecNo, 報告年月, 係コード, 施設コード, 核種コード, 月平均濃度 DL 未満, 月平均濃度, 廃液量, 放出量検出下限以上, 放出量検出下限未満 DL 未満, 放出量検出下限未満, 検出下限濃度, 核種			
【呼び出し元】 (フォーム) fsub 一般排水, fsub 一般排水編集			

【プロシージャ名】 sp 月報一般排水備考			
【内容】 放射線管理月報一般排水備考データを返す。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@reportDate	datetime	月報データを取得する報告年月。
2	@facilityCode	int	月報データを取得する施設の施設コード。
【返値(フィールド名)】 RecNo, 報告年月, 係コード, 施設コード, 一般排水なし, 備考, 月濃度限度比			
【呼び出し元】 (フォーム) fsub 一般排水備考, fsub 一般排水備考編集			

【プロシージャ名】sp 月報放出塵埃 Sr 分析			
【内容】 放出塵埃中の Sr 分析データを返す。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	Sr 分析データを取得する報告年度。
2	@quarter	smallint	Sr 分析データを取得する報告四半期。
3	@exhaustCode	Int	Sr 分析データを取得する施設の排気口コード。
【返値(フィールド名)】 RecNo, 報告年度, 報告四半期, 施設コード, 排気口コード, 核種コード, 濃度最大値 DL 未満, 濃度最大値, 月平均濃度 DL 未満, 月平均濃度, 放出量最大値, 放出量検出下限以上, 放出量検出下限未満 DL 未満, 放出量検出下限未満, 検出下限濃度, 核種			
【呼び出し元】 (フォーム) fsub 放出塵埃 Sr 分析, fsub 放出塵埃 Sr 分析編集			

【プロシージャ名】sp 月報放出廃液 Sr 分析			
【内容】 放出廃液中の Sr 分析データを返す。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	Sr 分析データを取得する報告年度。
2	@quarter	smallint	Sr 分析データを取得する報告四半期。
3	@facilityCode	Int	Sr 分析データを取得する施設の施設コード。
【返値(フィールド名)】 RecNo, 報告年度, 報告四半期, 施設コード, 排水溝, 一般排水なし, 核種コード, 月平均濃度 DL 未満, 月平均濃度, 廃液量, 放出量検出下限以上, 放出量検出下限未満 DL 未満, 放出量検出下限未満, 検出下限濃度, 核種			
【呼び出し元】 (フォーム) fsub 放出廃液 Sr 分析, fsub 放出廃液 Sr 分析編集			

【プロシージャ名】sp 月報登録済みチェック			
【内容】 放射線管理月報が登録済みかどうかをチェックする。登録済みの場合は、返値のフィールド[登録済]に 1、[係コード]に登録されている担当係の係コードが格納される。未登録の場合は、返値フィールド[登録済]には 0 が格納される。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@reportDate	datetime	登録済みかどうかチェックする報告年月。
2	@facilityCode	int	登録済みかどうかチェックする施設の施設コード。
【返値(フィールド名)】 登録済, 係コード			
【呼び出し元】 (フォーム) frm 放射線管理月報			

【プロシージャ名】sp 月報一般排水なしチェック			
【内容】 指定した施設の排水報告が「一般排水なし」かどうかをチェックする。なお、呼び出し時に次のどちらをチェックするか指定する。 1. 放射線管理月報一般排水の報告が「一般排水なし」かどうか。 2. 放出廃液中の Sr 分析結果の報告が「一般排水なし」かどうか。 「一般排水なし」の報告だった場合は、返値のフィールド [一般排水なし]が ≠0 となる。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@isSr	bit	=0 : 月報一般排水データをチェックする。 =1 : 放出廃液中の Sr 分析結果データをチェックする。
2	@facilityCode	int	チェックする施設の施設コード。
3	@reportDate	datetime	チェックする報告年月。(@isSr=0 の時に有意)
4	@nendo	smallint	チェックする報告年度。(@isSr=1 の時に有意)
5	@quarter	smallint	チェックする報告四半期。(@isSr=1 の時に有意)
【返値(フィールド名)】 一般排水なし			
【呼び出し元】 (フォーム) frm 放射線管理月報			

【プロシージャ名】sp 月報放出塵埃再同期			
【内容】 放出塵埃データ編集フォームの[再同期コマンド]プロパティ用のストアードプロシージャ。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@recNo	int	更新列を再取得するための月報データ識別キー。
【返値(フィールド名)】 RecNo, 報告年月, 係コード, 施設コード, 排気口コード, 核種コード, 採取期間, 濃度最大値 DL 未満, 濃度最大値, 月平均濃度 DL 未満, 月平均濃度, 放出量最大値, 放出量検出下限以上, 放出量検出下限未満 DL 未満, 放出量検出下限未満, 検出下限濃度, 核種			
【呼び出し元】 (フォーム) fsub 放出塵埃編集			

【プロシージャ名】sp 月報放出ガス再同期			
【内容】 放出ガスデータ編集フォームの[再同期コマンド]プロパティ用のストアードプロシージャ。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@recNo	int	更新列を再取得するための月報データ識別キー。
【返値(フィールド名)】 RecNo, 報告年月, 係コード, 施設コード, 排気口コード, 核種コード, 採取期間, 濃度最大値 DL 未満, 濃度最大値, 月平均濃度 DL 未満, 月平均濃度, 放出量最大値, 放出量検出下限以上, 放出量検出下限未満 DL 未満, 放出量検出下限未満, 検出下限濃度, 核種			
【呼び出し元】 (フォーム) fsub 放出ガス編集			

【プロシージャ名】sp 月報一般排水再同期			
【内容】 (月報)一般排水データ編集フォームの[再同期コマンド]プロパティ用のストアードプロシージャ。			

【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@recNo	int	更新列を再取得するための月報データ識別キー。
【返値(フィールド名)】 RecNo, 報告年月, 係コード, 施設コード, 核種コード, 月平均濃度 DL 未満, 月平均濃度, 廃液量, 放出量検出下限以上, 放出量検出下限未満 DL 未満, 放出量検出下限未満, 検出下限濃度, 核種			
【呼び出し元】 (フォーム) fsub 一般排水編集			

【プロシージャ名】sp 月報一般排水備考再同期			
【内容】 (月報)一般排水備考データ編集フォームの[再同期コマンド]プロパティ用のストアードプロシージャ。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@recNo	int	更新列を再取得するための月報データ識別キー。
【返値(フィールド名)】 RecNo, 報告年月, 係コード, 施設コード, 一般排水なし, 備考, 月濃度限度比			
【呼び出し元】 (フォーム) fsub 一般排水備考編集			

【プロシージャ名】sp 月報放出塵埃 Sr 分析再同期			
【内容】 放出塵埃中の Sr 分析データ編集フォームの[再同期コマンド]プロパティ用のストアードプロシージャ。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@recNo	int	更新列を再取得するためのデータ識別キー。
【返値(フィールド名)】 RecNo, 報告年度, 報告四半期, 施設コード, 排気口コード, 核種コード, 濃度最大値 DL 未満, 濃度最大値, 月平均濃度 DL 未満, 月平均濃度, 放出量最大値, 放出量検出下限以上, 放出量検出下限未満 DL 未満, 放出量検出下限未満, 検出下限濃度, 核種			
【呼び出し元】 (フォーム) fsub 放出塵埃 Sr 分析編集			

【プロシージャ名】sp 月報放出廃液 Sr 分析再同期			
【内容】 放出廃液中の Sr 分析データ編集フォームの[再同期コマンド]プロパティ用のストアードプロシージャ。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@recNo	int	更新列を再取得するためのデータ識別キー。
【返値(フィールド名)】 RecNo, 報告年度, 報告四半期, 施設コード, 排水溝, 一般排水なし, 核種コード, 月平均濃度 DL 未満, 月平均濃度, 廃液量, 放出量検出下限以上, 放出量検出下限未満 DL 未満, 放出量検出下限未満, 検出下限濃度, 核種			
【呼び出し元】 (フォーム) fsub 放出廃液 Sr 分析編集			

【プロシージャ名】sp 既定担当係チェック			
【内容】 受け取った施設と担当係の関係が、施設マスタに登録されている既定のものかどうかチェックする。既定のものだった場合は返値 [既定担当係] に正数が返り、既定でなければ 0 が返る。			

【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@facilityCode	int	施設コード。
2	@sectionCode	int	係コード。
【返値(フィールド名)】			
既定担当係			
【呼び出し元】			
(フォーム) frm 放射線管理月報			

【プロシージャ名】sp 月報担当係更新			
【内容】			
登録済みの放射線管理月報データにおいて、その担当係を一斉更新する。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@reportDate	datetime	担当係を更新する報告年月。
2	@facilityCode	int	担当係を更新する施設の施設コード。
3	@sectionCode	bit	新しい担当係の係コード。
【返値(フィールド名)】			
なし			
【呼び出し元】			
(フォーム) frm 放射線管理月報			

【プロシージャ名】sp 月報放出塵埃ガスデータ削除			
【内容】			
放射線管理月報の放出塵埃(放出ダスト)・放出ガスデータを削除する。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@reportDate	datetime	月報データを削除する報告年月。
2	@exhaustCode	int	月報データを削除する施設の排気口コード。
【返値(フィールド名)】			
なし			
【呼び出し元】			
(フォーム) frm 放出塵埃ガス編集			

【プロシージャ名】sp 月報一般排水削除			
【内容】			
放射線管理月報の一般排水データを削除する。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@reportDate	datetime	月報データを削除する報告年月。
2	@facilityCode	int	月報データを削除する施設の施設コード。
【返値(フィールド名)】			
なし			
【呼び出し元】			
(フォーム) frm 一般排水編集			

【プロシージャ名】sp 月報排水なし更新			
【内容】			
放射線管理月報における「一般排水なし」(チェックボックス)を更新する。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容

1	@reportDate	datetime	「一般排水なし」を更新する報告年月。
2	@sectionCode	int	「一般排水なし」を更新する施設の担当係の係コード。
3	@facilityCode	int	「一般排水なし」を更新する施設の施設コード。
4	@blnNoDrain	bit	「一般排水なし」の値。
【返値(フィールド名)】			
なし			
【呼び出し元】			
(フォーム) frm 一般排水編集			

【プロシージャ名】 sp 月報排水なし Sr 更新			
【内容】			
放出廃液中の Sr 分析結果における「一般排水なし」(チェックボックス)を更新する。「一般排水なし」が真値になった場合は、既存のデータレコードは削除される。			
【パラメータ】			
	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	「一般排水なし」を更新する報告年度。
1	@quarter	smallint	「一般排水なし」を更新する報告四半期。
2	@facilityCode	int	「一般排水なし」を更新する施設の施設コード。
3	@sewerNo	smallint	「一般排水なし」を更新する施設が属する排水溝。
4	@blnNoDrain	bit	「一般排水なし」の値。
【返値(フィールド名)】			
なし			
【呼び出し元】			
(フォーム) frm 放出廃液 Sr 分析編集			

【プロシージャ名】 sp 月報特殊排気率チェック			
【内容】			
放射線管理月報で設定されている排気率が特殊設定のものかどうかをチェックする。			
返値である[特殊設定]は =1: 特殊設定、=0: 通常の排気率設定、=-1: 設定エラー を意味する。			
【パラメータ】			
	変数名	データ型	内容
1	@reportDate	datetime	排気率をチェックする報告年月。
2	@exhaustCode	int	排気率をチェックする施設の排気口コード。
【返値(フィールド名)】			
特殊設定			
【呼び出し元】			
(フォーム) frm 特殊排気率設定			

【プロシージャ名】 sp 月報排気率取得			
【内容】			
放射線管理月報で設定されている排気率を取得する。			
なお、特殊設定の排気率だった場合は、返値の[排気率]が負(-1)となる。			
【パラメータ】			
	変数名	データ型	内容
1	@reportDate	datetime	排気率を取得する報告年月。
2	@exhaustCode	int	排気率を取得する施設の排気口コード。
【返値(フィールド名)】			
排気率			

【呼び出し元】 (フォーム) frm 放射線管理月報

【プロシージャ名】 sp 月報排気率更新			
【内容】 放射線管理月報で設定されている排気率を更新する。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@reportDate	datetime	排気率を更新する報告年月。
2	@exhaustCode	int	排気率を更新する施設の排気口コード。
3	@exhaustRate	real	更新する排気率の値。
【返値(フィールド名)】 なし			
【呼び出し元】 (フォーム) frm 放出塵埃ガス編集			

【プロシージャ名】 sp 月報特殊排気率取得			
【内容】 放射線管理月報で塵埃・ガス用と特殊設定されている排気率を取得する。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@reportDate	datetime	排気率を取得する報告年月。
2	@exhaustCode	int	排気率を取得する施設の排気口コード。
【返値(フィールド名)】 塵埃用排気率, ガス用排気率			
【呼び出し元】 (フォーム) frm 特殊排気率設定			

【プロシージャ名】 sp 月報特殊排気率更新			
【内容】 放射線管理月報で塵埃・ガス用と特殊設定されている排気率を更新する。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@reportDate	datetime	排気率を更新する報告年月。
2	@exhaustCode	int	排気率を更新する施設の排気口コード。
3	@exhaustRate	real	更新する排気率の値。
4	@blnDustOrGas	bit	=0: 塵埃用 / =1: ガス用 の排気率を更新する。
【返値(フィールド名)】 なし			
【呼び出し元】 (フォーム) frm 特殊排気率設定			

【プロシージャ名】 sp 月報核種別特殊排気率取得			
【内容】 放射線管理月報で設定されている核種別の排気率を取得する。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@reportDate	datetime	排気率を取得する報告年月。
2	@exhaustCode	int	排気率を取得する施設の排気口コード。
3	@blnDustOrGas	bit	=0: 塵埃用 / =1: ガス用 の排気率を取得する。

【返値(フィールド名)】			
RecNo, 報告年月, 排気口コード, 特殊設定, 排気率, 塵埃用, ガス用, 核種別, 核種コード			
【呼び出し元】			
(フォーム) fsub 特殊排気率設定塵埃, fsub 特殊排気率設定ガス			

【プロシージャ名】 sp 月報核種別特殊排気率削除			
【内容】			
放射線管理月報で設定されている核種別の排気率を削除する。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@reportDate	datetime	排気率を削除する報告年月。
2	@exhaustCode	int	排気率を削除する施設の排気口コード。
3	@blnDustOrGas	bit	=0: 塵埃用 / =1: ガス用 の排気率を削除する。
【返値(フィールド名)】			
なし			
【呼び出し元】			
(フォーム) frm 特殊排気率設定			

4.5 一般排水データ処理

【プロシージャ名】 sp 一般排水データシート			
【内容】			
一般排水データシートのデータを返す。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@reportDate	datetime	データを取得する報告年月。
2	@sectionCode	int	データを取得する管理担当係の係コード。
【返値(フィールド名)】			
報告年月, 係コード, 施設コード, 排水溝, 一般排水なし, 排水日, 排水開始時間, 排水終了時間, 核種コード, 放射能濃度, 廃液量, 同一廃液区分, 検出下限区分			
【呼び出し元】			
(フォーム) fsub 一般排水データシート			

【プロシージャ名】 sp 一般排水 DS 月間報告施設			
【内容】			
一般排水データシートの確認用に各施設へ報告するレポート用のレコードセットを返す。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@reportDate	datetime	データを取得する報告年月。
【返値(フィールド名)】			
報告年月, 施設コード, 一般排水なし, 排水溝, 施設グループ化 ID, 建家名			
【呼び出し元】			
(レポート) rep 一般排水施設別月報告			

【プロシージャ名】 sp 一般排水 DS 月間報告			
【内容】			
一般排水データシートの確認用に各施設へ報告するレポート用に、指定施設のデータを返す。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@reportDate	datetime	データを取得する報告年月。
2	@facilityCode	int	データを取得する施設の施設コード。

【返値(フィールド名)】 排水日, 放射能濃度, 廃液量, 同一廃液区分, 同一廃液ラベル, 検感未満ラベル, 核種コード, 分子量表記, 元素表記
【呼び出し元】 (レポート) rsub 一般排水施設別月報告

【プロセス名】 sp 一般排水 DS 月間報告核種放出量計			
【内容】 一般排水データシートの確認用に各施設へ報告するレポート用指に、指定施設の放出核種別に合計した放出量を返す。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@reportDate	datetime	データを取得する報告年月。
2	@facilityCode	int	データを取得する施設の施設コード。
【返値(フィールド名)】 核種コード, 放出量の合計, 分子量表記, 元素表記			
【呼び出し元】 (レポート) rsub 一般排水施設別核種放出量計			

【プロセス名】 sp 一般排水放出量比較			
【内容】 放射線管理月報と一般排水データシートで報告されている放出核種の放出量を比較するレポートのために、それぞれの値を取得して返す。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@reportDate	datetime	データを比較する報告年月。
【返値(フィールド名)】 施設コード, 施設名, 所外施設, 核種コード, 元素表記, 分子量表記, 検出放出量月報, 検出放出量 DS, 不検出放出量月報, 不検出放出量 DS			
【呼び出し元】 (レポート) rep 一般排水放出量比較			

【プロセス名】 sp 一般排水一日平均濃度			
【内容】 放射線管理季報の放出廃液記録用に作成された一般排水の一日平均濃度を返す。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@sewerNo	smallint	データを取得する排水溝。
2	@startDay	datetime	データを取得する期間の開始日(月の開始日になる)。
3	@endDay	datetime	データを取得する期間の終了日(月の終了日になる)。
4	@nuclideCode	int	データを取得する核種の核種コード。
5	@detected	bit	4の核種の検出状態。=1:検出分/=0:不検出分
【返値(フィールド名)】 排水溝, 核種コード, 検出状態, 排水日, 一日平均濃度			
【呼び出し元】 (フォーム) fsub 一般排水一日平均濃度			

【プロシージャ名】sp 一般排水一日平均濃度レポート			
【内容】 放射線管理季報の放出廃液記録用に作成された一般排水の一日平均濃度をレポート用に返す。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@startDay	datetime	データを取得する期間の開始日(月の開始日になる)。
2	@endDay	datetime	データを取得する期間の終了日(月の終了日になる)。
【返値(フィールド名)】 排水溝, 核種コード, 核種, 検出状態, 排水日, 一日平均濃度, 最大値表記			
【呼び出し元】 (レポート) rep 一般排水一日平均濃度			

【プロシージャ名】sp 排水溝廃液量取得			
【内容】 放出廃液記録で報告される施設毎廃液量を排水溝別に集計して返す。 返値のフィールド名中の表記については、次の通り。 A…四半期内第1月 B…四半期内第2月 C…四半期内第3月 1…第1排水溝 2…第2排水溝 3…第3排水溝			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを集計する報告年度。
2	@quarter	quarter	データを集計する報告四半期。
【返値(フィールド名)】 廃液量 A1, 廃液量 B1, 廃液量 C1, 廃液量 A2, 廃液量 B2, 廃液量 C2, 廃液量 A3, 廃液量 B3, 廃液量 C3,			
【呼び出し元】 (フォーム) frm 排水溝流量			

【プロシージャ名】sp 排水溝排水量取得			
【内容】 排水溝の排水量を取得する。返値のフィールド名中の表記については、次の通り。 A…四半期内第1月 B…四半期内第2月 C…四半期内第3月 1…第1排水溝 2…第2排水溝 3…第3排水溝			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@reportDateA	datetime	データを取得する報告年月。(四半期内第1月)
2	@reportDateB	datetime	データを取得する報告年月。(四半期内第2月)
3	@reportDateC	datetime	データを取得する報告年月。(四半期内第3月)
【返値(フィールド名)】 排水量 A1, 排水量 B1, 排水量 C1, 排水量 A2, 排水量 B2, 排水量 C2, 排水量 A3, 排水量 B3, 排水量 C3			
【呼び出し元】 (フォーム) frm 排水溝流量			

【プロシージャ名】sp 排水溝排水量更新			
【内容】 排水溝の排水量を更新する。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@reportDate	datetime	データを更新する報告年月。
2	@sewerNo	smallint	データを更新する排水溝。
3	@drainVolume	real	更新する排水量の値。

【返値(フィールド名)】 なし
【呼び出し元】 (フォーム) frm 排水溝流量

【プロシージャ名】sp 日別排水流量			
【内容】 日別の排水溝毎の流量を取得する。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@startDay	datetime	データを取得開始日。(月の開始日である)
2	@endDay	datetime	データを取得終了日。(月の終了日である)
【返値(フィールド名)】 測定年月日, 第1排水溝流量, 第2排水溝流量, 第3排水溝流量			
【呼び出し元】 (フォーム) fsub 日別排水流量			

【プロシージャ名】sp 日別排水流量日付作成			
【内容】 日別排水流量を格納するテーブルに日付だけ先に挿入する。挿入した日数(レコード数)を返す。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@startDay	datetime	作成する日付の開始日。(月の開始日である)
2	@endDay	datetime	作成する日付の終了日。(月の終了日である)
【返値(フィールド名)】 作成日付数			
【呼び出し元】 (フォーム) frm 日別排水流量			

【プロシージャ名】sp 日別排水流量必要日			
【内容】 日別排水流量を入力する必要がある日を調べて、その日付を返す。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@reportDate	datetime	調べる報告年月。
【返値(フィールド名)】 排水溝, 排水日			
【呼び出し元】 (フォーム) frm 日別排水流量必要日			

【プロシージャ名】sp 日別排水流量未入力日			
【内容】 日別排水流量の入力が必要なのに未入力な日を調べて、その日付を返す。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@startDay	datetime	調べる日付の開始日。(月の開始日である)
2	@endDay	datetime	調べる日付の終了日。(月の終了日である)
【返値(フィールド名)】 排水溝, 排水日			

【呼び出し元】

(フォーム) frm 日別排水流量

4.6 放射線管理季報処理

【プロシージャ名】sp 季報情報取得

【内容】

放射線管理季報が作成済みかどうか、また値を手動で補正したデータがあるかどうかを調べる。
指定した放射線管理季報データのレコード数と手動補正データのレコード数を返す。

【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@tblNo	smallint	調べる放射線管理季報を識別する番号。 =10：放出塵埃記録 =20：放出ガス記録 =30：放出廃液記録 =41：放出塵埃中の Sr 分析結果 =42：放出廃液中の Sr 分析結果 =51：放出管理目標値との比較（気体廃棄物） =52：放出管理目標値との比較（液体廃棄物）
2	@nendo	smallint	調べる放射線管理季報の報告年度。
3	@quarter	smallint	調べる放射線管理季報の報告四半期。
【返値(フィールド名)】			
データレコード数, 値手動補正レコード数			
【呼び出し元】			
(フォーム) frm 季報作成			

【プロシージャ名】sp 季報第4四半期作成可否

【内容】

放射線管理季報の第4四半期分が作成可能（第1～3四半期分の季報データが作成されている必要がある）
ならば返値[作成可能]に1を返す。

【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@tblNo	smallint	調べる放射線管理季報を識別する番号。 =10：放出塵埃記録 =20：放出ガス記録 =30：放出廃液記録 =41：放出塵埃中の Sr 分析結果 =42：放出廃液中の Sr 分析結果
2	@nendo	smallint	調べる放射線管理季報の報告年度。
【返値(フィールド名)】			
作成可能			
【呼び出し元】			
(フォーム) frm 季報作成			

【プロシージャ名】sp 季報放出塵埃施設

【内容】

放出塵埃記録を報告する施設データを返す。

【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。

2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。
3	@repType	nchar(1)	作成する季報の形態。(表記用文字列の選択用) ='A': 第1～第3 四半期用 ='B': 第4 四半期用 ='C': CSV ファイル用
【返値(フィールド名)】 施設コード, 施設名表記, 排気口コード, 排気口名表記, 塵埃記載順, 同施設内順			
【呼び出し元】 (レポート) rep 放出塵埃記録 A, rep 放出塵埃記録 B (標準モジュール) basOutCSVFormat (makeDustCSV)			

【プロシージャ名】sp 季報放出塵埃核種			
【内容】 放出塵埃記録において指定した排気口が報告する核種データを返す。			
【パラメータ】			
	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。
3	@exhaustCode	int	データを取得する施設の排気口コード。
【返値(フィールド名)】 核種コード, 採取期間, 核種, 分子量表記, 元素表記			
【呼び出し元】 (レポート) rsub 放出塵埃核種 A, rsub 放出塵埃核種 B			

【プロシージャ名】sp 季報放出塵埃記録値			
【内容】 放出塵埃記録において指定した排気口・核種のデータを返す。			
【パラメータ】			
	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。
3	@exhaustCode	int	データを取得する施設の排気口コード。
4	@nuclideCode	int	データを取得する核種の核種コード。
【返値(フィールド名)】 最大濃度 1DL 未満, 最大濃度 1, 最大濃度 2DL 未満, 最大濃度 2, 最大濃度 3DL 未満, 最大濃度 3, 四半期最大濃度 DL 未満, 四半期最大濃度, 年間最大濃度 DL 未満, 年間最大濃度, 平均濃度 1DL 未満, 平均濃度 1, 平均濃度 2DL 未満, 平均濃度 2, 平均濃度 3DL 未満, 平均濃度 3, 四半期平均濃度 DL 未満, 四半期平均濃度, 年間平均濃度 DL 未満, 年間平均濃度, 放出量 1, 放出量 2, 放出量 3, 四半期放出量, 年間放出量			
【呼び出し元】 (レポート) rsub 放出塵埃記録値 A, rsub 放出塵埃記録値 B			

【プロシージャ名】sp 季報 CSV 用放出塵埃記録値			
【内容】 放出塵埃記録において指定した排気口のデータを返す。			
【パラメータ】			
	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。

3	@exhaustCode	int	データを取得する施設の排気口コード。
【返値(フィールド名)】 核種コード, 核種, 採取期間, 最大濃度 1DL 未満, 最大濃度 1, 最大濃度 2DL 未満, 最大濃度 2, 最大濃度 3DL 未満, 最大濃度 3, 四半期最大濃度 DL 未満, 四半期最大濃度, 年間最大濃度 DL 未満, 年間最大濃度, 平均濃度 1DL 未満, 平均濃度 1, 平均濃度 2DL 未満, 平均濃度 2, 平均濃度 3DL 未満, 平均濃度 3, 四半期平均濃度 DL 未満, 四半期平均濃度, 年間平均濃度 DL 未満, 年間平均濃度, 放出量 1, 放出量 2, 放出量 3, 四半期放出量, 年間放出量			
【呼び出し元】 (標準モジュール) basOutCSVFormat(makeDustCSV)			

【プロシージャ名】sp 季報放出ガス施設			
【内容】 放出ガス記録を報告する施設データを返す。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。
3	@repType	nchar(1)	作成する季報の形態。(表記用文字列の選択用) ='A': 第 1～第 3 四半期用 ='B': 第 4 四半期用 ='C': CSV ファイル用
【返値(フィールド名)】 施設コード, 施設名表記, 排気口コード, 排気口名表記, 塵埃記載順, 同施設内順			
【呼び出し元】 (レポート) rep 放出ガス記録 A, rep 放出ガス記録 B (標準モジュール) basOutCSVFormat(makeGasCSV)			

【プロシージャ名】sp 季報放出ガス核種			
【内容】 放出ガス記録において指定した排気口が報告する核種データを返す。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。
3	@exhaustCode	int	データを取得する施設の排気口コード。
【返値(フィールド名)】 核種コード, 採取期間, 核種, 分子量表記, 元素表記			
【呼び出し元】 (レポート) rsub 放出ガス核種 A, rsub 放出ガス核種 B			

【プロシージャ名】sp 季報放出ガス記録値			
【内容】 放出ガス記録において指定した排気口・核種のデータを返す。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。
3	@exhaustCode	int	データを取得する施設の排気口コード。

4	@nuclideCode	int	データを取得する核種の核種コード。
【返値(フィールド名)】 最大濃度 1DL 未満, 最大濃度 1, 最大濃度 2DL 未満, 最大濃度 2, 最大濃度 3DL 未満, 最大濃度 3, 四半期最大濃度 DL 未満, 四半期最大濃度, 年間最大濃度 DL 未満, 年間最大濃度, 平均濃度 1DL 未満, 平均濃度 1, 平均濃度 2DL 未満, 平均濃度 2, 平均濃度 3DL 未満, 平均濃度 3, 四半期平均濃度 DL 未満, 四半期平均濃度, 年間平均濃度 DL 未満, 年間平均濃度, 放出量 1, 放出量 2, 放出量 3, 四半期放出量, 年間放出量			
【呼び出し元】 (レポート) rsub 放出ガス記録値 A, rsub 放出ガス記録値 B			

【プロシージャ名】 sp 季報 CSV 用放出ガス記録値																			
【内容】 放出ガス記録において指定した排気口のデータを返す。																			
【パラメータ】 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>変数名</th><th>データ型</th><th>内容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>@nendo</td><td>smallint</td><td>データを取得する報告年度。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>@quarter</td><td>smallint</td><td>データを取得する報告四半期。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>@exhaustCode</td><td>int</td><td>データを取得する施設の排気口コード。</td></tr> </tbody> </table>					変数名	データ型	内容	1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。	2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。	3	@exhaustCode	int	データを取得する施設の排気口コード。
	変数名	データ型	内容																
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。																
2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。																
3	@exhaustCode	int	データを取得する施設の排気口コード。																
【返値(フィールド名)】 核種, 採取期間, 最大濃度 1DL 未満, 最大濃度 1, 最大濃度 2DL 未満, 最大濃度 2, 最大濃度 3DL 未満, 最大濃度 3, 四半期最大濃度 DL 未満, 四半期最大濃度, 年間最大濃度 DL 未満, 年間最大濃度, 平均濃度 1DL 未満, 平均濃度 1, 平均濃度 2DL 未満, 平均濃度 2, 平均濃度 3DL 未満, 平均濃度 3, 四半期平均濃度 DL 未満, 四半期平均濃度, 年間平均濃度 DL 未満, 年間平均濃度, 放出量 1, 放出量 2, 放出量 3, 四半期放出量, 年間放出量																			
【呼び出し元】 (標準モジュール) basOutCSVFormat(makeGasCSV)																			

【プロシージャ名】 sp 季報施設毎廃液量																							
【内容】 放出廃液記録に使用する施設毎の廃液量データを返す。																							
【パラメータ】 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>変数名</th><th>データ型</th><th>内容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>@nendo</td><td>smallint</td><td>データを取得する報告年度。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>@quarter</td><td>smallint</td><td>データを取得する報告四半期。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>@sewerNo</td><td>smallint</td><td>データを取得する施設が属する排水溝。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>@repType</td><td>nchar(1)</td><td>作成する季報の形態。(表記用文字列の選択用) = 'A' : 第 1 ~ 第 3 四半期用 = 'B' : 第 4 四半期用 = 'C' : CSV ファイル用 </td></tr> </tbody> </table>					変数名	データ型	内容	1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。	2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。	3	@sewerNo	smallint	データを取得する施設が属する排水溝。	4	@repType	nchar(1)	作成する季報の形態。(表記用文字列の選択用) = 'A' : 第 1 ~ 第 3 四半期用 = 'B' : 第 4 四半期用 = 'C' : CSV ファイル用
	変数名	データ型	内容																				
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。																				
2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。																				
3	@sewerNo	smallint	データを取得する施設が属する排水溝。																				
4	@repType	nchar(1)	作成する季報の形態。(表記用文字列の選択用) = 'A' : 第 1 ~ 第 3 四半期用 = 'B' : 第 4 四半期用 = 'C' : CSV ファイル用																				
【返値(フィールド名)】 施設コード, 施設名表記, 所外施設, 一般排水なし, 廃液量 1, 廃液量 2, 廃液量 3, 四半期廃液量, 年間廃液量																							
【呼び出し元】 (レポート) rep 施設毎放出廃液記録 A, rep 施設毎放出廃液記録 B (標準モジュール) basOutCSVFormat(makeFacLiquidCSV)																							

【プロシージャ名】sp 季報施設毎廃液記録			
【内容】 (施設毎)放出廃液記録データを返す。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。
3	@facilityCode	smallint	データを取得する施設の施設コード。
【返値(フィールド名)】 核種コード, 核種, 分子量, 分子量表記, 元素表記, 検出状態, 平均濃度 1, 平均濃度 2, 平均濃度 3, 四半期平均濃度, 年間平均濃度, 放出量 1, 放出量 2, 放出量 3, 四半期放出量, 年間放出量			
【呼び出し元】 (レポート) rsub 施設毎放出廃液記録値 A, rsub 施設毎放出廃液記録値 B (標準モジュール) basOutCSVFormat(makeFacLiquidCSV)			

【プロシージャ名】sp 季報排水溝毎廃液量			
【内容】 放出廃液記録に使用する排水溝毎の廃液量データを返す。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。
3	@sewerNo	smallint	データを取得する排水溝。
【返値(フィールド名)】 廃液量 1, 廃液量 2, 廃液量 3, 四半期廃液量, 年間廃液量			
【呼び出し元】 (レポート) rep 排水溝毎放出廃液記録 A, rep 排水溝毎放出廃液記録 B (標準モジュール) basOutCSVFormat(makeSewLiquidCSV)			

【プロシージャ名】sp 季報排水溝毎廃液記録			
【内容】 (排水溝毎)放出廃液記録データを返す。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。
3	@sewerNo	smallint	データを取得する排水溝。
4	@fixedNuclide	smallint	=1 : 固定分核種(³ H, ¹⁴ C, ³ H, ¹⁴ C 以外核種)データを取得。 =0 : 固定分以外の核種データを取得。
【返値(フィールド名)】 核種コード, 核種, 分子量, 分子量表記, 元素表記, 検出状態, 一日平均最大 1, 一日平均最大 2, 一日平均最大 3, 四半期一日平均最大, 年間一日平均最大, 平均濃度 1, 平均濃度 2, 平均濃度 3, 四半期平均濃度, 年間平均濃度, 放出量 1, 放出量 2, 放出量 3, 四半期放出量, 年間放出量			
【呼び出し元】 (レポート) rsub 排水溝毎放出廃液記録固定以外分 A, rep 排水溝毎放出廃液記録固定以外分 B, rsub 排水溝毎放出廃液記録固定分 A, rep 排水溝毎放出廃液記録固定分 B (標準モジュール) basOutCSVFormat(makeSewLiquidCSV)			

【プロシージャ名】sp 季報放出塵埃 Sr 分析			
【内容】 放出塵埃中の Sr 分析結果データを返す。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。
3	@repType	nchar(1)	作成する季報の形態。(表記用文字列の選択用) ='A': 第 1～第 3 四半期用 ='B': 第 4 四半期用 ='C': CSV ファイル用
【返値(フィールド名)】 施設コード, 施設名表記, 排気口コード, 排気口名表記, 塵埃記載順, 同施設内順, 平均濃度 89SrDL未満, 平均濃度 89Sr, 平均濃度 90SrDL未満, 平均濃度 90Sr, 放出量 89Sr, 放出量 90Sr, 年間平均濃度 89SrDL 未満, 年間平均濃度 89Sr, 年間平均濃度 90SrDL 未満, 年間平均濃度 90Sr, 年間放出量 89Sr, 年間放出量 90Sr			
【呼び出し元】 (レポート) rep 放出塵埃 Sr 分析 A, rep 放出塵埃 Sr 分析 B (標準モジュール) basOutCSVFormat(makeDustSrCSV)			

【プロシージャ名】sp 季報放出廃液 Sr 分析施設			
【内容】 放出廃液中の Sr 分析結果を報告する施設データを返す。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。
3	@sewerNo	smallint	データを取得する施設が属する排水溝。
4	@repType	nchar(1)	作成する季報の形態。(表記用文字列の選択用) ='A': 第 1～第 3 四半期用 ='B': 第 4 四半期用
【返値(フィールド名)】 施設コード, 施設名表記, 一般排水なし			
【呼び出し元】 (レポート) rsub 放出廃液 Sr 分析施設 A, rsub 放出廃液 Sr 分析施設 B			

【プロシージャ名】sp 季報放出廃液 Sr 分析報告施設数			
【内容】 放出廃液中の Sr 分析結果を報告する施設の数を、排水があった施設と無かった施設にわけて返す。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。
3	@sewerNo	smallint	データを取得する施設が属する排水溝。
【返値(フィールド名)】 排水あり施設数, 排水なし施設数			
【呼び出し元】 (レポート) rsub 放出廃液 Sr 分析排水溝 A, rsub 放出廃液 Sr 分析排水溝 B			

【プロシージャ名】sp 季報放出廃液 Sr 分析施設毎記録値			
【内容】 放出廃液中の Sr 分析結果の指定した施設のデータを返す。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。
3	@facilityCode	int	データを取得する施設の施設コード。
【返値(フィールド名)】 平均濃度 89SrDL 未満, 平均濃度 89Sr, 平均濃度 90SrDL 未満, 平均濃度 90Sr, 放出量 89Sr, 放出量 90Sr, 廃液量, 年間平均濃度 89SrDL 未満, 年間平均濃度 89Sr, 年間平均濃度 90SrDL 未満, 年間平均濃度 90Sr, 年間放出量 89Sr, 年間放出量 90Sr, 年間廃液量			
【呼び出し元】 (レポート) rsub 放出廃液 Sr 分析施設毎記録値 A, rsub 放出廃液 Sr 分析施設毎記録値 B			

【プロシージャ名】sp 季報 CSV 用廃液 Sr 分析施設毎			
【内容】 放出廃液中の Sr 分析結果のデータを返す。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。
3	@sewerNo	smallint	データを取得する施設が属する排水溝。
【返値(フィールド名)】 施設名, 一般排水なし, 平均濃度 89SrDL 未満, 平均濃度 89Sr, 平均濃度 90SrDL 未満, 平均濃度 90Sr, 放出量 89Sr, 放出量 90Sr, 年間平均濃度 89SrDL 未満, 年間平均濃度 89Sr, 年間平均濃度 90SrDL 未満, 年間平均濃度 90Sr, 年間放出量 89Sr, 年間放出量 90Sr, 廃液量, 年間廃液量			
【呼び出し元】 (標準モジュール) basOutCSVFormat(makeLiquidSrCSV)			

【プロシージャ名】sp 季報放出廃液 Sr 分析排水溝			
【内容】 放出廃液中の Sr 分析結果を報告する排水溝を返す。その排水溝にデータがあれば排水溝番号が返る。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。
3	@sewerNo	smallint	データを取得する排水溝。
【返値(フィールド名)】 排水溝			
【呼び出し元】 (レポート) rsub 放出廃液 Sr 分析排水溝 A, rsub 放出廃液 Sr 分析排水溝 B			

【プロシージャ名】sp 季報放出廃液 Sr 分析排水溝計			
【内容】 放出廃液中の Sr 分析結果の排水溝合計を返す。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。

【返値(フィールド名)】 排水溝, 平均濃度 89Sr, 平均濃度 90Sr, 放出量 89Sr, 放出量 90Sr, 廃液量, 年間平均濃度 89Sr, 年間平均濃度 90Sr, 年間放出量 89Sr, 年間放出量 90Sr, 年間廃液量			
【呼び出し元】 (レポート) rep 放出廃液 Sr 分析 A, rep 放出廃液 Sr 分析 B, rep 放出廃液 Sr 分析排水溝計 A, rep 放出廃液 Sr 分析排水溝計 B			

【プロセス名】sp 季報 CSV 用廃液 Sr 分析排水溝計			
【内容】 放出廃液中の Sr 分析結果の排水溝合計を返す。			
【パラメータ】			
	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。
3	@sewerNo	smallint	データを取得する施設が属する排水溝。
【返値(フィールド名)】 平均濃度 89Sr, 平均濃度 90Sr, 放出量 89Sr, 放出量 90Sr, 廃液量, 年間平均濃度 89Sr, 年間平均濃度 90Sr, 年間放出量 89Sr, 年間放出量 90Sr, 年間廃液量			
【呼び出し元】 (標準モジュール) basOutCSVFormat(makeLiquidSrCSV, makeLiquidSrOnlySewerCSV)			

【プロセス名】sp 季報放出管理目標値比較気体			
【内容】 放出管理目標値との比較(気体廃棄物)データを返す。			
【パラメータ】			
	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。
【返値(フィールド名)】 排気口コード, 原子炉施設表記, 気体廃棄物種類, 核種コード, 核種, 分子量表記, 元素表記, 表記核種 1 表記, 表記核種 1 分子量表記, 表記核種 1 元素表記, 表記核種 2 表記, 表記核種 2 分子量表記, 表記核種 2 元素表記, 放出管理目標値, 四半期放出量, 年度合計放出量, 比率			
【呼び出し元】 (レポート) rep 気体廃棄物放出管理目標値比較 (標準モジュール) basOutCSVFormat(makeCompareLimitOnGasCSV)			

【プロセス名】sp 季報放出管理目標値比較液体			
【内容】 放出管理目標値との比較(液体廃棄物)データを返す。			
【パラメータ】			
	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。
3	@nucType	tinyint	取得するデータの種類。 =1: ^3H , ^{14}C 以外の核種の総量欄データ =2: ^3H , ^{14}C 以外の核種で報告指定されている核種のデータ =3: ^3H , ^{14}C のデータ
【返値(フィールド名)】 核種, 分子量表記, 元素表記, 放出管理目標値, 四半期放出量, 年度合計放出量, 比率			

【呼び出し元】

(レポート) rep 液体廃棄物放出管理目標値比較, rsubHC 以外核種放出管理目標値比較,
rsubHC 放出管理目標値比較

(標準モジュール) basOutCSVFormat(makeCompareLimitOnLiquidCSV)

4.7 放射線管理季報データ表示用処理**【プロシージャ名】 sp 季報データ放出塵埃施設リスト****【内容】**

放出塵埃記録で報告されている施設リストを返す。

【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。

【返値(フィールド名)】

施設コード, 施設名, 塵埃記載順

【呼び出し元】

(フォーム) frm 季報データ放出塵埃

【プロシージャ名】 sp 季報データ放出塵埃**【内容】**

放出塵埃記録データを返す。

【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。
3	@exhaustCode	smallint	データを取得する施設の排気口コード。

【返値(フィールド名)】

最大濃度 1DL 未満, 最大濃度 1, 最大濃度 2DL 未満, 最大濃度 2, 最大濃度 3DL 未満, 最大濃度 3,
四半期最大濃度 DL 未満, 四半期最大濃度, 年間最大濃度 DL 未満, 年間最大濃度, 平均濃度 1DL 未満,
平均濃度 1, 平均濃度 2DL 未満, 平均濃度 2, 平均濃度 3DL 未満, 平均濃度 3, 四半期平均濃度 DL 未満,
四半期平均濃度, 年間平均濃度 DL 未満, 年間平均濃度, 放出量 1, 放出量 2, 放出量 3, 四半期放出量,
年間放出量, 値手動補正, 核種

【呼び出し元】

(フォーム) fsub 季報データ放出塵埃

【プロシージャ名】 sp 季報データ放出ガス施設リスト**【内容】**

放出ガス記録で報告されている施設リストを返す。

【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。

【返値(フィールド名)】

施設コード, 施設名, 塵埃記載順

【呼び出し元】

(フォーム) frm 季報データ放出ガス

【プロシージャ名】sp 季報データ放出ガス			
【内容】			
放出塵埃記録データを返す。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。
3	@exhaustCode	smallint	データを取得する施設の排気口コード。
【返値(フィールド名)】			
最大濃度 1DL 未満, 最大濃度 1, 最大濃度 2DL 未満, 最大濃度 2, 最大濃度 3DL 未満, 最大濃度 3, 四半期最大濃度 DL 未満, 四半期最大濃度, 年間最大濃度 DL 未満, 年間最大濃度, 平均濃度 1DL 未満, 平均濃度 1, 平均濃度 2DL 未満, 平均濃度 2, 平均濃度 3DL 未満, 平均濃度 3, 四半期平均濃度 DL 未満, 四半期平均濃度, 年間平均濃度 DL 未満, 年間平均濃度, 放出量 1, 放出量 2, 放出量 3, 四半期放出量, 年間放出量, 値手動補正, 核種			
【呼び出し元】			
(フォーム) fsub 季報データ放出ガス			

【プロシージャ名】sp 季報データ放出廃液施設リスト			
【内容】			
(施設毎)放出廃液記録で報告されている施設リストを返す。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。
【返値(フィールド名)】			
施設コード, 施設名, 廃液記載順			
【呼び出し元】			
(フォーム) frm 季報データ施設毎放出廃液			

【プロシージャ名】sp 季報データ施設毎廃液量			
【内容】			
放出廃液記録の施設毎の廃液量データを返す。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。
3	@facilityCode	smallint	データを取得する施設の施設コード。
【返値(フィールド名)】			
廃液量 1, 廃液量 2, 廃液量 3, 四半期廃液量, 年間廃液量, 値手動補正			
【呼び出し元】			
(フォーム) fsub 季報データ施設毎廃液量			

【プロシージャ名】sp 季報データ施設毎廃液記録			
【内容】			
(施設毎)放出廃液記録データを返す。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。
3	@facilityCode	smallint	データを取得する施設の施設コード。

【返値(フィールド名)】 核種, 検出状態, 平均濃度 1, 平均濃度 2, 平均濃度 3, 四半期平均濃度, 年間平均濃度, 放出量 1, 放出量 2, 放出量 3, 四半期放出量, 年間放出量, 値手動補正			
【呼び出し元】 (フォーム) fsub 季報データ施設毎廃液記録			

【プロシージャ名】sp 季報データ排水溝毎廃液量			
【内容】 放出廃液記録の排水溝毎の廃液量データを返す。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。
3	@sewerNo	smallint	データを取得する排水溝。
【返値(フィールド名)】 廃液量 1, 廃液量 2, 廃液量 3, 四半期廃液量, 年間廃液量, 値手動補正			
【呼び出し元】 (フォーム) fsub 季報データ排水溝毎廃液量			

【プロシージャ名】sp 季報データ排水溝毎廃液記録			
【内容】 (排水溝毎)放出廃液記録データを返す。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。
3	@sewerNo	smallint	データを取得する排水溝。
【返値(フィールド名)】 核種, 検出状態, 一日平均最大 1, 一日平均最大 2, 一日平均最大 3, 四半期一日平均最大, 年間一日平均最大, 平均濃度 1, 平均濃度 2, 平均濃度 3, 四半期平均濃度, 年間平均濃度, 放出量 1, 放出量 2, 放出量 3, 四半期放出量, 年間放出量, 値手動補正			
【呼び出し元】 (フォーム) fsub 季報データ排水溝毎廃液記録			

【プロシージャ名】sp 季報データ放出塵埃 Sr 分析			
【内容】 放出塵埃中の Sr 分析結果データを返す。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。
【返値(フィールド名)】 施設名, 排気口名表記, 平均濃度 89SrDL 未満, 平均濃度 89Sr, 平均濃度 90SrDL 未満, 平均濃度 90Sr, 放出量 89Sr, 放出量 90Sr, 年間平均濃度 89SrDL 未満, 年間平均濃度 89Sr, 年間平均濃度 90SrDL 未満, 年間平均濃度 90Sr, 年間放出量 89Sr, 年間放出量 90Sr, 値手動補正			
【呼び出し元】 (フォーム) fsub 季報データ放出塵埃 Sr 分析			

【プロシージャ名】sp 季報データ放出廃液 Sr 分析施設毎			
【内容】 指定した排水溝に属する施設の放出廃液中の Sr 分析結果データを返す。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。
3	@sewerNo	int	データを取得する施設が属する排水溝。
【返値(フィールド名)】 施設名, 一般排水なし, 平均濃度 89SrDL 未満, 平均濃度 89Sr, 平均濃度 90SrDL 未満, 平均濃度 90Sr, 放出量 89Sr, 放出量 90Sr, 廃液量, 年間平均濃度 89SrDL 未満, 年間平均濃度 89Sr, 年間平均濃度 90SrDL 未満, 年間平均濃度 90Sr, 年間放出量 89Sr, 年間放出量 90Sr, 年間廃液量, 値手動補正			
【呼び出し元】 (フォーム) fsub 季報データ放出廃液 Sr 分析施設毎			

【プロシージャ名】sp 季報データ放出廃液 Sr 分析排水溝計			
【内容】 放出廃液中の Sr 分析結果の排水溝合計を返す。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。
3	@sewerNo	int	データを取得する排水溝。
【返値(フィールド名)】 排水溝, 平均濃度 89Sr, 平均濃度 90Sr, 放出量 89Sr, 放出量 90Sr, 廃液量, 年間平均濃度 89Sr, 年間平均濃度 90Sr, 年間放出量 89Sr, 年間放出量 90Sr, 年間廃液量, 値手動補正			
【呼び出し元】 (フォーム) fsub 季報データ放出廃液 Sr 分析排水溝計			

【プロシージャ名】sp 季報補正データ放出塵埃			
【内容】 値が手動補正されている放出塵埃記録データを返す。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。
【返値(フィールド名)】 施設名, 排気口名, 同施設内順, 核種, 最大濃度 1DL 未満, 最大濃度 1, 最大濃度 2DL 未満, 最大濃度 2, 最大濃度 3DL 未満, 最大濃度 3, 四半期最大濃度 DL 未満, 四半期最大濃度, 年間最大濃度 DL 未満, 年間最大濃度, 平均濃度 1DL 未満, 平均濃度 1, 平均濃度 2DL 未満, 平均濃度 2, 平均濃度 3DL 未満, 平均濃度 3, 四半期平均濃度 DL 未満, 四半期平均濃度, 年間平均濃度 DL 未満, 年間平均濃度, 放出量 1, 放出量 2, 放出量 3, 四半期放出量, 年間放出量, 値手動補正			
【呼び出し元】 (レポート) rep 補正データ放出塵埃			

【プロシージャ名】sp 季報補正データ放出ガス			
【内容】 値が手動補正されている放出塵埃記録データを返す。			

【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。
【返値(フィールド名)】 施設名, 排気口名, 同施設内順, 核種, 採取期間, 最大濃度 1DL 未満, 最大濃度 1, 最大濃度 2DL 未満, 最大濃度 2, 最大濃度 3DL 未満, 最大濃度 3, 四半期最大濃度 DL 未満, 四半期最大濃度, 年間最大濃度 DL 未満, 年間最大濃度, 平均濃度 1DL 未満, 平均濃度 1, 平均濃度 2DL 未満, 平均濃度 2, 平均濃度 3DL 未満, 平均濃度 3, 四半期平均濃度 DL 未満, 四半期平均濃度, 年間平均濃度 DL 未満, 年間平均濃度, 放出量 1, 放出量 2, 放出量 3, 四半期放出量, 年間放出量, 値手動補正			
【呼び出し元】 (レポート) rep 補正データ放出ガス			

【プロシージャ名】sp 季報補正データ施設毎廃液量			
【内容】 値が手動補正されている放出廃液記録の施設毎の廃液量データを返す。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。
【返値(フィールド名)】 施設名, 廃液量 1, 廃液量 2, 廃液量 3, 四半期廃液量, 年間廃液量, 値手動補正			
【呼び出し元】 (レポート) rsub 補正データ施設毎放出廃液量			

【プロシージャ名】sp 季報補正データ施設毎廃液記録			
【内容】 値が手動補正されている(施設毎)放出廃液記録データを返す。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。
【返値(フィールド名)】 施設名, 核種, 検出状態, 平均濃度 1, 平均濃度 2, 平均濃度 3, 四半期平均濃度, 年間平均濃度, 放出量 1, 放出量 2, 放出量 3, 四半期放出量, 年間放出量, 値手動補正			
【呼び出し元】 (レポート) rsub 補正データ施設毎放出廃液記録			

【プロシージャ名】sp 季報補正データ排水溝毎廃液量			
【内容】 値が手動補正されている放出廃液記録の排水溝毎の廃液量データを返す。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。
【返値(フィールド名)】 排水溝, 廃液量 1, 廃液量 2, 廃液量 3, 四半期廃液量, 年間廃液量, 値手動補正			
【呼び出し元】 (レポート) rsub 補正データ排水溝毎放出廃液量			

【プロシージャ名】sp 季報補正データ排水溝毎廃液記録			
【内容】 値が手動補正されている(排水溝毎)放出廃液記録データを返す。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。
【返値(フィールド名)】 排水溝, 核種, 検出状態, 一日平均最大 1, 一日平均最大 2, 一日平均最大 3, 四半期一日平均最大, 年間一日平均最大, 平均濃度 1, 平均濃度 2, 平均濃度 3, 四半期平均濃度, 年間平均濃度, 放出量 1, 放出量 2, 放出量 3, 四半期放出量, 年間放出量, 値手動補正			
【呼び出し元】 (レポート) rsub 補正データ排水溝毎放出廃液記録			

【プロシージャ名】sp 季報補正データ放出塵埃 Sr 分析			
【内容】 値が手動補正されている放出塵埃中の Sr 分析結果データを返す。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。
【返値(フィールド名)】 施設名, 排気口名, 同施設内順, 平均濃度 89SrDL 未満, 平均濃度 89Sr, 平均濃度 90SrDL 未満, 平均濃度 90Sr, 放出量 89Sr, 放出量 90Sr, 年間平均濃度 89SrDL 未満, 年間平均濃度 89Sr, 年間平均濃度 90SrDL 未満, 年間平均濃度 90Sr, 年間放出量 89Sr, 年間放出量 90Sr, 値手動補正			
【呼び出し元】 (レポート) rep 補正データ放出塵埃 Sr 分析			

【プロシージャ名】sp 季報補正データ放出廃液 Sr 分析施設毎			
【内容】 値が手動補正されている放出廃液中の Sr 分析結果データを返す。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。
【返値(フィールド名)】 排水溝, 施設名, 一般排水なし, 平均濃度 89SrDL 未満, 平均濃度 89Sr, 平均濃度 90SrDL 未満, 平均濃度 90Sr, 放出量 89Sr, 放出量 90Sr, 廃液量, 年間平均濃度 89SrDL 未満, 年間平均濃度 89Sr, 年間平均濃度 90SrDL 未満, 年間平均濃度 90Sr, 年間放出量 89Sr, 年間放出量 90Sr, 年間廃液量, 値手動補正			
【呼び出し元】 (レポート) rsub 補正データ放出廃液 Sr 分析施設毎			

【プロシージャ名】sp 季報補正データ放出廃液 Sr 分析排水溝計			
【内容】 値が手動補正されている放出廃液中の Sr 分析結果の排水溝合計を返す。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。

【返値(フィールド名)】 排水溝, 平均濃度 89Sr, 平均濃度 90Sr, 放出量 89Sr, 放出量 90Sr, 廃液量, 年間平均濃度 89Sr, 年間平均濃度 90Sr, 年間放出量 89Sr, 年間放出量 90Sr, 年間廃液量, 値手動補正
【呼び出し元】 (レポート) rsub 補正データ放出廃液 Sr 分析排水溝計

4.8 放射線管理季報データ作成処理

【プロセス名】 sp 季報作成_放出塵埃			
【内容】 放出塵埃記録データを作成する。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを作成する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを作成する報告四半期。
3	@reportDate1	datetime	報告四半期内第1月の報告年月。
4	@reportDate2	datetime	報告四半期内第2月の報告年月。
5	@reportDate3	datetime	報告四半期内第3月の報告年月。
6	@startDay	datetime	データ取得対象期間の開始日。
7	@endDay	datetime	データ取得対象期間の終了日。
【返値(フィールド名)】 (実行時の警告・エラーメッセージのテーブル) msgNo, プロシージャ名, メッセージ, 処理方法			
【呼び出し元】 (フォーム) frm 季報作成			

【プロセス名】 sp 季報作成_年間処理塵埃			
【内容】 放出塵埃記録の年間処理データを作成する。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@startDay	datetime	データ取得対象期間の開始日。(通常、年度開始日)
2	@endDay	datetime	データ取得対象期間の終了日。(通常、年度終了日)
3	@exhaustCode	int	データを処理する施設の排気口コード。
4	@nuclideCode	int	データを処理する核種の核種コード。
5	@yearExVolume	real	データ作成年度の年間排風量。
(OUTPUT)6	@maxCYs	bit	(出力)年間最大濃度 DL 未満
(OUTPUT)7	@maxCY	real	(出力)年間最大濃度
(OUTPUT)8	@avrCYs	bit	(出力)年間平均濃度 DL 未満
(OUTPUT)9	@avrCY	real	(出力)年間平均濃度
(OUTPUT)10	@emisY	real	(出力)年間放出量
【(プロセスの) 返値】 =0: 正常終了, =1: 0 除算例外が起きた。			
【呼び出し元】 (プロセス) sp 季報作成_放出塵埃			

【プロセス名】 sp 季報作成_放出ガス			
【内容】 放出ガス記録データを作成する。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容

1	@nendo	smallint	データを作成する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを作成する報告四半期。
3	@reportDate1	datetime	報告四半期内第1月の報告年月。
4	@reportDate2	datetime	報告四半期内第2月の報告年月。
5	@reportDate3	datetime	報告四半期内第3月の報告年月。
6	@startDay	datetime	データ取得対象期間の開始日。
7	@endDay	datetime	データ取得対象期間の終了日。
【返値(フィールド名)】(実行時の警告・エラーメッセージのテーブル)			
msgNo, プロシージャ名, メッセージ, 処理方法			
【呼び出し元】			
(フォーム) frm 季報作成			

【プロシージャ名】sp 季報作成_年間処理ガス			
【内容】			
放出ガス記録の年間処理データを作成する。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@startDay	datetime	データ取得対象期間の開始日。(通常、年度開始日)
2	@endDay	datetime	データ取得対象期間の終了日。(通常、年度終了日)
3	@exhaustCode	int	データを処理する施設の排気口コード。
4	@nuclideCode	int	データを処理する核種の核種コード。
5	@yearExVolume	real	データ作成年度の年間排風量。
(OUTPUT)6	@maxCYs	bit	(出力)年間最大濃度 DL 未満
(OUTPUT)7	@maxCY	real	(出力)年間最大濃度
(OUTPUT)8	@avrCYs	bit	(出力)年間平均濃度 DL 未満
(OUTPUT)9	@avrCY	real	(出力)年間平均濃度
(OUTPUT)10	@emisY	real	(出力)年間放出量
【(プロシージャの)返値】			
=0: 正常終了, =1: 0 除算例外が起きた。			
【呼び出し元】			
(プロシージャ) sp 季報作成_放出ガス			

【プロシージャ名】sp 季報作成_四半期排風量			
【内容】			
指定四半期・排気口の四半期排風量を求める。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@dustOrGas	smallint	=1: 放出塵埃記録用 =2: 放出ガス記録用。
2	@reportDate1	datetime	報告四半期内第1月の報告年月。
3	@reportDate2	datetime	報告四半期内第2月の報告年月。
4	@reportDate3	datetime	報告四半期内第3月の報告年月。
5	@exhaustCode	int	排風量を求める排気口の排気口コード。
6	@nuclideCode	int	核種別の排風量用(特殊設定排気率の場合)の核種コード。
(OUTPUT)7	@exVolume	real	(出力)四半期の排風量。
【返値(フィールド名)】			
なし			
【呼び出し元】			
(プロシージャ) sp 季報作成_放出塵埃, sp 季報作成_放出ガス			

【プロシージャ名】sp 季報作成_年間排風量			
【内容】 指定四半期・排気口の年間の排風量を求める。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@dustOrGas	smallint	=1：放出塵埃記録用 =2：放出ガス記録用。
2	@nendo	smallint	データを処理する報告年度。
3	@exhaustCode	int	排風量を求める排気口の排気口コード。
4	@nuclideCode	int	核種別の排風量用(特殊設定排気率の場合)の核種コード。
(OUTPUT)5	@exVolume	real	(出力)年間の排風量。
【返値(フィールド名)】 なし			
【呼び出し元】 (プロシージャ) sp 季報作成_放出塵埃, sp 季報作成_放出ガス, sp 季報作成_放出塵埃 Sr 分析			

【プロシージャ名】sp 季報作成_放出廃液			
【内容】 放出廃液記録データを作成する。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを作成する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを作成する報告四半期。
3	@reportDate1	datetime	報告四半期内第1月の報告年月。
4	@reportDate2	datetime	報告四半期内第2月の報告年月。
5	@reportDate3	datetime	報告四半期内第3月の報告年月。
6	@startDay	datetime	データ取得対象期間の開始日。
7	@endDay	datetime	データ取得対象期間の終了日。
【返値(フィールド名)】 (実行時の警告・エラーメッセージのテーブル) msgNo, プロシージャ名, メッセージ, 処理方法			
【呼び出し元】 (フォーム) frm 季報作成			

【プロシージャ名】sp 季報作成_施設毎廃液量			
【内容】 放出廃液記録の施設毎の廃液量データを作成する。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを作成する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを作成する報告四半期。
3	@reportDate1	datetime	報告四半期内第1月の報告年月。
4	@reportDate2	datetime	報告四半期内第2月の報告年月。
5	@reportDate3	datetime	報告四半期内第3月の報告年月。
6	@facilityCode	int	データを作成する施設の施設コード。
7	@sewerNo	smallint	データを作成する施設が属する排水溝。
(OUTPUT)8	@volume1	real	(出力)報告四半期内第1月の廃液量。
(OUTPUT)9	@volume2	real	(出力)報告四半期内第2月の廃液量。
(OUTPUT)10	@volume3	real	(出力)報告四半期内第3月の廃液量。
(OUTPUT)11	@volumeQ	real	(出力)報告四半期の廃液量合計。

(OUTPUT)12	@volumeY	real	(出力)報告年度の廃液量合計。
【返値(フィールド名)】 なし			
【呼び出し元】 (プロシージャ) sp 季報作成_放出廃液			

【プロシージャ名】 sp 季報作成_施設毎廃液記録			
【内容】 (施設毎)放出廃液記録のデータを作成する。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを作成する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを作成する報告四半期。
3	@reportDate1	datetime	報告四半期内第1月の報告年月。
4	@reportDate2	datetime	報告四半期内第2月の報告年月。
5	@reportDate3	datetime	報告四半期内第3月の報告年月。
6	@startDay	datetime	データ取得対象期間の開始日。
7	@endDay	datetime	データ取得対象期間の終了日。
8	@facilityCode	int	データを作成する施設の施設コード。
9	@sewerNo	smallint	データを作成する施設が属する排水溝。
10	@volume1	real	報告四半期内第1月の廃液量。
11	@volume2	real	報告四半期内第2月の廃液量。
12	@volume3	real	報告四半期内第3月の廃液量。
13	@volumeQ	real	報告四半期の廃液量合計。
14	@volumeY	real	報告年度の廃液量合計。
【返値(フィールド名)】 なし			
【呼び出し元】 (プロシージャ) sp 季報作成_放出廃液			

【プロシージャ名】 sp 季報作成_所外施設廃液記録			
【内容】 (施設毎)放出廃液記録の東海研究所以外の施設に関するデータを作成する。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを作成する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを作成する報告四半期。
3	@reportDate1	datetime	報告四半期内第1月の報告年月。
4	@reportDate2	datetime	報告四半期内第2月の報告年月。
5	@reportDate3	datetime	報告四半期内第3月の報告年月。
6	@startDay	datetime	データ取得対象期間の開始日。
7	@endDay	datetime	データ取得対象期間の終了日。
8	@facilityCode	int	データを作成する施設の施設コード。
9	@sewerNo	smallint	データを作成する施設が属する排水溝。
10	@volume1	real	報告四半期内第1月の廃液量。
11	@volume2	real	報告四半期内第2月の廃液量。
12	@volume3	real	報告四半期内第3月の廃液量。
13	@volumeQ	real	報告四半期の廃液量合計。

14	@volumeY	real	報告年度の廃液量合計。
【返値(フィールド名)】 なし			
【呼び出し元】 (プロシージャ) sp 季報作成_放出廃液			

【プロシージャ名】sp 季報作成_排水溝毎廃液量			
【内容】 放出廃液記録の排水溝毎の廃液量データを作成する。			
【パラメータ】			
	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを作成する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを作成する報告四半期。
【返値(フィールド名)】 なし			
【呼び出し元】 (プロシージャ) sp 季報作成_放出廃液			

【プロシージャ名】sp 季報作成_排水溝毎廃液記録			
【内容】 (排水溝毎)放出廃液記録のデータを作成する。			
【パラメータ】			
	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを作成する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを作成する報告四半期。
3	@reportDate1	datetime	報告四半期内第1月の報告年月。
4	@reportDate2	datetime	報告四半期内第2月の報告年月。
5	@reportDate3	datetime	報告四半期内第3月の報告年月。
6	@startDay	datetime	データ取得対象期間の開始日。
7	@endDay	datetime	データ取得対象期間の終了日。
【返値(フィールド名)】 なし			
【呼び出し元】 (プロシージャ) sp 季報作成_放出廃液			

【プロシージャ名】sp 季報作成_廃液記録一日平均最大			
【内容】 一般排水における一日の平均濃度を作成し、(排水溝毎)放出廃液記録の一日平均最大データを作成する。			
【パラメータ】			
	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを作成する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを作成する報告四半期。
3	@reportDate1	datetime	報告四半期内第1月の報告年月。
4	@reportDate2	datetime	報告四半期内第2月の報告年月。
5	@reportDate3	datetime	報告四半期内第3月の報告年月。
6	@startDay	datetime	データ取得対象期間の開始日。
7	@endDay	datetime	データ取得対象期間の終了日。
【返値(フィールド名)】 なし			

【呼び出し元】 (プロシージャ) sp 季報作成_放出廃液

【プロシージャ名】 sp 季報作成_放出塵埃 Sr 分析			
【内容】 放出塵埃中の Sr 分析結果データを作成する。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを作成する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを作成する報告四半期。
【返値(フィールド名)】 (実行時の警告・エラーメッセージのテーブル) msgNo, プロシージャ名, メッセージ, 処理方法			
【呼び出し元】 (フォーム) frm 季報作成			

【プロシージャ名】 sp 季報作成_放出廃液 Sr 分析			
【内容】 放出廃液中の Sr 分析結果データを作成する。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを作成する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを作成する報告四半期。
3	@reportDate1	datetime	報告四半期内第 1 月の報告年月。
4	@reportDate2	datetime	報告四半期内第 2 月の報告年月。
5	@reportDate3	datetime	報告四半期内第 3 月の報告年月。
6	@startDay	datetime	データ取得対象期間の開始日。
7	@endDay	datetime	データ取得対象期間の終了日。
【返値(フィールド名)】 (実行時の警告・エラーメッセージのテーブル) msgNo, プロシージャ名, メッセージ, 処理方法			
【呼び出し元】 (フォーム) frm 季報作成			

【プロシージャ名】 sp 季報作成_放出管理目標値気体			
【内容】 放出管理目標値との比較(気体廃棄物)データを作成する。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを作成する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを作成する報告四半期。
【返値(フィールド名)】 (実行時の警告・エラーメッセージのテーブル) msgNo, プロシージャ名, メッセージ, 処理方法			
【呼び出し元】 (フォーム) frm 季報作成			

【プロシージャ名】 sp 季報作成_放出管理目標値液体			
【内容】 放出管理目標値との比較(液体廃棄物)データを作成する。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを作成する報告年度。

2	@quarter	smallint	データを作成する報告四半期。
【返値(フィールド名)】(実行時の警告・エラーメッセージのテーブル) msgNo, プロシージャ名, メッセージ, 処理方法			
【呼び出し元】 (フォーム) frm 季報作成			

【プロシージャ名】sp 季報作成_液体実効線量係数			
【内容】 指定核種の液体廃棄物による実効線量当量計算用係数を取得する。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	実効線量係数を使用する報告年度。
2	@quarter	smallint	実効線量係数を使用する報告四半期。
3	@nuclideCode	int	実効線量係数を取得する核種の核種コード。
(OUTPUT)4	@doseCoef	real	(出力) 液体廃棄物による実効線量当量計算用係数。
【返値(フィールド名)】 なし			
【呼び出し元】 (プロシージャ) sp 季報作成_放出管理目標値液体			

4.9 県協定に基づく関係報告処理

【プロシージャ名】sp 排気中放射性核種データ作成情報			
【内容】 排気中の放射性核種に関する各データ (放出塵埃記録・放出ガス記録および排気中放射性核種分析結果) の作成状況を調べる。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	調べる報告年度。
2	@quarter	smallint	調べる報告四半期。
【返値(フィールド名)】 塵埃記録データ数, ガス記録データ数, 分析結果データ数			
【呼び出し元】 (フォーム) frm 排気中放射性核種			

【プロシージャ名】sp 排気中放射性核種分析結果作成			
【内容】 排気中の放射性核種の分析結果データを作成する。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを作成する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを作成する報告四半期。
【返値(フィールド名)】(実行時の警告・エラーメッセージのテーブル) msgNo, プロシージャ名, メッセージ, 処理方法			
【呼び出し元】 (フォーム) frm 排気中放射性核種			

【プロシージャ名】sp 四半期内各月排気率取得			
【内容】 指定された四半期・排気口の四半期内各月の排気率を取得する。			

【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。
3	@exhaustCode	int	データを取得する施設の排気口コード。
4	@isDustData	bit	特殊設定排気率の場合用。=0：塵埃用／=1：ガス用。
5	@nuclideCode	int	核種別の特殊設定排気率の場合用。核種コードを与える。
(OUTPUT)6	@exRate1	real	(出力) 四半期内第1月の排気率。
(OUTPUT)7	@exRate2	real	(出力) 四半期内第2月の排気率。
(OUTPUT)8	@exRate3	real	(出力) 四半期内第3月の排気率。
【返値(フィールド名)】			
なし			
【呼び出し元】			
(プロシージャ) sp 排気中放射性核種最高濃度更新, sp 排気中放射性核種分析結果作成,			

【プロシージャ名】sp 排気中放射性主要核種			
【内容】			
排気中の放射性核種（主要核種）の分析結果データを取得する。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。
【返値(フィールド名)】			
排気口コード, 施設名, 施設名表記, 最高濃度1, 最高濃度2, 最高濃度3, 平均濃度1, 平均濃度2, 平均濃度3, 四半期平均濃度, 実測分放出量1, 実測分放出量2, 実測分放出量3, 四半期実測分放出量, 不検出分放出量1, 不検出分放出量2, 不検出分放出量3, 四半期不検出分放出量, 核種コード, 核種, 分子量表記, 元素表記, 検出下限濃度最小値, 検出下限濃度最大値, 放射性核種種類			
【呼び出し元】			
(フォーム) fsub 排気中放射性主要核種			
(レポート) rep 排気中放射性主要核種			

【プロシージャ名】sp 排気中放射性その他核種			
【内容】			
排気中の放射性核種（その他の核種）の分析結果データを取得する。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。
【返値(フィールド名)】			
排気口コード, 施設名, 施設名表記, 最高濃度1, 最高濃度2, 最高濃度3, 平均濃度1, 平均濃度2, 平均濃度3, 四半期平均濃度, 実測分放出量1, 実測分放出量2, 実測分放出量3, 四半期実測分放出量, 不検出分放出量1, 不検出分放出量2, 不検出分放出量3, 四半期不検出分放出量, 核種コード, 核種, 分子量表記, 元素表記, 検出下限濃度最小値, 検出下限濃度最大値			
【呼び出し元】			
(フォーム) fsub 排気中放射性その他核種			
(レポート) rep 排気中放射性その他核種			

【プロシージャ名】 sp 排気中全 β DL 範囲			
【内容】 排気中の放射性核種に現れた「全 β 」の検出下限濃度値の範囲を取得する。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。
【返値(フィールド名)】 排気ロコード, 施設名, 施設名表記, 検出下限濃度最小値, 検出下限濃度最大値			
【呼び出し元】 (フォーム) fsub 排気中全 β DL 範囲 (レポート) rep 排気中全 β 四半期毎 DL 範囲			

【プロシージャ名】 sp 排気中放射性核種最高濃度用			
【内容】 排気中の放射性核種分析結果データの1項目である最高濃度計算用の値を取得する。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。
【返値(フィールド名)】 報告年度, 報告四半期, 排気ロコード, 核種コード, 出現気体種類, 一日最大放出量 1, 当該日不検出量 1, 一日最大放出量 2, 当該日不検出量 2, 一日最大放出量 3, 当該日不検出量 3			
【呼び出し元】 (フォーム) fsub 排気中放射性核種最高濃度用			

【プロシージャ名】 sp 排気中放射性核種最高濃度更新			
【内容】 排気中の放射性核種分析結果データの最高濃度の値を更新する。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを更新する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを更新する報告四半期。
【返値(フィールド名)】 (実行時の警告・エラーメッセージのテーブル) msgNo, プロシージャ名, メッセージ, 処理方法			
【呼び出し元】 (フォーム) frm 排気中放射性核種			

【プロシージャ名】 sp 排水中放射性主要核種分析結果作成			
【内容】 排水中の放射性核種(主要核種)の分析結果データを作成する。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを作成する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを作成する報告四半期。
【返値(フィールド名)】 作成データ数			
【呼び出し元】 (フォーム) frm 排水中放射性核種			

【プロシージャ名】sp 排水中放射性主要核種			
【内容】 排水中の放射性核種（主要核種）の分析結果データを取得する。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。
【返値(フィールド名)】 排水溝, 平均濃度 1, 平均濃度 2, 平均濃度 3, 四半期平均濃度, 検出放出量 1, 検出放出量 2, 検出放出量 3, 四半期検出放出量, 不検出分放出量 1, 不検出分放出量 2, 不検出分放出量 3, 四半期不検出分放出量, 核種コード, 核種, 分子量表記, 元素表記, 検出下限濃度最小値, 検出下限濃度最大値			
【呼び出し元】 (フォーム) fsub 排水中放射性主要核種 (レポート) rsub 排水中放射性主要核種			

【プロシージャ名】sp 排水中放射性その他核種			
【内容】 排水中の放射性核種（その他の核種）の分析結果データを取得する。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。
【返値(フィールド名)】 排水溝, 平均濃度 1, 平均濃度 2, 平均濃度 3, 四半期平均濃度, [第 1 月放出量(MBq)], [第 2 月放出量(MBq)], [第 3 月放出量(MBq)], [四半期計(MBq)], 検出下限濃度最小値, 検出下限濃度最大値, 核種, 分子量表記, 元素表記			
【呼び出し元】 (フォーム) fsub 排水中放射性その他核種 (レポート) rsub 排水中放射性その他核種			

【プロシージャ名】sp 排水中放射性核種リスト			
【内容】 排水中の放射性核種分析結果データで報告のある核種のリストを返す。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。
3	@sewerNo	smallint	データを取得する排水溝。
【返値(フィールド名)】 核種コード, 核種			
【呼び出し元】 (フォーム) frm 排水中放射性核種			

【プロシージャ名】sp 排水中放射性核種放出施設リスト			
【内容】 排水中の放射性核種分析結果データで指定した核種の放出報告のある施設のリストを返す。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。

2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。
3	@sewerNo	smallint	データを取得する排水溝。
4	@nuclideCode	int	データを取得する核種の核種コード。
【返値(フィールド名)】 施設コード, 施設名			
【呼び出し元】 (フォーム) frm 排水中放射性核種			

【プロシージャ名】sp 液体廃棄物年間放出量			
【内容】 放射性液体廃棄物の年間放出量データを取得する。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@sewerNo	smallint	データを取得する排水溝。ただし、便宜上以下の値も取る。 (通常)=1~3: 指定排水溝のデータを返す。 =0: 全排水溝分のデータを返す。 =それ以外: 核種毎に集計した放出量計を返す。
【返値(フィールド名)】 核種, 実測分, 不検出分, 核種コード, 分子量表記, 元素表記, 排水溝			
【呼び出し元】 (フォーム) fsub 液体廃棄物年間放出量 (レポート) rep 液体廃棄物核種毎年間放出量, rep 液体廃棄物排水溝毎年間放出量			

4.10 放射線管理等報告処理

【プロシージャ名】sp 放射線管理等報告気体主核種設定			
【内容】 放射線管理等報告(気体)の設定である報告排気筒およびその主核種データを(ソートして)取得する。			
【パラメータ】 なし			
【返値(フィールド名)】 排気口コード, 気体種類, 注記載, 核種コード			
【呼び出し元】 (フォーム) frm 放射線管理等報告気体主核種設定			

【プロシージャ名】sp 放射線管理等報告気体データ作成			
【内容】 放射線管理等報告(気体)のデータを作成する。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを作成する報告年度。
2	@quarter1	smallint	データを作成する報告四半期 (前半)。
3	@quarter2	smallint	データを作成する報告四半期 (後半)。
【返値(フィールド名)】 (実行時の警告・エラーメッセージのテーブル) msgNo, プロシージャ名, メッセージ, 処理方法			
【呼び出し元】 (フォーム) frm 放射線管理等報告書			

【呼び出し元】

(レポート) rsub 放射線管理等報告施設 1, rsub 放射線管理等報告施設 2, rsub 放射線管理等報告施設 3,

rsub 放射線管理等報告別添施設 A1, rsub 放射線管理等報告別添施設 A2,
rsub 放射線管理等報告別添施設 B1, rsub 放射線管理等報告別添施設 B2

【プロシージャ名】 sp 放射線管理等報告データ**【内容】**

放射線管理等報告書(気体)のデータを取得する。

【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter1	smallint	データを取得する報告四半期 (前半)。
3	@quarter2	smallint	データを取得する報告四半期 (後半)。
4	@exhaustCode	smallint	データを取得する排気筒の排気口コード。

【返値(フィールド名)】

排気口コード, 気体種類, 注記載, 平均濃度 1DL 未満, 平均濃度 1, 最大濃度 1DL 未満, 最大濃度 1,
平均濃度 2DL 未満, 平均濃度 2, 最大濃度 2DL 未満, 最大濃度 2

【呼び出し元】

(レポート) rsub 放射線管理等報告データ 1, rsub 放射線管理等報告データ 2

【プロシージャ名】 sp 放射線管理等報告排水溝**【内容】**

放射線管理等報告書(排水溝)のデータを取得する。

【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter1	smallint	データを取得する報告四半期 (前半)。
3	@quarter2	smallint	データを取得する報告四半期 (後半)。

【返値(フィールド名)】

排水溝, 核種コード, 報告四半期,
平均濃度 DL 未満, 平均濃度, 平均濃度注表示, 最大濃度 DL 未満, 最大濃度, 最大濃度注表示

【呼び出し元】

(レポート) rep 放射線管理等報告排水溝

【プロシージャ名】 sp 放射線管理等報告別添データ**【内容】**

放射線管理等報告書の別添データ(排気筒分)を取得する。

【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter1	smallint	データを取得する報告四半期 (前半)。
3	@quarter2	smallint	データを取得する報告四半期 (後半)。
4	@exhaustCode	smallint	データを取得する排気筒の排気口コード。

【返値(フィールド名)】

排気口コード, 気体種類, 核種コード, 分子量表記, 元素表記, 濃度限度値

【呼び出し元】

(レポート) rsub 放射線管理等報告別添データ A1, rsub 放射線管理等報告別添データ A2

【プロシージャ名】sp 放射線管理等報告排水溝データ作成			
【内容】 放射線管理等報告(排水溝)のデータを作成する。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを作成する報告年度。
2	@quarter1	smallint	データを作成する報告四半期 (前半)。
3	@quarter2	smallint	データを作成する報告四半期 (後半)。
【返値(フィールド名)】 (実行時の警告・エラーメッセージのテーブル) msgNo, プロシージャ名, メッセージ, 処理方法			
【呼び出し元】 (フォーム) frm 放射線管理等報告書			

【プロシージャ名】sp 核種濃度限度値取得			
【内容】 放射線管理等報告書データ作成用に核種の濃度限度値データを取得し、パラメータで返す。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@isGus	bit	取得する濃度限度値。=1 : 気体 / =0 : 液体
2	@nuclideCode	int	濃度限度値を取得する核種の核種コード。
3	@nendo	smallint	処理しようとしているデータの報告年度。
4	@quarter	smallint	処理しようとしているデータの報告四半期。
(OUTPUT) 5	@conceLimit	real	(出力) 取得した濃度限度値。
【返値(フィールド名)】 なし			
【呼び出し元】 (プロシージャ) sp 放射線管理等報告気体データ作成, sp 放射線管理等報告排水溝データ作成			

【プロシージャ名】sp 放射線管理等報告施設			
【内容】 放射線管理等報告書で報告する排気筒(排気口)と、その排気筒が報告する気体種類の数(データ行数になる)を取得する。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@type	tinyint	=1 : 報告排気筒のうち放射性廃棄物処理場じゃない施設。 =2 : 報告排気筒のうち放射性廃棄物処理場の施設。 =3 : 気体種類も報告核種も空欄の施設 (解体中の施設など)。
2	@attached	tinyint	放射線管理等報告書の別添資料かどうか。 =0 : 通常の放射線管理等報告書。 =1 : 放射線管理等報告(別添)用である。 =2 : 限度比などを含む詳細の別添の場合用である。
3	@nendo	smallint	報告年度。@attached=1 の時に入力。
4	@quarter1	smallint	報告四半期 (前半)。@attached=1 の時に入力。
5	@quarter2	smallint	報告四半期 (後半)。@attached=1 の時に入力。
【返値(フィールド名)】 最小 ID, 排気口コード, 注記載 2, 排気口名表記, 報告行数			

【プロシージャ名】sp 放射線管理等報告別添詳細データ			
【内容】 放射線管理等報告書の限度比などを含む詳細な別添データ(排気筒分)を取得する。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter1	smallint	データを取得する報告四半期 (前半)。
3	@quarter2	smallint	データを取得する報告四半期 (後半)。
4	@exhaustCode	smallint	データを取得する排気筒の排気口コード。
【返値(フィールド名)】 気体種類, 核種コード, 分子量表記, 元素表記, 濃度限度値, 最大濃度 1, 限度比 1, 最大濃度 2, 限度比 2			
【呼び出し元】 (レポート) rsub 放射線管理等報告別添データ B1, rsub 放射線管理等報告別添データ B2			

【プロシージャ名】sp 放射線管理等報告別添排水溝			
【内容】 放射線管理等報告書の別添データ(排水溝分)を取得する。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter1	smallint	データを取得する報告四半期 (前半)。
3	@quarter2	smallint	データを取得する報告四半期 (後半)。
【返値(フィールド名)】 排水溝, トリチウム以外, 核種コード, 分子量表記, 元素表記, 濃度限度値, 最大検出下限濃度 1, 限度比 1, 最大検出下限濃度 2, 限度比 2			
【呼び出し元】 (レポート) rsub 放射線管理等報告別添排水溝 A, rsub 放射線管理等報告別添排水溝 B			

4.11 放射性廃棄物等管理報告処理

【プロシージャ名】sp 放射性気体廃棄物データ作成			
【内容】 放射性廃棄物等管理報告(気体廃棄物)のデータを作成する。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを作成する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを作成する報告四半期。ただし =5: 年間合計 とする。
【返値(フィールド名)】 (実行時の警告・エラーメッセージのテーブル) msgNo, プロシージャ名, メッセージ, 処理方法			
【呼び出し元】 (フォーム) frm 放射性廃棄物等管理報告書			

【プロシージャ名】sp 期間内排気率取得			
【内容】 指定四半期または指定年度一年間の排気率を決定する。四半期内各月あるいは年度内各月で与えられている排気率が違う場合は、一番重複件数の多い値を採用する。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。
3	@exhaustCode	int	データを取得する施設の排気口コード。

4	@isDustData	bit	既定値は Null。 特殊設定排気率の場合、=0：塵埃用／=1：ガス用。
5	@nuclideCode	int	既定値は Null。 核種別の特殊設定排気率の場合、核種コードを与える。
(OUTPUT)6	@exRate	real	(出力) 指定期間の排気率。
【返値(フィールド名)】			
なし			
【呼び出し元】			
(プロシージャ) sp 放射性気体廃棄物データ作成			

【プロシージャ名】 sp 放射性気体廃棄物			
【内容】			
放射性廃棄物等管理報告(気体廃棄物)のデータを取得する。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@type	tinyint	次の原子炉排気口のデータを取得する。 =1：稼働中の報告排気口で放射性廃棄物処理場じゃない施設。 =2：稼働中の報告排気口で放射性廃棄物処理場の施設。 =3：報告設定があるが稼働中じゃない施設（解体中の施設など）。
2	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
3	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。
【返値(フィールド名)】			
排気口名表記, 注記載, 全希ガス DL 未満, 全希ガス, Ar41DL 未満, Ar41, I131DL 未満, I131, 全粒子状物質 DL 未満, 全粒子状物質, H3DL 未満, H3, その他, 備考			
【呼び出し元】			
(レポート) rsub 放射性気体廃棄物放出量 1, rsub 放射性気体廃棄物放出量 2, rsub 放射性気体廃棄物放出量 3			

【プロシージャ名】 sp 放射性気体廃棄物原子炉施設合計			
【内容】			
放射性廃棄物等管理報告(気体廃棄物)の原子炉施設合計を求める。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを処理する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを処理する報告四半期。
【返値(フィールド名)】			
全希ガス DL 未満, 全希ガス, Ar41DL 未満, Ar41, I131DL 未満, I131, 全粒子状物質 DL 未満, 全粒子状物質, H3DL 未満, H3, その他			
【呼び出し元】			
(レポート) rep 放射性気体廃棄物放出量			

【プロシージャ名】 sp 放射性液体廃棄物データ作成			
【内容】			
放射性廃棄物等管理報告(液体廃棄物)のデータを作成する。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを作成する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを作成する報告四半期。ただし =5：年間合計 とする。

【返値(フィールド名)】(実行時の警告・エラーメッセージのテーブル) msgNo, プロシージャ名, メッセージ, 処理方法			
【呼び出し元】 (フォーム) frm 放射性廃棄物等管理報告書			

【プロシージャ名】sp 放射性液体廃棄物 H3 以外全核種値更新			
【内容】 放射性廃棄物等管理報告(液体廃棄物)の“ ³ H 以外全核種”放出量を求めデータを更新する。 集計計算には「sp 放射性液体廃棄物 H3 以外全核種値集計」を呼び出している。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを更新する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを更新する報告四半期。
3	@facilityCode	smallint	データを更新する施設の施設コード。
【返値(フィールド名)】 なし			
【呼び出し元】 (フォーム) frm 放射性液体廃棄物追加入力 (プロシージャ) sp 放射性液体廃棄物データ作成			

【プロシージャ名】sp 放射性液体廃棄物 H3 以外全核種値集計			
【内容】 放射性廃棄物等管理報告(液体廃棄物)の“ ³ H 以外全核種”放出量を作成するための繰り返し処理をまとめたプロシージャ。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@curSmaller	bit	今集計に加える核種の DL 未満フラグ。
2	@curValue	real	今集計に加える核種のデータ。
(OUTPUT)3	@allSmaller	bit	³ H 以外全核種の DL 未満フラグ。(入力値も使う)
(OUTPUT)4	@allValue	real	³ H 以外全核種の放出量。(入力値も使う)
【返値(フィールド名)】 なし			
【呼び出し元】 (プロシージャ) sp 放射性液体廃棄物 H3 以外全核種値更新			

【プロシージャ名】sp 放射性液体廃棄物追加入力			
【内容】 放射性廃棄物等管理報告(液体廃棄物)データ作成処理では現れない(月報などとは別に報告される)核種の追加入力用データを取得する。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。
【返値(フィールド名)】 施設コード, 施設名, H3 以外全核種 DL 未満, H3 以外全核種, Cr51DL 未満, Cr51, Mn54DL 未満, Mn54, Fe59DL 未満, Fe59, Co58DL 未満, Co58, Co60DL 未満, Co60, I131DL 未満, I131, Cs134DL 未満, Cs134, Cs137DL 未満, Cs137, その他, H3DL 未満, H3			
【呼び出し元】 (フォーム) frm 放射性液体廃棄物追加入力			

【プロシージャ名】sp 放射性液体廃棄物			
【内容】 放射性廃棄物等管理報告(液体廃棄物)のデータを取得する。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@type	tinyint	次の施設のデータを取得する。 =1：稼働中の報告施設で放射性廃棄物処理場じゃない施設。 =2：稼働中の報告施設で放射性廃棄物処理場の施設。 =3：報告設定があるが稼働中じゃない施設（解体中の施設など）。
2	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
3	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。
【返値(フィールド名)】 施設名表記, 注記載, H3 以外全核種 DL 未満, H3 以外全核種, Cr51DL 未満, Cr51, Mn54DL 未満, Mn54, Fe59DL 未満, Fe59, Co58DL 未満, Co58, Co60DL 未満, Co60, I131DL 未満, I131, Cs134DL 未満, Cs134, Cs137DL 未満, Cs137, その他, H3DL 未満, H3, 備考			
【呼び出し元】 (レポート) rsub 放射性液体廃棄物放出量 P1_1, rsub 放射性液体廃棄物放出量 P1_2, rsub 放射性液体廃棄物放出量 P1_3, rsub 放射性液体廃棄物放出量 P2_1, rsub 放射性液体廃棄物放出量 P2_2, rsub 放射性液体廃棄物放出量 P2_3			

【プロシージャ名】sp 放射性液体廃棄物原子炉施設合計			
【内容】 放射性廃棄物等管理報告(液体廃棄物)の原子炉施設合計を求める。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@page	tinyint	=1：報告書1ページ目用 =2：報告書2ページ目用
2	@nendo	smallint	データを処理する報告年度。
3	@quarter	smallint	データを処理する報告四半期。
【返値(フィールド名)】 H3 以外全核種 DL 未満, H3 以外全核種, Cr51DL 未満, Cr51, Mn54DL 未満, Mn54, Fe59DL 未満, Fe59, Co58DL 未満, Co58, Co60DL 未満, Co60, I131DL 未満, I131, Cs134DL 未満, Cs134, Cs137DL 未満, Cs137, その他, H3DL 未満, H3			
【呼び出し元】 (レポート) rsub 放射性液体廃棄物放出量 P1, rsub 放射性液体廃棄物放出量 P2			

4.12 保安既定に基づく報告通知処理

【プロシージャ名】sp 希ガス実効線量当量原子炉設定			
【内容】 希ガスによる実効線量当量を報告する原子炉の設定用データを取得する。			
【パラメータ】 なし			
【返値(フィールド名)】 排気口コード, γ線実効エネルギー, 放出管理目標値			
【呼び出し元】 (フォーム) frm 希ガス実効線量当量原子炉設定			

【プロシージャ名】sp γ 線実効エネルギー更新			
【内容】 「放出管理目標値との比較」季報データの γ 線実効エネルギーを入力値に更新する。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを更新する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを更新する報告四半期。
3	@exhaustCode	int	データを更新する原子炉の排気口コード。
4	@value	real	更新する γ 線実行エネルギーの値。
【返値(フィールド名)】 なし			
【呼び出し元】 (フォーム) frm 希ガス実効線量当量基準線量			

【プロシージャ名】sp 放出管理目標値更新			
【内容】 「放出管理目標値との比較」季報データの放出管理目標値を入力値に更新する。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを更新する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを更新する報告四半期。
3	@exhaustCode	int	データを更新する原子炉の排気口コード。
4	@value	real	更新する放出管理目標値。
【返値(フィールド名)】 なし			
【呼び出し元】 (フォーム) frm 希ガス実効線量当量基準線量			

【プロシージャ名】sp 希ガス実効線量当量報告原子炉			
【内容】 希ガスによる実効線量当量を報告する原子炉データを取得する。			
【パラメータ】 なし			
【返値(フィールド名)】 排気口コード, 施設名, 排気口名			
【呼び出し元】 (フォーム) frm 希ガス実効線量当量基準線量			

【プロシージャ名】sp 希ガス実効線量当量基準線量情報			
【内容】 希ガスによる実効線量当量計算用の基準線量に関わる次の情報を返す。 基準線量は入力されているかどうか 季報データ「放出管理目標値との比較(気体廃棄物)」が作成されているかどうか デフォルトの γ 線実効エネルギー デフォルトの放出管理目標値 この四半期データ用に与えられた γ 線実効エネルギー この四半期データ用に与えられた放出管理目標値			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容

1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。
3	@exhaustCode	int	データを取得する原子炉の排気口コード。
【返値(フィールド名)】 基準線量 OK, 季報データ OK, デフォルトγ線実効線量エネルギー, デフォルト放出管理目標値, 季報γ線実効線量エネルギー, 季報放出管理目標値			
【呼び出し元】 (フォーム) frm 希ガス実効線量当量基準線量			

【プロシージャ名】sp 希ガス実効線量当量基準線量			
【内容】 基準線量データを取得する。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。
3	@exhaustCode	int	データを取得する原子炉の排気口コード。
【返値(フィールド名)】 報告年度, 報告四半期, 排気口コード, 周辺監視区域境界コード, 基準線量, 累計基準線量			
【呼び出し元】 (フォーム) fsub 希ガス実効線量当量基準線量			

【プロシージャ名】sp 希ガス実効線量当量基準線量報告四半期			
【内容】 基準線量データが入力されている四半期と累計基準線量の入力レコード数を返す。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
【返値(フィールド名)】 報告四半期, 累計基準線量レコード数			
【呼び出し元】 (レポート) rep 基準線量一覧			

【プロシージャ名】sp 希ガス実効線量当量基準線量一覧場所名			
【内容】 基準線量データが入力されている周辺監視区域境界の名称を返す。 ただし、周辺監視区域境界は10箇所まで。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
【返値(フィールド名)】 場所名 1, 場所名 2, 場所名 3, 場所名 4, 場所名 5, 場所名 6, 場所名 7, 場所名 8, 場所名 9, 場所名 10			
【呼び出し元】 (レポート) rep 基準線量一覧, rsub 希ガス実効線量当量四半期 S6 以下, rsub 希ガス実効線量当量四半期 S7, rsub 希ガス実効線量当量四半期 S8, rsub 希ガス実効線量当量四半期 S9, rsub 希ガス実効線量当量四半期 S10, rsub 希ガス実効線量当量年度合計 S6 以下, rsub 希ガス実効線量当量年度合計 S7, rsub 希ガス実効線量当量年度合計 S8, rsub 希ガス実効線量当量年度合計 S9, rsub 希ガス実効線量当量年度合計 S10			

【プロシージャ名】sp 希ガス実効線量当量基準線量データ			
【内容】 基準線量データを取得する。ただし、周辺監視区域境界は10箇所まで。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。
【返値(フィールド名)】 排気口コード, 原子炉施設表記, 場所1値, 場所2値, 場所3値, 場所4値, 場所5値, 場所6値, 場所7値, 場所8値, 場所9値, 場所10値			
【呼び出し元】 (レポート) rsub 基準線量一覧四半期			

【プロシージャ名】sp 希ガス実効線量当量累計基準線量データ			
【内容】 累計基準線量データを取得する。ただし、周辺監視区域境界は10箇所まで。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。
【返値(フィールド名)】 排気口コード, 原子炉施設表記, 場所1値, 場所2値, 場所3値, 場所4値, 場所5値, 場所6値, 場所7値, 場所8値, 場所9値, 場所10値			
【呼び出し元】 (レポート) rsub 基準線量一覧年度合計			

【プロシージャ名】sp 希ガス実効線量当量監視地点数			
【内容】 希ガスによる実効線量当量を報告する周辺監視区域境界の地点数を返す。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。
【返値(フィールド名)】 監視地点数			
【呼び出し元】 (フォーム) frm 実効線量当量 (レポート) rep 基準線量一覧			

【プロシージャ名】sp 希ガス実効線量当量			
【内容】 希ガスによる実効線量当量データを取得する。ただし、周辺監視区域境界は10箇所まで。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。

3	@isQrtData	bit	=1 : 指定四半期分のデータ。 =0 : 第1四半期から指定四半期までの累計値
【返値(フィールド名)】 排気口コード, 原子炉施設表記, 放出管理目標値, 平均放出率, 放出量, 場所1値, 場所2値, 場所3値, 場所4値, 場所5値, 場所6値, 場所7値, 場所8値, 場所9値, 場所10値			
【呼び出し元】 (レポート) rsub 希ガス実効線量当量四半期 S6 以下, rsub 希ガス実効線量当量四半期 S7, rsub 希ガス実効線量当量四半期 S8, rsub 希ガス実効線量当量四半期 S9, rsub 希ガス実効線量当量四半期 S10, rsub 希ガス実効線量当量年度合計 S6 以下, rsub 希ガス実効線量当量年度合計 S7, rsub 希ガス実効線量当量年度合計 S8, rsub 希ガス実効線量当量年度合計 S9, rsub 希ガス実効線量当量年度合計 S10,			

【プロシージャ名】 sp 液体廃棄物実効線量当量			
【内容】 液体廃棄物による実効線量当量報告書における ^3H および実効線量当量の合計欄データを返す。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。
【返値(フィールド名)】 放出管理目標値, 四半期放出量, 年度合計放出量, 四半期実効線量当量, 年度合計実効線量当量, 四半期実効線量当量合計, 年度合計実効線量当量合計			
【呼び出し元】 (レポート) rep 液体廃棄物実効線量当量			

【プロシージャ名】 sp 液体廃棄物実効線量当量 HC 以外核種			
【内容】 液体廃棄物による実効線量当量報告書における $^3\text{H} \cdot ^{14}\text{C}$ 以外の核種のデータを返す。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。
【返値(フィールド名)】 核種コード, 分子量表記, 元素表記, 放出管理目標値, 四半期放出量, 年度合計放出量, 四半期実効線量当量, 年度合計実効線量当量			
【呼び出し元】 (レポート) rsubHC 以外核種実効線量当量			

【プロシージャ名】 sp 液体廃棄物実効線量当量詳細			
【内容】 液体廃棄物による実効線量当量の詳細データを返す。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。
【返値(フィールド名)】 核種コード, 分子量表記, 元素表記, 放出管理目標値, 四半期放出量, 年度合計放出量, 実効線量係数, 四半期実効線量当量, 年度合計実効線量当量			

【呼び出し元】 (レポート) rep 液体廃棄物実効線量当量
--

【プロシージャ名】 sp 液体廃棄物実効線量当量詳細合計値			
【内容】 液体廃棄物による実効線量当量の詳細データ用合計値を返す。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを取得する報告年度。
2	@quarter	smallint	データを取得する報告四半期。
【返値(フィールド名)】 四半期放出量合計, 年度合計放出量合計, 四半期実効線量当量合計, 年度合計実効線量当量合計, 含 C 四半期放出量合計, 含 C 年度合計放出量合計, 含 C 四半期実効線量当量合計, 含 C 年度合計実効線量当量合計			
【呼び出し元】 (レポート) rep 液体廃棄物実効線量当量詳細			

4.12 報告データの最大値検索処理

【プロシージャ名】 sp 最大値_放出塵埃最大濃度			
【内容】 放出塵埃の最大濃度データにおける最大値を検索する。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@startDay	datetime	最大値検索期間の開始日。
2	@endDay	datetime	最大値検索期間の終了日。
3	@exhaustCode	int	最大値を検索する施設の排気口コード。
【返値(フィールド名)】 施設名, 核種, 分子量表記, 元素表記, 最大値 DL 未満, 最大値, 最大値報告年月, 最大値報告年月重複数			
【呼び出し元】 (フォーム) frm 放出塵埃ガス記録最大値検索, fsub 放出塵埃ガス濃度系最大値 (レポート) rep 放出塵埃ガス濃度系最大値			

【プロシージャ名】 sp 最大値_放出塵埃平均濃度			
【内容】 放出塵埃の平均濃度データにおける最大値を検索する。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@startDay	datetime	最大値検索期間の開始日。
2	@endDay	datetime	最大値検索期間の終了日。
3	@exhaustCode	int	最大値を検索する施設の排気口コード。
【返値(フィールド名)】 施設名, 核種, 分子量表記, 元素表記, 最大値 DL 未満, 最大値, 最大値報告年月, 最大値報告年月重複数			
【呼び出し元】 (フォーム) frm 放出塵埃ガス記録最大値検索, fsub 放出塵埃ガス濃度系最大値 (レポート) rep 放出塵埃ガス濃度系最大値			

【プロシージャ名】 sp 最大値_放出塵埃放出量			
【内容】 放出塵埃の放出量データにおける最大値を検索する。			

【パラメータ】		変数名	データ型	内容
1		@startDay	datetime	最大値検索期間の開始日。
2		@endDay	datetime	最大値検索期間の終了日。
3		@exhaustCode	int	最大値を検索する施設の排気口コード。
【返値(フィールド名)】				
施設名, 核種, 分子量表記, 元素表記, 最大値, 最大値報告年月, 最大値報告年月重複数				
【呼び出し元】				
(フォーム) frm 放出塵埃ガス記録最大値検索, fsub 放出塵埃ガス放出量最大値				
(レポート) rep 放出塵埃ガス放出量最大値				

【プロシージャ名】sp 最大値_放出ガス最大濃度				
【内容】				
放出ガスの最大濃度データにおける最大値を検索する。				
【パラメータ】		変数名	データ型	内容
1		@startDay	datetime	最大値検索期間の開始日。
2		@endDay	datetime	最大値検索期間の終了日。
3		@exhaustCode	int	最大値を検索する施設の排気口コード。
【返値(フィールド名)】				
施設名, 核種, 分子量表記, 元素表記, 最大値 DL 未満, 最大値, 最大値報告年月, 最大値報告年月重複数				
【呼び出し元】				
(フォーム) frm 放出塵埃ガス記録最大値検索, fsub 放出塵埃ガス濃度系最大値				
(レポート) rep 放出塵埃ガス濃度系最大値				

【プロシージャ名】sp 最大値_放出ガス平均濃度				
【内容】				
放出ガスの平均濃度データにおける最大値を検索する。				
【パラメータ】		変数名	データ型	内容
1		@startDay	datetime	最大値検索期間の開始日。
2		@endDay	datetime	最大値検索期間の終了日。
3		@exhaustCode	int	最大値を検索する施設の排気口コード。
【返値(フィールド名)】				
施設名, 核種, 分子量表記, 元素表記, 最大値 DL 未満, 最大値, 最大値報告年月, 最大値報告年月重複数				
【呼び出し元】				
(フォーム) frm 放出塵埃ガス記録最大値検索, fsub 放出塵埃ガス濃度系最大値				
(レポート) rep 放出塵埃ガス濃度系最大値				

【プロシージャ名】sp 最大値_放出ガス放出量				
【内容】				
放出ガスの放出量データにおける最大値を検索する。				
【パラメータ】		変数名	データ型	内容
1		@startDay	datetime	最大値検索期間の開始日。
2		@endDay	datetime	最大値検索期間の終了日。
3		@exhaustCode	int	最大値を検索する施設の排気口コード。
【返値(フィールド名)】				
施設名, 核種, 分子量表記, 元素表記, 最大値, 最大値報告年月, 最大値報告年月重複数				

【呼び出し元】

(フォーム) frm 放出塵埃ガス記録最大値検索, fsub 放出塵埃ガス放出量最大値
 (レポート) rep 放出塵埃ガス放出量最大値

【プロシージャ名】 sp 最大値_放出廃液**【内容】**

放出廃液データにおける最大値を検索する。

【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@startDay	datetime	最大値検索期間の開始日。
2	@endDay	datetime	最大値検索期間の終了日。
3	@sewerNo	smallint	最大値を検索する排水溝。 ただし、=0 の場合は、施設を検索対象にする。
4	@facilityCode	int	最大値を検索する施設の施設コード。 施設検索時 (@sewerNo=0) の時に有効。
5	@dataCategory	tinyint	最大値を検索するデータ項目。 =1 : 一日平均最大 =2 : 平均濃度 =3 : 放出量

【返値(フィールド名)】

場所名, 核種, 分子量表記, 元素表記, 検出状態, 最大値, 最大値報告年月, 最大値報告年月重複数

【呼び出し元】

(フォーム) fsub 放出廃液最大値
 (レポート) rep 放出廃液データ最大値

【プロシージャ名】 sp 最大値_放出塵埃 Sr 分析平均濃度**【内容】**

放出塵埃中の Sr 分析結果の平均濃度データにおける最大値を検索する。

【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@startDay	datetime	最大値検索期間の開始日。
2	@endDay	datetime	最大値検索期間の終了日。
3	@exhaustCode	int	最大値を検索する施設の排気口コード。

【返値(フィールド名)】

施設名, 核種, 分子量表記, 元素表記, 最大値 DL 未満, 最大値, 最大値報告年月, 最大値報告年月重複数

【呼び出し元】

(フォーム) frm 放出塵埃ガス記録最大値検索, fsub 放出塵埃ガス濃度系最大値
 (レポート) rep 放出塵埃ガス濃度系最大値

【プロシージャ名】 sp 最大値_放出塵埃 Sr 分析放出量**【内容】**

放出塵埃中の Sr 分析結果の放出量データにおける最大値を検索する。

【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@startDay	datetime	最大値検索期間の開始日。
2	@endDay	datetime	最大値検索期間の終了日。
3	@exhaustCode	int	最大値を検索する施設の排気口コード。

【返値(フィールド名)】

施設名, 核種, 分子量表記, 元素表記, 最大値, 最大値報告年月, 最大値報告年月重複数

【呼び出し元】

(フォーム) frm 放出塵埃ガス記録最大値検索, fsub 放出塵埃ガス放出量最大値
(レポート) rep 放出塵埃ガス放出量最大値

【プロシージャ名】sp 最大値_放出廃液 Sr 分析

【内容】

放出廃液中の Sr 分析結果データにおける最大値を検索する。

【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@startDay	datetime	最大値検索期間の開始日。
2	@endDay	datetime	最大値検索期間の終了日。
3	@sewerNo	smallint	最大値を検索する排水溝。 ただし、=0 の場合は、施設を検索対象にする。
4	@facilityCode	int	最大値を検索する施設の施設コード。 施設検索 (@sewerNo=0) の時に有効。
5	@dataCategory	tinyint	最大値を検索するデータ項目。 =2 : 平均濃度 =3 : 放出量

【返値(フィールド名)】

場所名, 核種, 分子量表記, 元素表記, 検出状態,
最大値 DL 未満, 最大値, 最大値報告年月, 最大値報告年月重複数

【呼び出し元】

(フォーム) fsub 放出廃液 Sr 分析最大値
(レポート) rep 放出廃液 Sr 分析最大値

4.13 報告データのグラフ処理

【プロシージャ名】sp グラフ_放出塵埃ガス選択核種リスト

【内容】

放出塵埃、放出ガス、放出塵埃中の Sr 分析結果データにおいて、グラフ化対象核種のリストを返す。

【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@dustOrGas	tinyint	取得元のデータ。 =1 : 放出塵埃 =2 : 放出ガス =3 : 放出塵埃中の Sr 分析結果
2	@startDay	datetime	データ検索期間の開始日。
3	@endDay	datetime	データ検索期間の終了日。
4	@exhaustCode	int	データを検索する施設の排気口コード。

【返値(フィールド名)】

核種コード, 核種

【呼び出し元】

(フォーム) frm 放出塵埃ガス記録グラフ作成

【プロシージャ名】sp グラフ_放出塵埃ガスグラフ化核種

【内容】

グラフ化対象の複数の核種コードがカンマ区切りで記述された文字列(Access クライアントから渡される)を分解し、それらの核種のデータをレコードセットに変換して返す。

【パラメータ】	変数名	データ型	内容
---------	-----	------	----

1	@selNuclideList	nvarchar(255)	複数の核種コードがカンマ区切りで記述された文字列。
2	@exhaustCode	int	データをグラフ化する施設の排気口コード。
【返値(フィールド名)】 排気口名表記, 核種コード, 分子量表記, 元素表記			
【呼び出し元】 (フォーム) frm 放出塵埃グラフ, frm 放出ガスグラフ, frm 放出塵埃 Sr 分析グラフ			

【プロシージャ名】sp グラフ_放出塵埃			
【内容】 放出塵埃データからグラフ化するデータを取得する。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@startDay	datetime	データをグラフ化する期間の開始日。
2	@endDay	datetime	データをグラフ化する期間の終了日。
3	@dataCategory	tinyint	グラフ化するデータ項目。 =1: 濃度最大値 =2: 月平均濃度 =3: 放出量検出下限以上
4	@exhaustCode	int	データをグラフ化する施設の排気口コード。
5	@nuclideCode	int	データをグラフ化する核種の核種コード。
【返値(フィールド名)】 報告年月, 値			
【呼び出し元】 (フォーム) frm 放出塵埃グラフ			

【プロシージャ名】sp グラフ_放出ガス			
【内容】 放出ガスデータからグラフ化するデータを取得する。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@startDay	datetime	データをグラフ化する期間の開始日。
2	@endDay	datetime	データをグラフ化する期間の終了日。
3	@dataCategory	tinyint	グラフ化するデータ項目。 =1: 濃度最大値 =2: 月平均濃度 =3: 放出量検出下限以上
4	@exhaustCode	int	データをグラフ化する施設の排気口コード。
5	@nuclideCode	int	データをグラフ化する核種の核種コード。
【返値(フィールド名)】 報告年月, 値			
【呼び出し元】 (フォーム) frm 放出ガスグラフ			

【プロシージャ名】sp グラフ_放出廃液グラフ化核種			
【内容】 グラフ化対象の核種・検出状態の組を取得する。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容

1	@startDay	datetime	データをグラフ化する期間の開始日。
2	@endDay	datetime	データをグラフ化する期間の終了日。
3	@sewerNo	smallint	データをグラフ化する排水溝。 ただし、=0 の場合は、施設を対象にする。
4	@facilityCode	int	データをグラフ化する施設の施設コード。 施設のデータ (@sewerNo=0) の時に有効。
5	@dataCategory	tinyint	グラフ化するデータ項目。 =1：一日平均最大 =2：平均濃度 =3：放出量
【返値(フィールド名)】			
場所名, 核種コード, 核種, 分子量表記, 元素表記, 検出状態			
【呼び出し元】			
(フォーム) frm 放出廃液グラフ			

【プロシージャ名】 sp グラフ_放出廃液			
【内容】			
放出廃液データからグラフ化するデータを取得する。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@startDay	datetime	データをグラフ化する期間の開始日。
2	@endDay	datetime	データをグラフ化する期間の終了日。
3	@sewerNo	smallint	データをグラフ化する排水溝。 ただし、=0 の場合は、施設を対象にする。
4	@facilityCode	int	データをグラフ化する施設の施設コード。 施設のデータ (@sewerNo=0) の時に有効。
5	@dataCategory	tinyint	グラフ化するデータ項目。 =1：一日平均最大 =2：平均濃度 =3：放出量
6	@nuclideCode	int	データをグラフ化する核種の核種コード。
7	@detected	tinyint	報告核種の検出状態。=1：検出分 =0：不検出分
【返値(フィールド名)】			
報告年月, 値			
【呼び出し元】			
(フォーム) frm 放出廃液グラフ			

【プロシージャ名】 sp グラフ_放出塵埃 Sr 分析			
【内容】			
放出塵埃中の Sr 分析結果データからグラフ化するデータを取得する。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@startDay	datetime	データをグラフ化する期間の開始日。
2	@endDay	datetime	データをグラフ化する期間の終了日。
3	@dataCategory	tinyint	グラフ化するデータ項目。 =2：月平均濃度 =3：放出量検出下限以上
4	@exhaustCode	int	データをグラフ化する施設の排気口コード。
5	@nuclideCode	int	データをグラフ化する核種の核種コード。
【返値(フィールド名)】			
報告年月, 値			

【呼び出し元】

(フォーム) frm 放出塵埃 Sr 分析グラフ

【プロシージャ名】sp グラフ_放出廃液 Sr 分析グラフ化核種

【内容】

グラフ化対象の核種を取得する。

【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@startDay	datetime	データをグラフ化する期間の開始日。
2	@endDay	datetime	データをグラフ化する期間の終了日。
3	@sewerNo	smallint	データをグラフ化する排水溝。 ただし、=0 の場合は、施設を対象にする。
4	@facilityCode	int	データをグラフ化する施設の施設コード。 施設のデータ (@sewerNo=0) の時に有効。
5	@dataCategory	tinyint	グラフ化するデータ項目。 =2: 平均濃度 =3: 放出量

【返値(フィールド名)】

場所名, 核種コード, 核種, 分子量, 元素表記

【呼び出し元】

(フォーム) frm 放出廃液 Sr 分析グラフ

【プロシージャ名】sp グラフ_放出廃液 Sr 分析

【内容】

放出廃液中の Sr 分析結果データからグラフ化するデータを取得する。

【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@startDay	datetime	データをグラフ化する期間の開始日。
2	@endDay	datetime	データをグラフ化する期間の終了日。
3	@sewerNo	smallint	データをグラフ化する排水溝。 ただし、=0 の場合は、施設を対象にする。
4	@facilityCode	int	データをグラフ化する施設の施設コード。 施設のデータ (@sewerNo=0) の時に有効。
5	@dataCategory	tinyint	グラフ化するデータ項目。 =2: 平均濃度 =3: 放出量
6	@nuclideCode	int	データをグラフ化する核種の核種コード。

【返値(フィールド名)】

報告年月, 値

【呼び出し元】

(フォーム) frm 放出廃液 Sr 分析グラフ

【プロシージャ名】sp グラフ印刷用_放出塵埃

【内容】

放出塵埃データからグラフ化するデータを抽出し、グローバル一時テーブル##graphData へ格納する。

【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@startDay	datetime	データをグラフ化する期間の開始日。
2	@endDay	datetime	データをグラフ化する期間の終了日。

3	@dataCategory	tinyint	グラフ化するデータ項目。 =1:濃度最大値 =2:月平均濃度 =3:放出量検出下限以上
4	@exhaustCode	int	データをグラフ化する施設の排気口コード。
5	@nuclideCode	int	データをグラフ化する核種の核種コード。
【返値(フィールド名)】 なし			
【呼び出し元】 (フォーム) frm 放出塵埃グラフ			

【プロシージャ名】 sp グラフ印刷用_放出ガス			
【内容】 放出ガスデータからグラフ化するデータを抽出し、グローバル一時テーブル##graphData へ格納する。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@startDay	datetime	データをグラフ化する期間の開始日。
2	@endDay	datetime	データをグラフ化する期間の終了日。
3	@dataCategory	tinyint	グラフ化するデータ項目。 =1:濃度最大値 =2:月平均濃度 =3:放出量検出下限以上
4	@exhaustCode	int	データをグラフ化する施設の排気口コード。
5	@nuclideCode	int	データをグラフ化する核種の核種コード。
【返値(フィールド名)】 なし			
【呼び出し元】 (フォーム) frm 放出ガスグラフ			

【プロシージャ名】 sp グラフ印刷用_放出廃液			
【内容】 放出廃液データからグラフ化するデータを抽出し、グローバル一時テーブル##graphData へ格納する。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@startDay	datetime	データをグラフ化する期間の開始日。
2	@endDay	datetime	データをグラフ化する期間の終了日。
3	@sewerNo	smallint	データをグラフ化する排水溝。 ただし、=0 の場合は、施設を対象にする。
4	@facilityCode	int	データをグラフ化する施設の施設コード。 施設のデータ (@sewerNo=0) の時に有効。
5	@dataCategory	tinyint	グラフ化するデータ項目。 =1:一日平均最大 =2:平均濃度 =3:放出量
6	@nuclideCode	int	データをグラフ化する核種の核種コード。
7	@detected	tinyint	報告核種の検出状態。=1:検出分 =0:不検出分
【返値(フィールド名)】 なし			
【呼び出し元】 (フォーム) frm 放出廃液グラフ			

【プロシージャ名】sp グラフ印刷用_放出塵埃 Sr 分析			
【内容】 放出塵埃中の Sr 分析結果データからグラフ化するデータを抽出し、グローバル一時テーブル ##graphData へ格納する。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@startDay	datetime	データをグラフ化する期間の開始日。
2	@endDay	datetime	データをグラフ化する期間の終了日。
3	@dataCategory	tinyint	グラフ化するデータ項目。 =2: 月平均濃度 =3: 放出量検出下限以上
4	@exhaustCode	int	データをグラフ化する施設の排気口コード。
5	@nuclideCode	int	データをグラフ化する核種の核種コード。
【返値(フィールド名)】 なし			
【呼び出し元】 (フォーム) frm 放出塵埃 Sr 分析グラフ			

【プロシージャ名】sp グラフ印刷用_放出廃液 Sr 分析			
【内容】 放出廃液中の Sr 分析結果データからグラフ化するデータを抽出し、グローバル一時テーブル ##graphData へ格納する。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@startDay	datetime	データをグラフ化する期間の開始日。
2	@endDay	datetime	データをグラフ化する期間の終了日。
3	@sewerNo	smallint	データをグラフ化する排水溝。 ただし、=0 の場合は、施設を対象にする。
4	@facilityCode	int	データをグラフ化する施設の施設コード。 施設のデータ (@sewerNo=0) の時に有効。
5	@dataCategory	tinyint	グラフ化するデータ項目。 =2: 平均濃度 =3: 放出量
6	@nuclideCode	int	データをグラフ化する核種の核種コード。
【返値(フィールド名)】 なし			
【呼び出し元】 (フォーム) frm 放出廃液 Sr 分析グラフ			

【プロシージャ名】sp グラフ印刷用_データ取得			
【内容】 グラフ化するデータが格納されているグローバル一時テーブル ##graphData からデータを取得する。			
【パラメータ】 なし			
【返値(フィールド名)】 報告年月, 値			

【呼び出し元】

(レポート) rep 放出塵埃グラフ, rep 放出ガスグラフ, rep 放出廃液グラフ,
rep 放出塵埃 Sr 分析グラフ, rep 放出廃液 Sr 分析グラフ

4.13 その他共通処理

【プロシージャ名】 spDCount**【内容】**

DCount 関数(Access にある定義域集計関数)と同等の機能を実現するためのプロシージャ。
指定された定義域に含まれるレコード数を返す。

【パラメータ】

変数名	データ型	内容
1	@domain	nvarchar(50)
2	@criteria	nvarchar(250)

定義域。テーブル名やビュー名。
データの範囲を指定する文字列式。SQL 文の WHERE 句になる。省略可能。

【返値(フィールド名)】

(列名なし)レコード数

【呼び出し元】

(フォーム) frm 季報作成, frm 実効線量当量, frm 放射線管理等報告書, frm 放射性廃棄物等管理報告書
(レポート) rep 液体廃棄物放出管理目標値比較, rep 補正データ施設毎放出廃液,
rep 補正データ排水溝毎放出廃液, rep 補正データ放出廃液 Sr 分析
(標準モジュール) basOutCSVFormat(makeCompareLimitOnLiquidCSV)

【プロシージャ名】 spLocalRound**【内容】**

浮動小数点型データを E(指数)形式で表示するために、指定有効桁で四捨五入する。桁落ちにも対応。

【パラメータ】

変数名	データ型	内容
1	@value	real
2	@keta	int
(OUTPUT)3	@retValue	int

四捨五入する値。
仮数部の表示小数点以下桁 (省略時=1)。
(出力) E 形式で表示した値 (文字列)。

【返値(フィールド名)】

なし

【呼び出し元】

(プロシージャ) sp 一般排水 DS 月間報告核種放出量計, sp 一般排水放出量比較,
sp 液体廃棄物実効線量当量, sp 液体廃棄物実効線量当量詳細合計値,
sp 希ガス実効線量当量, sp 季報作成_施設毎廃液記録, sp 季報作成_施設毎廃液量,
sp 季報作成_所外施設廃液記録, sp 季報作成_年間処理ガス,
sp 季報作成_年間処理塵埃, sp 季報作成_廃液記録一日平均最大,
sp 季報作成_排水溝毎廃液記録, sp 季報作成_排水溝毎廃液量, sp 季報作成_放出ガス,
sp 季報作成_放出管理目標値液体, sp 季報作成_放出管理目標値気体,
sp 季報作成_放出塵埃, sp 季報作成_放出塵埃 Sr 分析, sp 季報作成_放出廃液 Sr 分析,
sp 排気中放射性核種最高濃度更新, sp 排気中放射性核種分析結果作成,
sp 排水溝廃液量取得, sp 排水中放射性主要核種分析結果作成,
sp 放射性液体廃棄物 H3 以外全核種値更新, sp 放射性気体廃棄物データ作成,
sp 放射線管理等報告排水溝データ作成

【プロシージャ名】sp レポートヘッダー取得			
【内容】 各報告書で使用しているレポートヘッダーおよびフッターのデータを取得する。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@reportID	int	ヘッダーフッターを取得するレポートを識別する番号。
【返値(フィールド名)】 レポート名, ヘッダー, ヘッダー高さ, フッター, フッター高さ			
【呼び出し元】 (フォーム) frm レポートヘッダー編集			

【プロシージャ名】sp 希釈倍率			
【内容】 排水溝の希釈倍率を返す。			
【パラメータ】	変数名	データ型	内容
1	@nendo	smallint	データを求める報告年度。
2	@quarter	smallint	データを求める報告四半期。
3	@sewerNo	smallint	既定値は Null。ここに排水溝を指定した場合は、パラメータ@dilutionRate に指定した排水溝の希釈倍率を返す。
(OUTPUT)4	@dilutionRate	real	(出力)希釈倍率の値。@sewerNo 指定時に有効。
【返値(フィールド名)】 (@sewerNo を指定していない場合) 第 1 排水溝, 第 2 排水溝, 第 3 排水溝			
【呼び出し元】 (フォーム) frm 排水中放射性核種 (プロシージャ) sp 放射線管理等報告排水溝データ作成			

国際単位系 (SI) と換算表

表1 SI基本単位および補助単位

量	名 称	記 号
長さ	メートル	m
質量	キログラム	kg
時間	秒	s
電流	アンペア	A
熱力学温度	ケルビン	K
物質の量	モル	mol
光度	カンデラ	cd
平面角	ラジアン	rad
立体角	ステラジアン	sr

表3 固有の名称をもつSI組立単位

量	名 称	記号	他のSI単位 による表現
周波数	ヘルツ	Hz	s ⁻¹
力	ニュートン	N	m・kg/s ²
圧力, 応力	パスカル	Pa	N/m ²
エネルギー, 仕事, 熱量	ジュール	J	N・m
工率, 放射束	ワット	W	J/s
電気量, 電荷	クーロン	C	A・s
電位, 電圧, 起電力	ボルト	V	W/A
静電容量	ファラド	F	C/V
電気抵抗	オーム	Ω	V/A
コンダクタンス	ジーメン	S	A/V
磁束	ウェーバ	Wb	V・s
磁束密度	テスラ	T	Wb/m ²
インダクタンス	ヘンリー	H	Wb/A
セルシウス温度	セルシウス度	°C	
光束	ルーメン	lm	cd・sr
照射度	ルクス	lx	lm/m ²
放射線量	ベクレル	Bq	s ⁻¹
吸収線量	グレイ	Gy	J/kg
線量等量	シーベルト	Sv	J/kg

表2 SIと併用される単位

名 称	記 号
分, 時, 日	min, h, d
度, 分, 秒	°, ', "
リットル	l, L
トン	t
電子ボルト	eV
原子質量単位	u

$$1 \text{ eV} = 1.60218 \times 10^{-19} \text{ J}$$

$$1 \text{ u} = 1.66054 \times 10^{-27} \text{ kg}$$

表4 SIと共に暫定的に維持される単位

名 称	記 号
オングストローム	Å
バ	b
バ	bar
ガリ	Gal
キュリー	Ci
レントゲン	R
ラド	rad
レム	rem

$$1 \text{ Å} = 0.1 \text{ nm} = 10^{-10} \text{ m}$$

$$1 \text{ b} = 100 \text{ fm}^2 = 10^{-28} \text{ m}^2$$

$$1 \text{ bar} = 0.1 \text{ MPa} = 10^5 \text{ Pa}$$

$$1 \text{ Gal} = 1 \text{ cm/s}^2 = 10^{-2} \text{ m/s}^2$$

$$1 \text{ Ci} = 3.7 \times 10^{10} \text{ Bq}$$

$$1 \text{ R} = 2.58 \times 10^{-4} \text{ C/kg}$$

$$1 \text{ rad} = 1 \text{ cGy} = 10^{-2} \text{ Gy}$$

$$1 \text{ rem} = 1 \text{ cSv} = 10^{-2} \text{ Sv}$$

表5 SI接頭語

倍数	接頭語	記 号
10 ¹⁸	エクサ	E
10 ¹⁵	ペタ	P
10 ¹²	テラ	T
10 ⁹	ギガ	G
10 ⁶	メガ	M
10 ³	キロ	k
10 ²	ヘクト	h
10 ¹	デカ	da
10 ⁻¹	デシ	d
10 ⁻²	センチ	c
10 ⁻³	ミリ	m
10 ⁻⁶	マイクロ	μ
10 ⁻⁹	ナノ	n
10 ⁻¹²	ピコ	p
10 ⁻¹⁵	フェムト	f
10 ⁻¹⁸	アト	a

(注)

- 表1-5は「国際単位系」第5版, 国際度量衡局1985年刊行による。ただし, 1 eV および 1 u の値はCODATAの1986年推奨値によった。
- 表4には海里, ノット, アール, ヘクタールも含まれているが日常の単位なのでここでは省略した。
- bar は, JISでは流体の圧力を表わす場合に限り表2のカテゴリーに分類されている。
- E C閣僚理事会指令では bar, barn および「血圧の単位」mmHgを表2のカテゴリーに入れている。

換 算 表

力	N (=10 ⁵ dyn)	kgf	lbf
	1	0.101972	0.224809
	9.80665	1	2.20462
	4.44822	0.453592	1

$$\text{粘 度 } 1 \text{ Pa} \cdot \text{s} (\text{N} \cdot \text{s/m}^2) = 10 \text{ P (ポアズ)} (\text{g}/(\text{cm} \cdot \text{s}))$$

$$\text{動粘度 } 1 \text{ m}^2/\text{s} = 10^4 \text{ St (ストークス)} (\text{cm}^2/\text{s})$$

圧	MPa (=10 bar)	kgf/cm ²	atm	mmHg (Torr)	lbf/in ² (psi)
	1	10.1972	9.86923	7.50062 × 10 ³	145.038
力	0.0980665	1	0.967841	735.559	14.2233
	0.101325	1.03323	1	760	14.6959
	1.33322 × 10 ⁻⁴	1.35951 × 10 ⁻³	1.31579 × 10 ⁻³	1	1.93368 × 10 ⁻²
	6.89476 × 10 ⁻³	7.03070 × 10 ⁻²	6.80460 × 10 ⁻²	51.7149	1

エネルギー・仕事・熱量	J (=10 ⁷ erg)	kgf・m	kW・h	cal (計量法)	Btu	ft・lbf	eV
	1	0.101972	2.77778 × 10 ⁻⁷	0.238889	9.47813 × 10 ⁻⁴	0.737562	6.24150 × 10 ¹⁸
	9.80665	1	2.72407 × 10 ⁻⁶	2.34270	9.29487 × 10 ⁻³	7.23301	6.12082 × 10 ¹⁹
	3.6 × 10 ⁶	3.67098 × 10 ⁵	1	8.59999 × 10 ⁵	3412.13	2.65522 × 10 ⁶	2.24694 × 10 ²⁵
	4.18605	0.426858	1.16279 × 10 ⁻⁶	1	3.96759 × 10 ⁻³	3.08747	2.61272 × 10 ¹⁹
	1055.06	107.586	2.93072 × 10 ⁻⁴	252.042	1	778.172	6.58515 × 10 ²¹
	1.35582	0.138255	3.76616 × 10 ⁻⁷	0.323890	1.28506 × 10 ⁻³	1	8.46233 × 10 ¹⁸
	1.60218 × 10 ⁻¹⁹	1.63377 × 10 ⁻²⁰	4.45050 × 10 ⁻²⁶	3.82743 × 10 ⁻²⁰	1.51857 × 10 ⁻²²	1.18171 × 10 ⁻¹⁹	1

$$1 \text{ cal} = 4.18605 \text{ J (計量法)}$$

$$= 4.184 \text{ J (熱化学)}$$

$$= 4.1855 \text{ J (15°C)}$$

$$= 4.1868 \text{ J (国際蒸気表)}$$

$$\text{仕事率 } 1 \text{ PS (馬力)}$$

$$= 75 \text{ kgf} \cdot \text{m/s}$$

$$= 735.499 \text{ W}$$

放射能	Bq	Ci
	1	2.70270 × 10 ⁻¹¹
	3.7 × 10 ¹⁰	1

吸収線量	Gy	rad
	1	100
	0.01	1

照射線量	C/kg	R
	1	3876
	2.58 × 10 ⁻⁴	1

線量当量	Sv	rem
	1	100
	0.01	1

(86年12月26日現在)

放射線管理用排気・排水データベースシステムの開発



古紙配合率100%再生紙を使用しています